

1. はじめに

1.1. はじめに

千手オフライザは、千手ブラウザと同様の操作性のGUI画面を用いてSenju DevOperation Conductor/イベント、Senju DevOperation Conductor/ジョブスケジュール、Senju DevOperation Conductor/コンフィグレーション、Senju DevOperation Conductor/モニタリング、Senju DevOperation Conductor/ITリレーションの定義データを作成することができます。千手オフライザは、千手マネージャとの接続環境のないオフライン環境下で使用できるため、例えば自席のPC上などのローカル環境で手軽に定義データの作成・参照・確認を行うことができます。

本書では、千手オフライザを用いて、イベント定義データ、ジョブスケジュール定義データ、コンフィグレーション定義データ、モニタリング定義データ、ITリレーション定義データを作成・参照・確認する方法について記載しています。

1.2. 読者の対象

本書はSenju DevOperation Conductorを利用している方のためのものです。従って本書の読者は、下記のSenju DevOperation Conductorに関する知識を有していることを前提にしています。

- Senju DevOperation Conductorの各種コンポーネント(千手ブラウザ、千手マネージャ、千手エージェント)
- Senju DevOperation Conductorの共通機能
- Senju DevOperation Conductorのイベント機能
- Senju DevOperation Conductorのジョブスケジュール機能
- Senju DevOperation Conductorのコンフィグレーション機能
- Senju DevOperation Conductorのモニタリング機能
- Senju DevOperation ConductorのITリレーション機能

1.3. 関連資料

本書を参照するにあたっては、以下の各マニュアルなどを参照して下さい。

- 「Senju DevOperation Conductor」リリースノート
- 「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイド

1.4. 制限事項

千手オフライザを利用するにあたって、次のような制限事項および注意事項があります。ご注意ください。

- 千手オフライザの動作には、64bit版の Microsoft Visual C++ 2015-2022 再頒布パッケージをインストールする必要があります。

1.5. 千手マネージャのバージョン

千手オフライザを用いて、以下の千手マネージャのバージョンのモニタリング/イベント/ジョブスケジュール/コンフィグレーション/ITリレーションのデータを作成・参照・確認することができます。

- Senju Operation Conductor 2013、2014
- Senju DevOperation Conductor 2016、2018、2020、2021

2. 千手オフィザの概要

2.1. システム構成例

千手オフィザは、千手マネージャとの接続環境のないオフライン環境下で使用することができます。

例えば下記の図のようなシステム構成において、開発環境の自席PC上などで手軽にジョブデータの作成を行うことができます。そのデータをテキストファイルに書き出したり、千手オフィザファイルのまま、本番環境の千手ブラウザでファイルの読み込みを実施することができ、効率的なジョブデータの受け渡しを行うことが可能です。

また、本番環境に登録されているジョブデータを書き出したファイルや千手オフィザファイルを受け取り、自席PC上の千手オフィザでファイル読み込みを実施することにより、本番環境のジョブデータの参照・確認を容易に行うことができます。

千手オフィザは、千手ブラウザと同様のGUIを用いているため、開発担当者と運用担当者ととの円滑なコミュニケーションを行うことが可能になります。

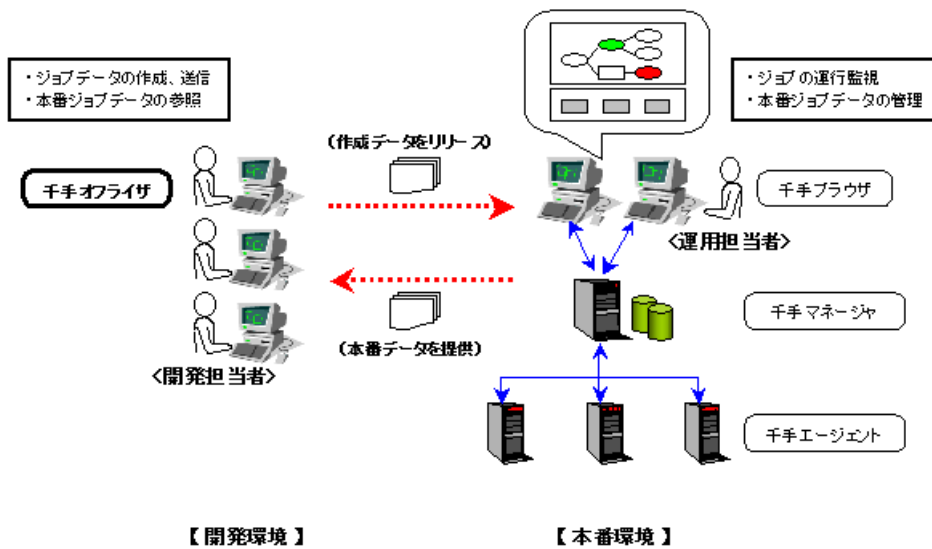


図 2.1 千手オフィザを用いたシステム構成例

2.2. オフライザの概要

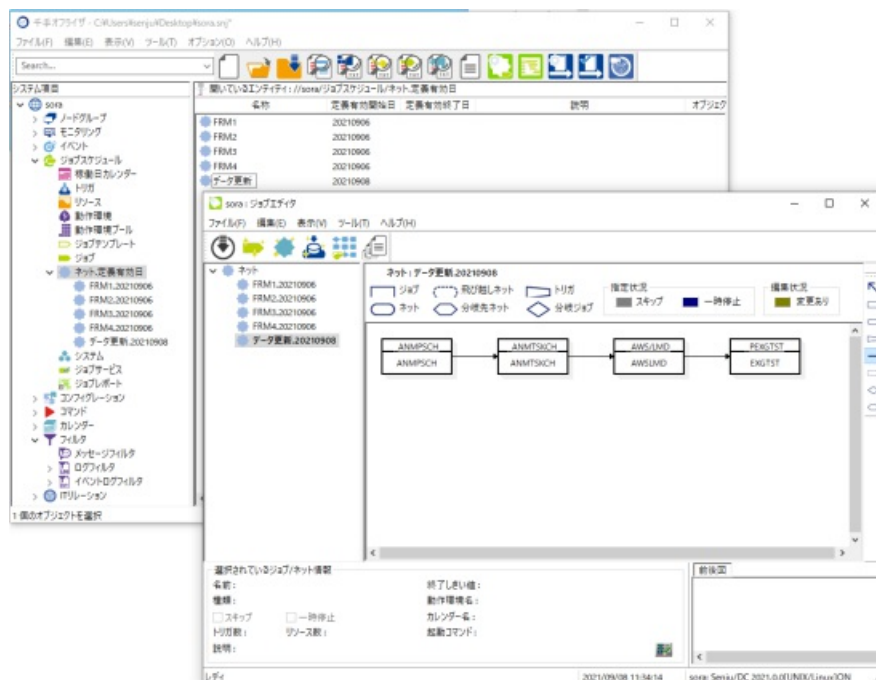


図 2.2 千手オフライザの画面

千手オフライザを用いることにより、以下のような効果をもたらすことができます。

- 開発担当者が自席PC上で、容易にモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータを作成
- 開発担当者が作成したデータを元に、運用担当者がそのまま本番環境にデータ読み込みを実施することができるため、運用担当者による手動登録作業時のミス・誤認識を削減
- 開発担当者が運用担当者から本番環境のモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータを受け取り、自席PC上で参照・確認を行うことが可能
- 開発担当者と運用担当者が、同様のGUI画面を用いた円滑なコミュニケーションを行うことが可能
- 千手マネージャの本番環境が構築される前でも、モニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータの作成・準備を進めることが可能
- 開発担当者が自席PC上で、担当する複数プロジェクトのモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータを、いつでも必要ときに開いて参照することが可能
- Senju DevOperation Conductorのモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータ作成に関する要員教育・育成

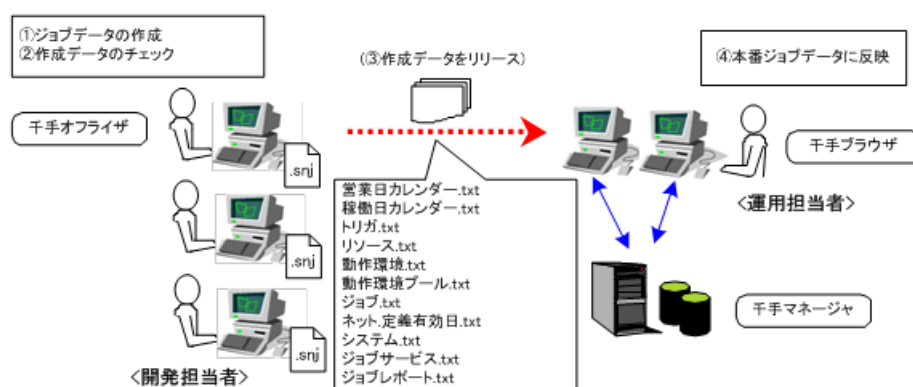


図 2.3 ジョブデータの作成→チェック→リリース→千手マネージャへの反映

千手オフライザを用いた、各エンティティの「データの作成」→「データのチェック」→「データのリリース」→「千手マネージャ環境への反映」までの概要は、下記のとおりです。

• データの作成

モニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションの各構成要素(ノードグループ、ノード情報、カスタム監視項目、監視タスク、計算式、ログフィルタ、イベントログフィルタ、週間スケジュール、タスクスケジュール、メッセージ、営業日カレンダー、メッセージアクション、メールテンプレート、メール連絡先、連絡先グループ、セクションテンプレート、ブック、メッセージフィルタ、動作環境、カレンダー、トリガ、ジョブ、ネット、システム、構成管理ノード、接続設定、構成管理項目、実行ユニット、履歴表示設定、アイテムグループ、アイテム、リレーションなど)のデータ作成を、千手ブラウザと同様のGUI操作性で行うことができます。

作成したデータは、必要なタイミングで名前を付けて千手オフライザファイル(拡張子.snj)およびJSONファイル(拡張子.json)として保存することができます。保存した千手オフライザデータファイルを開くことにより、作成したデータの参照・編集作業の継続を行うことができます。

• データのチェック

作成したデータに誤りがないかをチェックするために、千手オフライザでは下記のようなチェック機能をサポートしています。

1. 千手オフライザファイルやJSONファイル間の差分表示機能
2. 千手書き出しテキストファイルとの差分表示機能
3. ランブックチェックを使用したブックの分岐チェック
4. ネット定義データ間の差分出力機能
5. 稼働日一覧作成/トリガの参照先チェック機能を用いた運用日付毎のジョブ稼働日、およびトリガの参照先確認
6. 実行システム作成チェック機能
7. 関係する項目一覧作成機能
8. リレーションのシミュレーション機能

• データのリリース

千手オフライザでデータの作成・チェックが完了後、本番環境にリリースしたいモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータの書き出しを行います。本番環境の千手マネージャに反映するために、書き出されたテキストファイル、あるいは千手オフライザファイルを運用担当者に引き渡す必要があります。

上記のデータのチェック作業(1)もしくは(2)を実施後、一括して差分があるモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーションのデータのみを書き出す機能もサポートしています。

- 千手マネージャ環境への反映

運用担当者は、リリースされた上記のファイルを、千手ブラウザのデータの読み込み機能を用いて本番の千手マネージャ環境に反映させることができます。

警告

- 千手ブラウザで千手オフライザファイルの書き出し/読み込みを行うためには、千手ブラウザのバージョンがeXsenjuV2.5以降である必要があります。
- 千手ブラウザではJSON形式の千手オフライザ定義ファイルは読み込みできません。

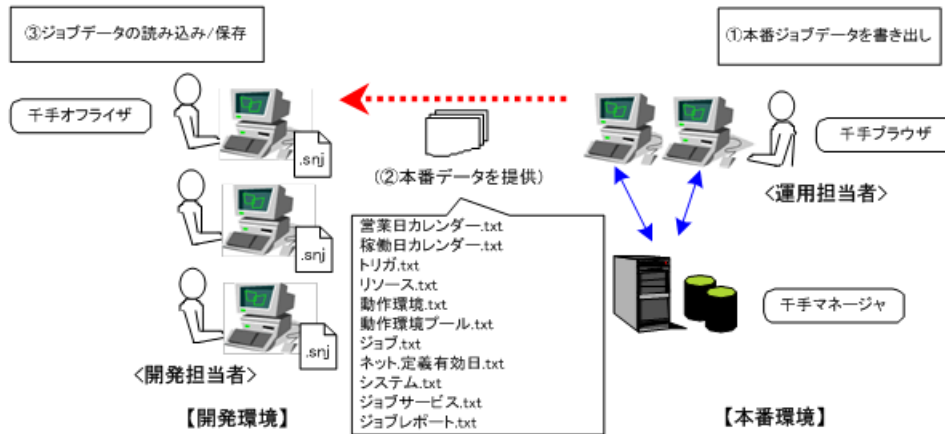


図 2.4 本番ジョブデータの書き出し→提供→読み込み/保存

本番の千手マネージャ環境のモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータを、「本番モニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションデータの書き出し」→「データの提供」→「モニタリング・イベント・ジョブ・コンフィグレーション・ITリレーションデータの読み込み/保存」により、開発担当者は本番ジョブデータの参照・確認を行うことができます。概要は、下記のとおりです。

- 本番モニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションデータの書き出し
運用担当者は、本番の千手マネージャ環境のモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータを、千手ブラウザのデータの書き出し機能を用いてテキストファイルや千手オフライザファイルとして書き出します。
- データの提供
上記のファイルを、運用担当者は開発担当者に提供します。
- モニタリング・イベント・ジョブ・コンフィグレーション・ITリレーションデータの読み込み/保存
開発担当者は千手オフライザでデータの読み込みを行い、本番環境のモニタリング／イベント／ジョブスケジュール／コンフィグレーション／ITリレーションのデータを千手オフライザ上で参照・確認を行うことができます。また、このデータを千手オフライザファイルとして名前を付けて保存することにより、次回 データ内容の参照・確認が必要な際に、保存した千手オフライザファイルをいつでも開くことが可能です。開発担当者と運用担当者が、同様のGUI画面を用いた円滑なコミュニケーションを行うことができます。

警告

千手ブラウザで千手オフライザファイルの書き出し/読み込みを行うためには、千手ブラウザのバージョンがeXsenjuV2.5以降である必要があります。

2.3. 千手オフライザの機能一覧

ここでは、千手オフライザで主に用いられる機能について概要を紹介します。

表 2.1 千手オフライザの主な機能一覧

分類	機能	用途
データの作成	千手オフライザウィンドウからのデータ作成	千手オフライザウィンドウから、各データの作成を行うことができます。
	ランブックエディタからのデータ作成	ランブックエディタを用い、先行関係をビジュアルに表示させながらセクション・チャ
	ジョブエディタからのデータ作成	ジョブエディタを用い、先行関係をビジュアルに表示させながらジョブ・ネット・トリガ
	データの読み込み	各データの書き出しファイルを入力として、データの読み込みを行うことができます
	データの一括読み込み	入力フォルダを指定して、データの一括読み込みを行ったり、千手オフライザファイ
	千手オフライザデータファイルの新規作成・開く・保存	各データを作成した結果を、千手オフライザファイル(拡張子.snj)やJSONファイル
	千手マネージャの新バージョンのデータ変換	千手オフライザファイルを開く際に、千手のバージョンを指定することにより、旧い
	ドメイン名の変更	千手ドメイン(千手マネージャ)の名称を、変更することが可能です。
	フィルタ設定	ユーザーに対して公開する範囲を絞りこむことができます。
	フィルタ管理ファイルの読み込み・保存	フィルタ設定をフィルタ管理ファイル(拡張子.snv)として保存することができます。
データのチェック	差分の表示	現在作成中のデータと、下記のデータとの差分表示を行うことができます。 -他の千手オフライザデータファイル(拡張子.snj または 拡張子.json)との比較 -千手書き出しテキストファイルとの比較
	ランブックチェックを使用したブックの分岐チェック	現在登録されているブックの分岐の動作チェックを行うことができます。
	ルールのシミュレーション	現在登録されているメッセージアクションの動作チェックをおこなうことができます。
	ネットの差分出力	作成したネット定義間の差分比較を行うことができます。
	稼働日一覧作成/トリガの参照先チェック	稼働日一覧作成機能を用いて、運用日付毎のジョブ稼働日、およびトリガの参
	実行システム作成チェック	登録されているシステムから実行システムが作成できるかのチェックを行うことがで
	関係する項目一覧作成	選択されているエンティティの関係する項目一覧を作成することができます。
	データのリリース	データの書き出し
データの一括書き出し		ファイル出力フォルダを指定して、データの一括書き出しを行うことができます。 差分の表示機能と組み合わせることにより、差分データのみを一括書き出しする

3. 千手オフライザ共通機能

ここでは、千手オフライザのメニュー項目やエンティティ項目など、共通的な千手オフライザの項目、機能について説明しています。

3.1. 千手オフライザのメニュー

千手オフライザのメニューを下記に示します。

メニューには、[ファイル]メニュー・[編集]メニュー・[表示]メニュー・[ツール]メニュー・[オプション]メニュー・[ヘルプ]メニューがあります。

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) ツール(T) オプション(O) ヘルプ(H)

図 3.1 千手オフライザのメニュー(1)

3.1.1. 千手オフライザ([ファイル]メニュー)

千手オフライザの[ファイル]メニューを下記の図に、内容を下記の表に示します。

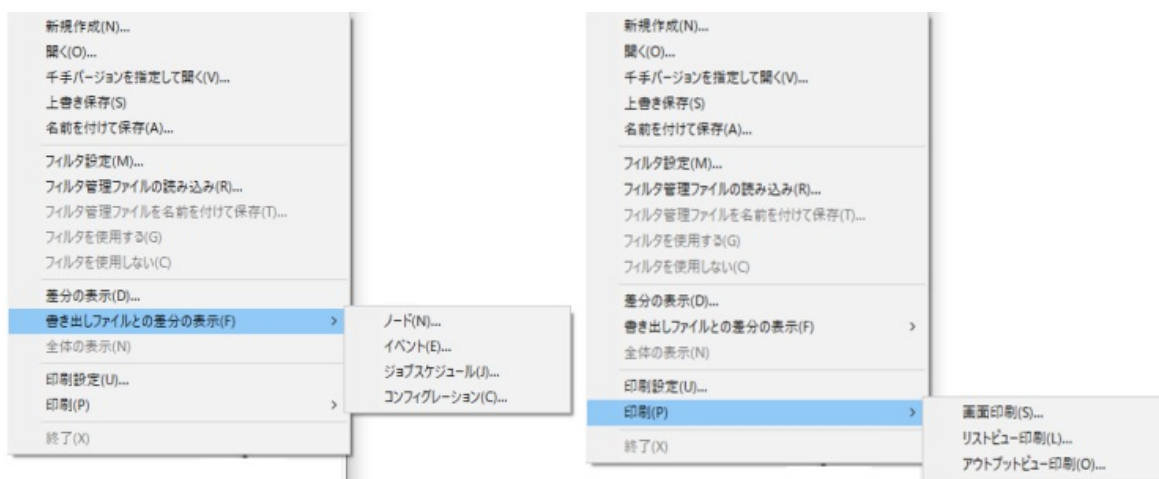


図 3.2 千手オフライザ([ファイル]メニュー)

表 3.1 千手オフライザ([ファイル]メニュー)

メニュー	アクション
新規作成	千手ドメイン名(千手マネージャ名)とSenju DevOperation Conductorバージョン、OSを指定して開く
開く	千手オフライザデータファイルを開きます。
千手バージョンを指定して開く	千手オフライザファイル、Senju DevOperation Conductorバージョンを指定して開きます。バージョンの指定は作成済みの千手オフライザファイルのバージョンより新しい必要があります。
上書き保存	ファイルを上書き保存します。
名前を付けて保存	ファイルに名前を付けて保存します。
フィルタ設定	フィルタ設定ダイアログを表示します。
フィルタ管理ファイルの読み込み	フィルタ管理ファイルを読み込みます。
フィルタ管理ファイルを名前を付けて保存	フィルタ管理ファイルに名前を付けて保存します。
フィルタを使用する	「フィルタ設定」で設定したフィルタを使用します。 フィルタが使用されている場合は、不活性です。
フィルタを使用しない	「フィルタ設定」で設定したフィルタの使用を解除します。 フィルタが使用されていない場合は、不活性です。
差分の表示	通常表示から差分表示に切り替えます。
書き出しファイルとの差分の表示→ノード	モニタリングデータの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
書き出しファイルとの差分の表示→イベント	イベントデータの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
書き出しファイルとの差分の表示→ジョブスケジュール	ジョブスケジュールデータの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
書き出しファイルとの差分の表示→コンフィグレーション	コンフィグレーションデータの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
全体の表示	差分表示を通常表示に戻します。
印刷設定	千手オフライザの内容を印刷する際の設定ダイアログを表示します。用紙のサイズ・向きを設定します。
印刷→画面印刷	千手オフライザ画面のハードコピーを印刷します。
印刷→リストビュー印刷	リストビューの内容をテキスト形式で印刷します。
印刷→アウトプットビュー印刷	アウトプットビューの内容をテキスト形式で印刷します。
終了	千手オフライザを終了します。なお、ランブックエディタ、ランブックチェッカ、ジョブエディタを起動してし

3.1.2. 千手オフライザ([編集]メニュー)

千手オフライザの[編集]メニューを下記の図に、内容を下記の表に示します。



図 3.3 千手オフライザ([編集]メニュー)

表 3.2 千手オフライザ([編集]メニュー)

メニュー	アクション
切り取り	ツリービューまたはリストビューで選択されているエンティティを切り取ります。(常に不活性です)
コピー	ツリービューまたはリストビューで選択されているエンティティをコピーします。
貼り付け	切り取りまたはコピーされたエンティティを、ツリービューまたはリストビューで選択されているエンティティの下に貼り付けます。
削除	ツリービューまたはリストビューで選択されているエンティティを削除します。この際、確認ダイアログが表示されますが、いったん、削除した
すべて選択	リストビューに表示されているエンティティをすべて選択します。
選択の切り替え	リストビュー中のエンティティの選択状態を反転します。選択されたエンティティは未選択に、未選択のエンティティは選択になります。

3.1.3. 千手オフライザ([表示]メニュー)

千手オフライザの[表示]メニューを下記の図に、内容を下記の表に示します。



図 3.4 千手オフライザ([表示]メニュー)

表 3.3 千手オフライザ([表示]メニュー)

メニュー	アクション
ツールバー	ツールバーの表示／非表示を設定します。
アウトプットビュー	アウトプットビューの表示／非表示を設定します。
ステータスバー	ステータスバーの表示／非表示を設定します。
クイックフィルタバー	クイックフィルタバーの表示／非表示を設定します。
ツールバーの設定	ツールバーの設定ダイアログを表示します。ツールバーにはメニューにある任意のメニュー項目が設定できます。
展開	ツリービューで選択されているエンティティの下を1階層のみ展開します。(開きます)
下をすべて展開	ツリービューで選択されているエンティティの下をすべて展開します。(開きます)
縮退	選択されているエンティティの下が展開されているとき、縮退します。(閉じます)
大きいアイコン	リストビューの表示を“大きいアイコン”表示にします。
小さいアイコン	リストビューの表示を“小さいアイコン”表示にします。
一覧	リストビューの表示を“一覧”表示にします。
詳細	リストビューの表示を“詳細”表示にします。
等間隔に整列	リストビューに表示されているアイコンを等間隔に整列し直します。“一覧”、“詳細”表示モードでは選択できません。
グループジャンプ → 上へ	リストビューに表示されているエンティティ一覧中、次の値の所まで、画面上方にジャンプします。
グループジャンプ → 下へ	リストビューに表示されているエンティティ一覧中、次の値の所まで、画面下方にジャンプします。

3.1.4. 千手オフライザ([ツール]メニュー)

千手オフライザの[ツール]メニューを下記の図に、内容を下記の表に示します。

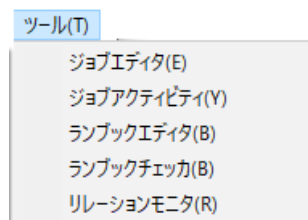


図 3.5 千手オフライザ([ツール]メニュー)

表 3.4 千手オフライザ([ツール]メニュー)

メニュー	アクション
ジョブエディタ	ジョブエディタを起動します。
ジョブアクティビティ	ジョブアクティビティを起動します。
ランブックエディタ	ランブックエディタを起動します。
ランブックチェック	ランブックチェックを起動します。
リレーションモニタ	リレーションモニタを起動します。

3.1.5. 千手オフライザ([オプション]メニュー)

千手オフライザの[オプション]メニューを下記の図に、内容を下記の表に示します。

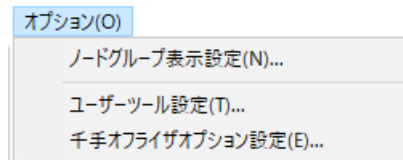


図 3.6 千手オフライザ([オプション]メニュー)

表 3.5 千手オフライザ([オプション]メニュー)

メニュー	アクション
ノードグループ表示設定	表示ノードグループ設定ダイアログを表示します。千手オフライザに表示するノードグループが設定できます。
表示設定	千手オフライザの様々な表示設定を行います。ツリービューやリストビューなどのフォント/色設定を行います。
ユーザーツール設定	ユーザーツールの登録・編集を行います。
千手オフライザオプション設定	千手オフライザオプション設定ダイアログを表示します。

3.1.6. 千手オフライザ([ヘルプ]メニュー)

千手オフライザの[ヘルプ]メニューを下記の図に、内容を下記の表に示します。

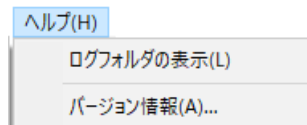


図 3.7 千手オフライザ([ヘルプ]メニュー)

表 3.6 千手オフライザ([ヘルプ]メニュー)

メニュー	アクション
ログフォルダの表示	千手オフライザのログ出力しているフォルダを開きます。
バージョン情報	千手オフライザのバージョンを表示します。

3.2. 千手オフライザのツールバー

千手オフライザのデフォルトのツールバーを下記の表に示します。

表 3.7 千手オフライザのツールバー

アイコン	名前	アクション
	新規作成	千手オフライザデータを新規に作成します。
	開く	千手オフライザデータファイルを開きます。
	上書き保存	ファイルを上書き保存します。
	差分の表示	通常表示から千手オフライザデータファイルとの差分表示に切り替えます。
	書き出しファイルとの差分の表示(ノード)	モニタリングデータの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
	書き出しファイルとの差分の表示(イベント)	イベントデータの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
	書き出しファイルとの差分の表示(ジョブスケジュール)	ジョブスケジュールの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
	書き出しファイルとの差分の表示(コンフィグレーション)	コンフィグレーションデータの通常表示から書き出しファイルとの差分表示に切り替えます。
	全体の表示	差分表示を通常表示に戻します。
	ジョブエディタ	ジョブエディタを起動します。
	ジョブアクティビティ	ジョブアクティビティを起動します。
	ランブックエディタ	ランブックエディタを起動します。
	ランブックチェッカ	ランブックチェッカを起動します。
	リレーションモニタ	リレーションモニタを起動します。

ツールバーに表示する項目は、[表示]メニューの[ツールバーの設定...]を選択して表示されるダイアログで、自由に変更することができます。

3.3. 千手オフライザのエンティティ

ここでは、千手オフライザで取り扱うエンティティの概要の説明を述べています。

3.3.1. ドメイン

- 概要

ドメインは最上位(千手オフライザのツリービュー最上位)のエンティティです。ドメインのエンティティには、“ノードグループ”、“モニタリング”、“イベント”、“ジョブスケジュール”、“キャパシティ”、“コンフィグレーション”、“コマンド”、“カレンダー”、“フィルタ”、“ITリレーション”が含まれています。

ドメインに含まれるエンティティとその説明を下記の図と表に示します。

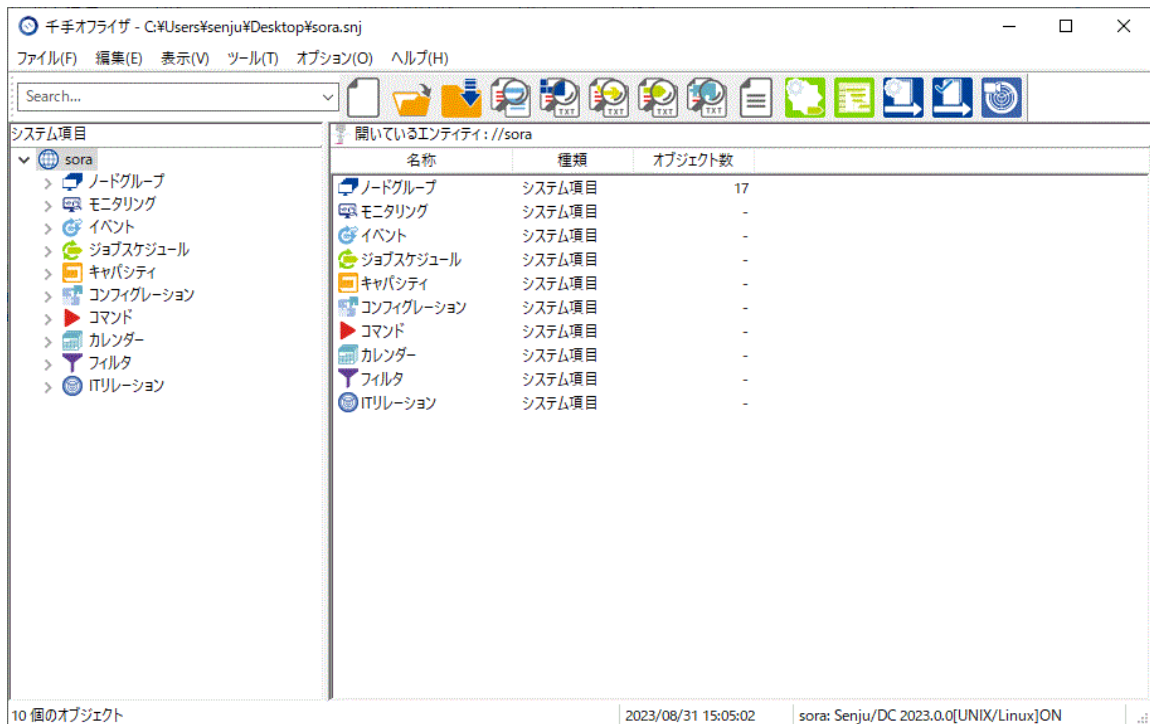


図 3.8 ドメインのエンティティ

表 3.8 ドメインのエンティティ

エンティティ	説明
ノードグループ	千手ドメイン(千手マネージャ)に登録されているノードグループをまとめたものです。
モニタリング	モニタリングに関連するエンティティをまとめたものです。
イベント	イベントに関連するエンティティをまとめたものです。
ジョブスケジュール	ジョブに関連するエンティティをまとめたものです。
キャパシティ	キャパシティに関連するエンティティをまとめたものです。
コンフィグレーション	コンフィグレーションに関連するエンティティをまとめたものです。
コマンド	コマンドに関連するエンティティをまとめたものです。
カレンダー	カレンダーに関連するエンティティをまとめたものです。
フィルタ	フィルタに関連するエンティティをまとめたものです。
ITリレーション	ITリレーションに関連するエンティティをまとめたものです。

注釈

- コンフィグレーションは、バージョンにeXsenju V3.0以降を指定した時のみ表示されます。
- イベントは、バージョンにSenju Operation Conductor V10.0以降を指定した時のみ表示されます。
- モニタリングとフィルタは、バージョンにSenju Operation Conductor V11.0以降を指定した時、または、V11.0未満の場合はモニタリングのデータを扱う設定の場合のみ表示されます。
- キャパシティは、バージョンにSenju Operation Conductor V22.0以降を指定した時のみ表示されます。
- ITリレーションは、バージョンにSenju Operation Conductor V12.0以降を指定した時のみ表示されます。

● コンテキストメニュー

“ドメイン”、“ノードグループ”、“ジョブスケジュール”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューを下記の図に、内容を下記の表に示します。コンテキストメニューは選択されているエンティティによって異なります。図の左から“ドメイン”、“ノードグループ”、“ジョブスケジュール”をそれぞれ選択したときのメニューとなります。



図 3.9 ドメインのコンテキストメニュー

表 3.9 ドメインのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
ドメイン	ドメイン名の変更	ドメイン名の変更ダイアログを表示します。
	プロパティ	ドメインのプロパティウィンドウを表示します。
ノードグループ	データの書き出し	ノードグループのデータを書き出すためのデータの書き出しダイアログを表示します
	データの読み込み > すべて	ノードグループ、ノード情報、モニタリングのデータを読み込むためのデータの読み:
	データの読み込み > 差分のみ	ノードグループ、ノード情報、モニタリングのデータを読み込むためのデータの読み:
	データの一括書き出し	ノードグループ、ノード情報、モニタリングのデータの一括書き出しダイアログを表
	データの一括読み込み > すべて	ノードグループ、ノード情報、モニタリングのデータの一括読み込みダイアログを表:
	データの一括読み込み > 差分のみ	ノードグループ、ノード情報、モニタリングのデータの一括読み込み[差分のみ]ダイ
ジョブスケジュール	データの一括書き出し	ジョブスケジュールのデータの一括書き出しダイアログを表示します。
	データの一括読み込み	ジョブスケジュールのデータの一括読み込みダイアログを表示します。
	実行システム作成チェック	実行システムの作成チェックを実行します。
	ツール(ジョブエディタ)	ジョブエディタを起動します。

3.3.2. ノードグループ

- 概要

ノードグループとは、千手システムで管理するノードをグループ化するために使用します。

ノードグループのエンティティには、現在登録されているノードグループが含まれています。詳細モードにおいて表示される項目と内容を下記に示します。

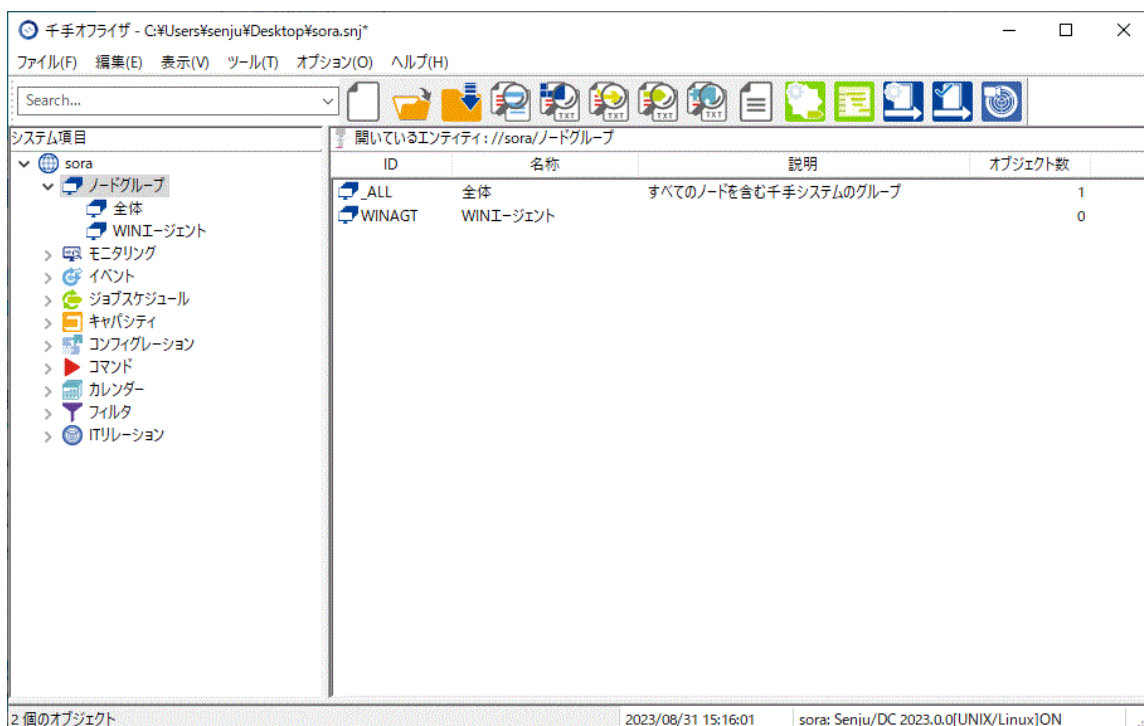


図 3.10 ノードグループのエンティティ

表 3.10 ノードグループの詳細モード表示

項目	内容
ID	ノードグループIDを表示します。
名称	ノードグループ名を表示します。
説明	ノードグループの意味などの説明を表示します。

• コンテキストメニュー

リストビューでノードグループを選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。



図 3.11 ノードグループのコンテキストメニュー

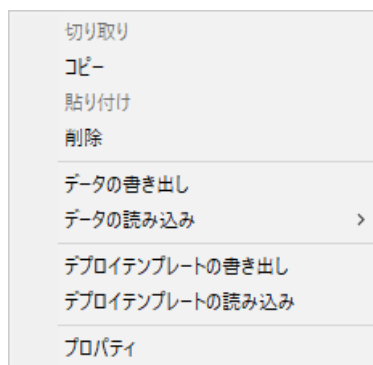


図 3.12 デプロイノードグループのコンテキストメニュー

表 3.11 ノードグループのコンテキ

項目	内容
データの書き出し	データを書き出すためのデータの書き出しダイアログを表示します。
データの読み込み > すべて	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
データの読み込み > 差分のみ	データを読み込むためのデータの読み込み[差分のみ]ダイアログを表示します。
デプロイテンプレートの書き出し	デプロイテンプレートを書き出すためのデプロイテンプレートの書き出しダイアログを表示し、選択されているデプロイテンプレートの書き出しダイアログを表示し、選択されている
デプロイテンプレートの読み込み	デプロイテンプレートを読み込むためのデプロイテンプレートの読み込みダイアログを表示し、選択されている
プロパティ	プロパティウィンドウを開きます。

注釈

千手ブラウザでは、仮想サーバーとして判定されたノードは、仮想サーバーのアイコンで表示されますが、千手オフライザでは、通常のノードと同じアイコンで表示されます。

千手ブラウザのツリービューで、<ドメイン>の下の“ノードグループ”→<ノードグループ>を選択し、リストビューでエージェントノードを選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューでプロパティを選ぶと、ノードのプロパティが表示されます。

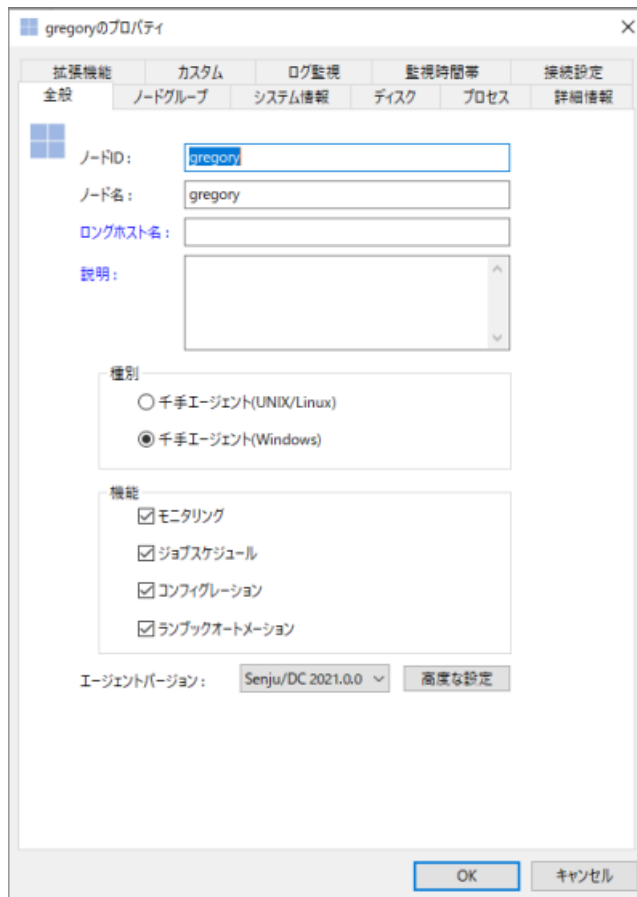


図 3.13 ノードのプロパティ(千手エージェント) ([全般]タブ)

千手オフライザの、ノードのプロパティ(千手エージェント) ([全般]タブ)では、千手ブラウザの同画面には存在しない、「エージェントバージョン」選択リストが付加されています。エージェントバージョンには、エージェントのノードを新規作成する際に、適切なバージョンを指定してください。

注釈

千手エージェントのノードをコピーして貼り付けた際に表示されるノードのプロパティ(千手エージェント) ([全般]タブ)では、コピー元の千手エージェントバージョンが設定されていても、空で設定された状態で表示されます。

ノードグループに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

3.3.3. モニタリング

• 概要

モニタリングのエンティティには、カスタムカテゴリの「監視項目」、「計算式」が含まれています。

注釈

表示されるエンティティは、指定した千手バージョンによって異なります。

カスタムカテゴリのエンティティとその説明を下記の図と表に示します。

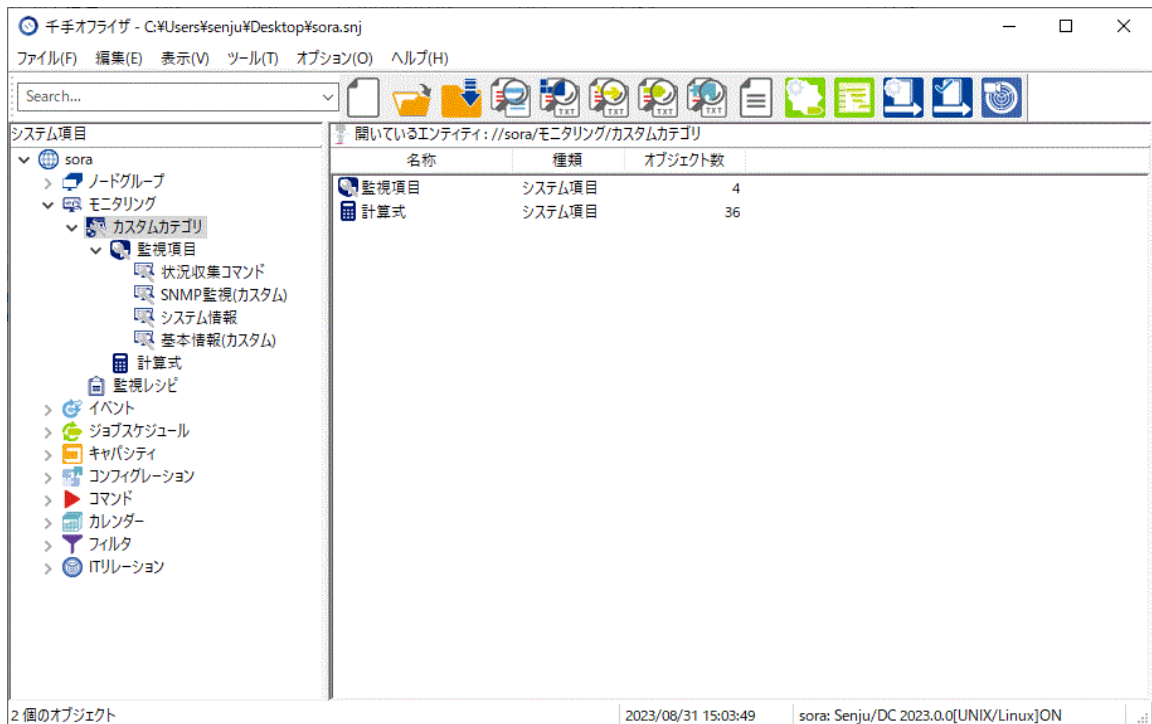


図 3.14 カスタムカテゴリのエンティティ

表 3.12 カスタムカテゴリのエンティティ

エンティティ	説明
監視項目	ユーザーが独自に定義する監視項目です。
計算式	カスタムカテゴリの監視項目を作成する際に指定する計算式です。

• コンテキストメニュー

“監視項目”、“計算式”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。



図 3.15 監視項目のエンティティのコンテキストメニュー

表 3.13 監視項目のエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
(監視項目選択)	データの書き出し	選択されているエンティティを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
(計算式選択)	データの書き出し	選択されている計算式を書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。

注釈

データ書き出し時には、監視項目のデータは書き出されますが、監視項目のカテゴリのデータは書き出されません。そのため、千手ブラウザや千手オフィザに監視項目のデータを読み込む際には、読み込む監視項目が所属するカテゴリがすべて存在するように、存在しないカテゴリは事前に作成しておく必要があります。

モニタリングに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

3.3.4. イベント

- 概要

イベントのエンティティには、“メッセージ”、“オートメーション”が含まれています。

イベントのエンティティとその説明を下記に示します。

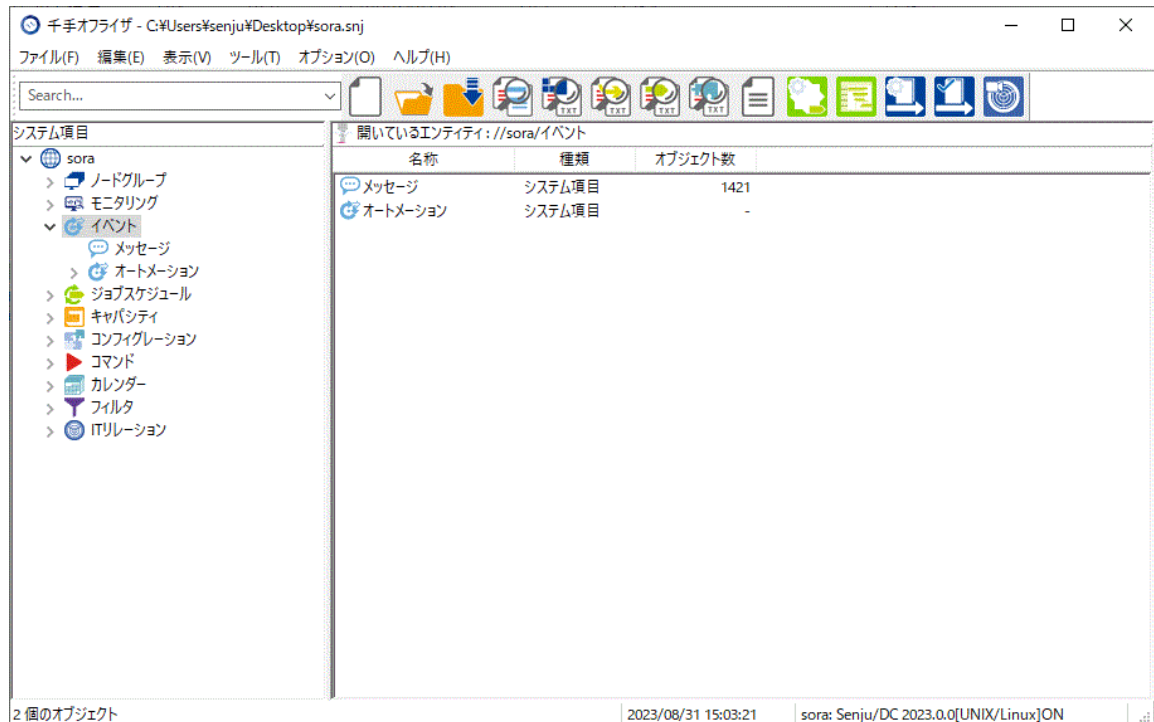


図 3.16 イベントのエンティティ

表 3.14 イベントのエンティティ

エンティティ	説明
メッセージ	千手ドメインに登録されているメッセージです。
オートメーション	メッセージ出力を監視し、ルールに従いメール送信などのメッセージアクションや、決まった手順を自動的に実行するラ...

- コンテキストメニュー

“メッセージ”、“オートメーション”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。コンテキストメニューは選択されているエンティティによって異なります。コンテキストメニューは左から、リストビューにてメッセージを選択したときのメニュー、オートメーションを選択したときのメニューとなります。



図 3.17 イベントのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.15 イベントのエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
メッセージ	データの書き出し	選択されているエンティティを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。

イベントに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

3.3.5. ジョブスケジュール

- 概要

ジョブスケジュールのエンティティには、“稼働日カレンダー”、“トリガ”、“リソース”、“動作環境”、“動作環境プール”、“ジョブテンプレート”、“ジョブ”、“ネット. 定義有効日”、“システム”、“ジョブサービス”が含まれています。

注釈

表示されるエンティティは、指定した千手バージョンによって異なります。

ジョブスケジュールのエンティティとその説明を下記に示します。

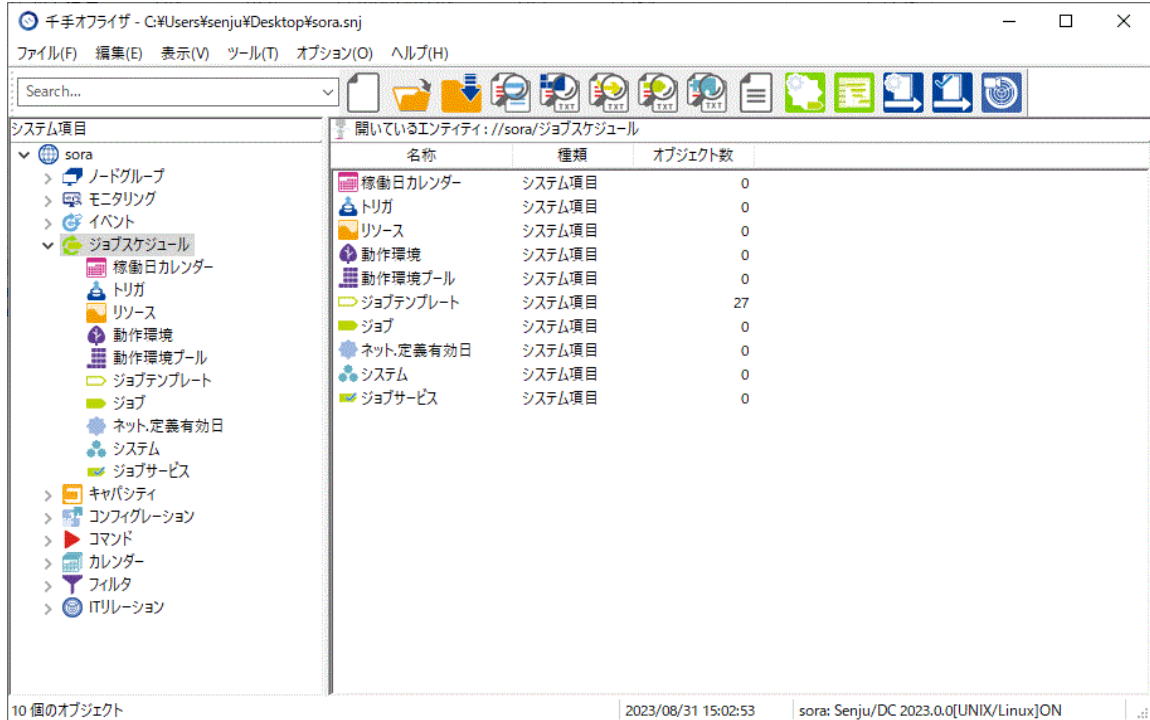


図 3.18 ジョブスケジュールのエンティティ

表 3.16 ジョブスケジュールのエンティティ

エンティティ	説明
稼働日カレンダー	ジョブが稼働するスケジュールを決めるのに用いるカレンダーです。
トリガ	ジョブやネットの稼働を制御するために用いるものです。
リソース	ジョブやネットの稼働を排他するために用いるものです。
動作環境	ジョブが稼働する環境を設定するものです。
動作環境プール	動作環境間の1ノード上の同時稼働ジョブ数を設定するものです。
ジョブテンプレート	予め登録されている、ジョブの起動コマンドシーケンスのテンプレートです。
ジョブ	稼働させたいコマンド等を設定したものです。
ネット. 定義有効日	ネットはジョブ/ネットをグループ化したもので、同じネット名で異なる定義有効日を設定できます。
システム	ネットをグループ化したものです。
ジョブサービス	ジョブサービスチェック項目をグループ化したものです。

• コンテキストメニュー

“稼働日カレンダー”、“トリガ”、“リソース”、“動作環境”、“動作環境プール”、“ジョブテンプレート”、“ジョブ”、“ネット.定義有効日”、“システム”、“ジョブサービス”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。コンテキストメニューは選択されているエンティティによって異なります。コンテキストメニューは左から、リストビューにて稼働日カレンダー・トリガ・リソース・動作環境・ジョブを選択したときのメニュー、動作環境プール、システムを選択したときのメニュー、ジョブテンプレートを選択したときのメニュー、ネット.定義有効日を選択したときのメニュー、ジョブサービスを選択したときのメニューとなります。



図 3.19 ジョブスケジュールのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.17 ジョブスケジュールのエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目
稼働日カレンダー・トリガ・リソース・動作環境・動作環境プール・ジョブ・ネット.定義有効日・システム・ジョブサービス	データの書き出し
	データの読み込み
稼働日カレンダー・トリガ・リソース・動作環境・ジョブ・ネット.定義有効日	関係する項目一
ネット.定義有効日	旧定義有効日ネ
稼働日カレンダー・トリガ・リソース・動作環境・動作環境プール・ジョブテンプレート・ジョブ・ネット.定義有効日・システム	ツール(ジョブエデ

ジョブスケジュールに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

3.3.6. キャパシティ

- 概要

キャパシティのエンティティには“イベント(メッセージ密度)”、“イベント(メッセージ分布)”、“モニタリング”、“ジョブスケジュール(ジョブレポート)”、“ジョブスケジュール(ジョブ遅延分析)”が含まれます。

キャパシティに含まれるエンティティとその説明を下記の表に示します。

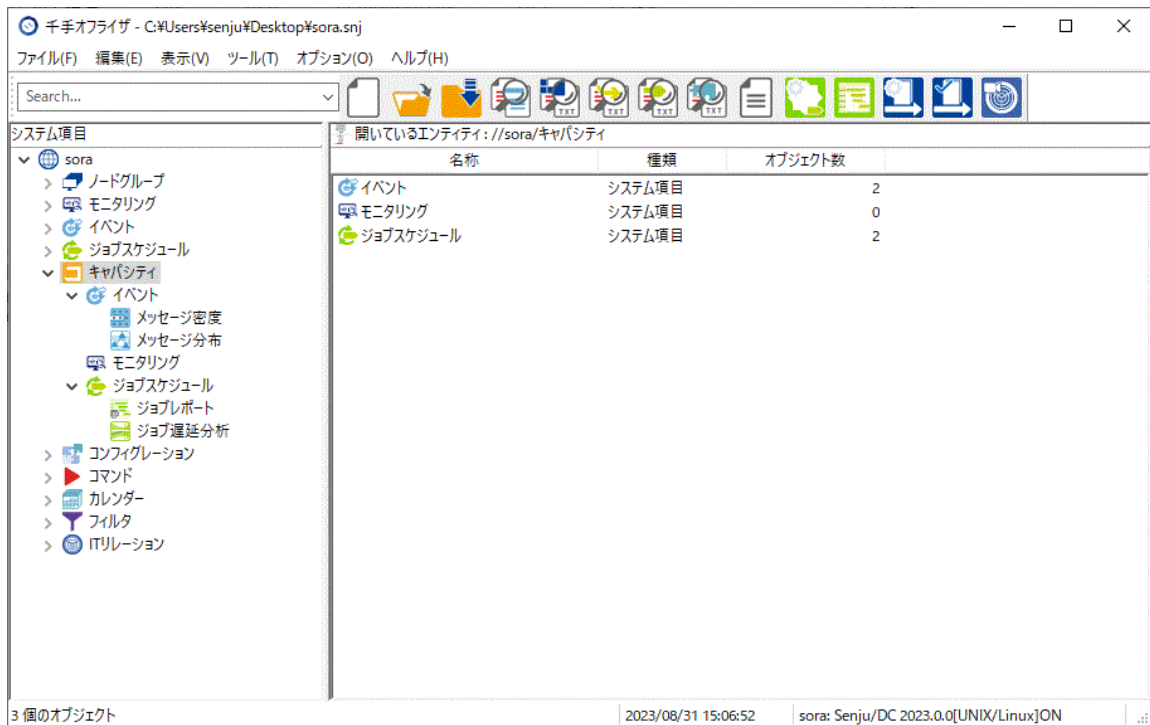


図 3.20 キャパシティのエンティティ

表 3.18 キャパシティのエンティティ

エンティティ	説明
メッセージ密度	メッセージ密度グラフで表示する項目を設定したものです。
メッセージ分布	メッセージ分布グラフで表示する項目を設定したものです。
モニタリング	モニタリンググラフで表示する項目を設定したものです。
ジョブレポート	ジョブレポートで表示する項目を設定したものです。
ジョブ遅延分析	ジョブ遅延分析グラフで表示する項目を設定したものです。

- コンテキストメニュー

“メッセージ密度”、“メッセージ分布”、“モニタリング”、“ジョブレポート”、“ジョブ遅延分析”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。コンテキストメニューは選択されているエンティティによって異なります。コンテキストメニューは左から、リストビューにてメッセージ密度・メッセージ分布・モニタリング・ジョブレポート・ジョブ遅延分析を選択したときのメニュー、イベント・ジョブスケジュールを選択したときのメニューとなります。

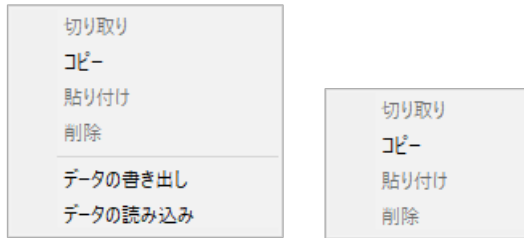


図 3.21 キャパシティのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.19 キャパシティのエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
メッセージ密度・メッセージ分布・モニタリング・ジョブレポート・ジョブ遅延分析	データの書き出し	選択されているエンティティを書き出します
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込み

警告

千手オフライザにて新規作成した監視タスクは、監視タスクIDが未定ですので、千手オフライザの“キャパシティ”→<モニタリング>のグラフに用いる監視タスクに指定できません。

[詳細]

千手オフライザにて新規作成した監視タスクは監視タスクIDが未定のため、先頭に「-」の付くID(例:-99996)が割り当てられています。

そのため、千手オフライザの“キャパシティ”→<モニタリング>のグラフにて、千手オフライザにて新規作成した監視タスクを選択すると、「文字 "-" は許されない文字です[監視タスクID]」というポップアップが表示され、指定できません。

キャパシティに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

3.3.7. コンフィグレーション

- 概要

コンフィグレーションのエンティティには、“構成管理ノード”、“接続設定”、“構成管理項目テンプレート”、“構成管理項目”、“実行ユニット”、“履歴表示設定”が含まれています。

コンフィグレーションのエンティティとその説明を下記に示します。

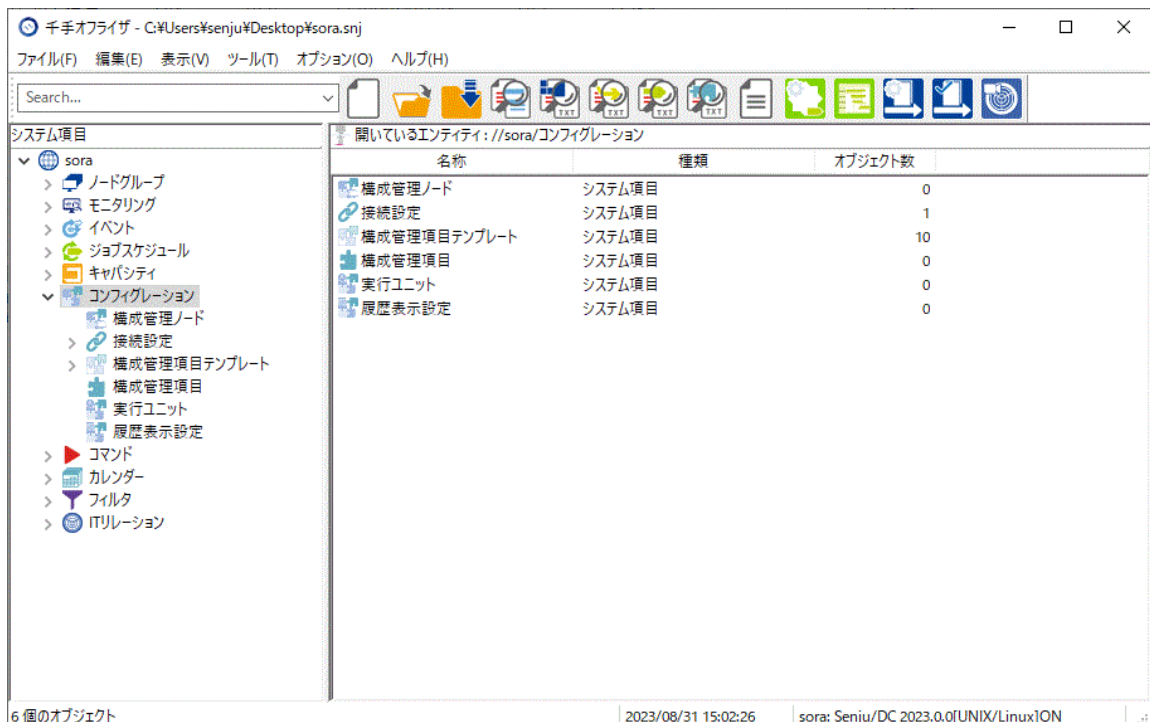


図 3.22 コンフィグレーションのエンティティ

表 3.20 コンフィグレーションのエンティティ

エンティティ	説明
構成管理ノード	コンフィグレーション機能を使用するノードの定義、及びノード毎に千手構成管理項目の取得/収集設定および
接続設定	千手構成管理項目以外の構成管理項目の取得を行う際に、対象ノードへの接続方法の定義が行えます。
構成管理項目テンプレート	典型的な構成管理項目をテンプレートとして予め用意しており、テンプレートを元に作成した構成管理項目の
構成管理項目	ユーザー独自の構成管理項目の定義が行えます。
実行ユニット	いくつかの構成管理項目を収め、その構成管理項目の収集スケジュール、収集元の定義が行えます。
履歴表示設定	構成モニタの取得/収集状況、変更検出状況の履歴表示における、表示期間の定義が行えます。

• コンテキストメニュー

“構成管理ノード”、“接続設定”、“構成管理項目テンプレート”、“構成管理項目”、“実行ユニット”、“履歴表示設定”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。コンテキストメニューは選択されているエンティティによって異なります。コンテキストメニューは左から、リストビューにて構成管理ノード・接続設定・構成管理項目・実行ユニット・履歴表示設定を選択したときのメニュー、構成管理項目テンプレートを選択したときのメニューとなります。



図 3.23 コンフィグレーションのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.21 コンフィグレーションのエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
構成管理ノード・接続設定・構成管理項目・実行ユニット・履歴表示設定	データの書き出し	選択されているエンティティを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込み

コンフィグレーションに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

3.3.8. ITリレーション

• 概要

ITリレーションのエンティティには、“アイテムグループ”、“アイテム”、“リレーション”が含まれています。

ITリレーションのエンティティとその説明を下記に示します。

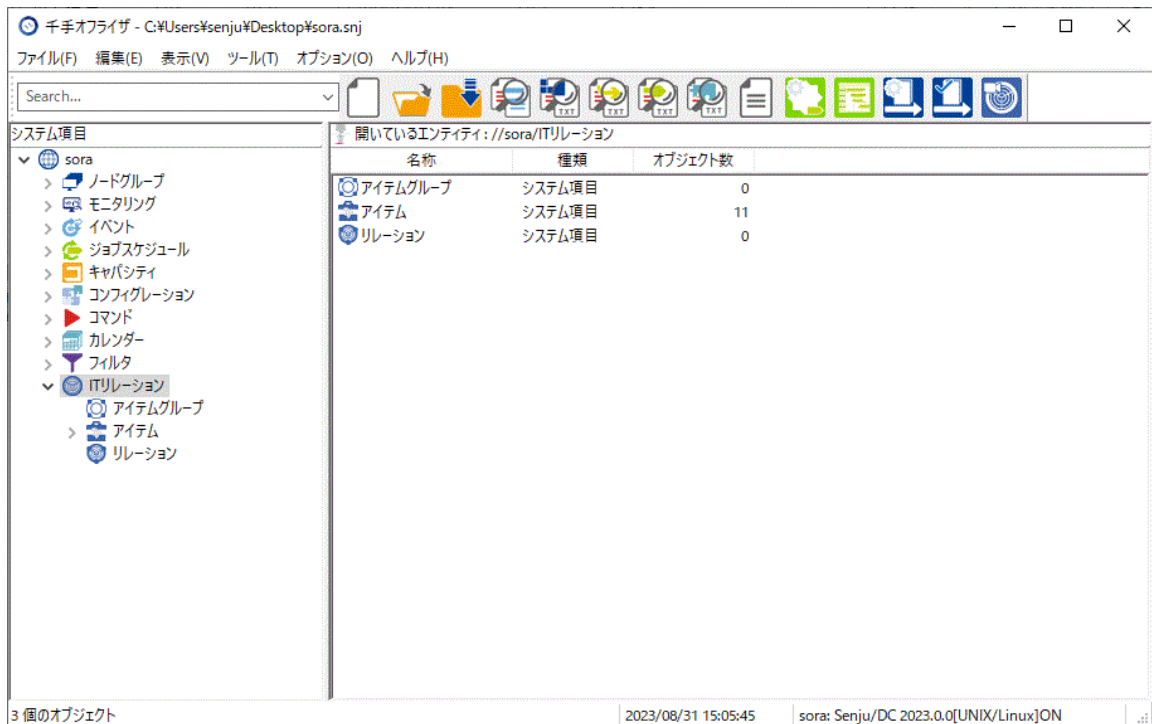


図 3.24 ITリレーションのエンティティ

表 3.22 ITリレーションのエンティティ

エンティティ	説明
アイテムグループ	リレーションに登録されたアイテムの表示設定に用いるアイテムグループの定義が行えます。
アイテム	リレーションを構成するアイテムの定義、関係するアイテムの設定、メッセージや監視タスクなどの状態反映の設定、所属
リレーション	アイテムのリレーション表示方法を設定するための定義が行えます。

• コンテキストメニュー

“アイテムグループ”、“アイテム”、“リレーション”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。コンテキストメニューは選択されているエンティティによって異なります。コンテキストメニューは左から、リストビューにてアイテムグループ・リレーションを選択したときのメニュー、アイテムを選択したときのメニューとなります。



図 3.25 ITリレーションのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.23 ITリレーションのエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
アイテムグループ・リレーション	データの書き出し	選択されているエンティティを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
	ツール(リレーションモニタ)	リレーションモニタを起動します。
アイテム	古いアイテムの一括削除	古い定義有効日のアイテムを削除するための古いアイテムの一括削除ダイアログ
	データの書き出し	選択されているエンティティを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
	ツール(リレーションモニタ)	リレーションモニタを起動します。

ITリレーションに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

3.3.9. コマンド

- 概要

コマンドのエンティティには、“ユーザーコマンド”、“パラメータ”が含まれています。

注釈

表示されるエンティティは、指定した千手バージョンによって異なります。

コマンドのエンティティとその説明を下記に示します。

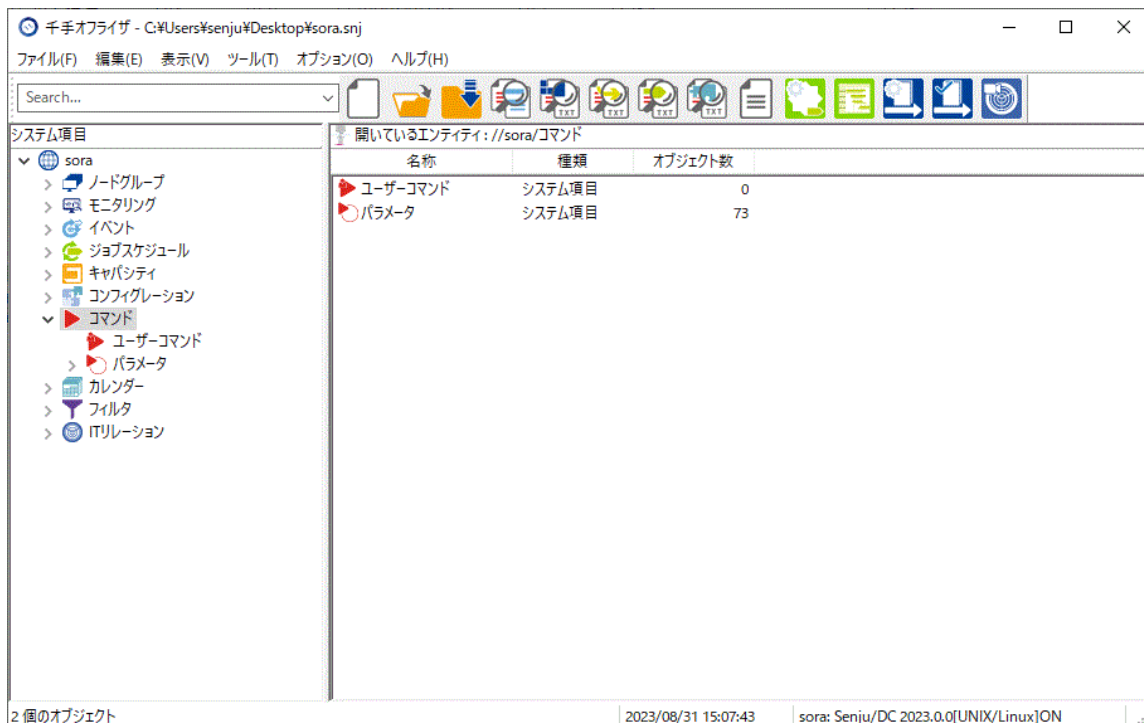


図 3.26 コマンドのエンティティ

表 3.24 コマンドのエンティティ

エンティティ	説明
ユーザーコマンド	ユーザーコマンドは、ユーザーが独自に定義するコマンドグループです。
パラメータ	コマンドを実行する際に指定する引数・変数が定義されたパラメータグループです。

- コンテキストメニュー

“ユーザーコマンド”、“パラメータ”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。



図 3.27 コマンドのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.25 コマンドのエンティティのコンテキストメニュー

項目	内容
データの書き出し	データを書き出すためのデータの書き出しダイアログを表示します。
データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
プロパティ	プロパティウィンドウを開きます。

コマンドに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

3.3.10. カレンダー

- 概要

カレンダーのエンティティには、“週間スケジュール”、“タスクスケジュール”、“営業日カレンダー”が含まれています。営業日カレンダーは、稼働日カレンダーで使用します。

週間スケジュール・タスクスケジュールは、モニタリングにて使用するスケジュールであり、ジョブスケジュールでは使用しません。

カレンダーのエンティティとその説明を下記に示します。

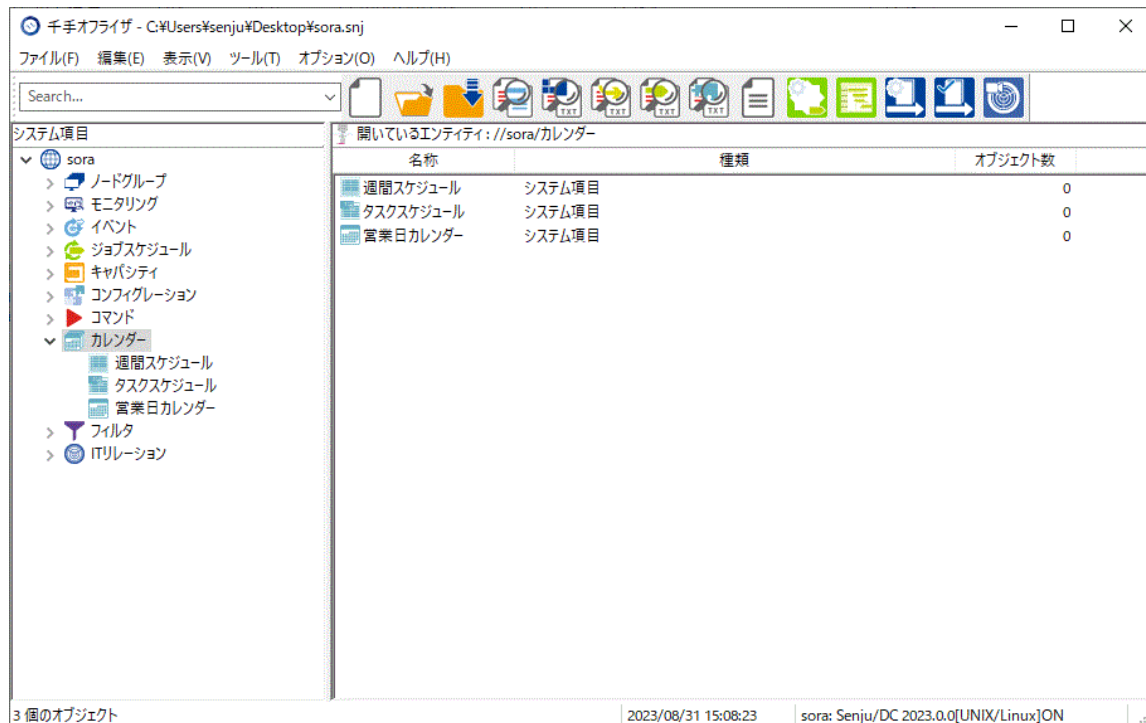


図 3.28 カレンダーのエンティティ

表 3.26 カレンダーのエンティティ

エンティティ	説明
営業日カレンダー	稼働日カレンダーで使用します。

- コンテキストメニュー

営業日カレンダーを選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。

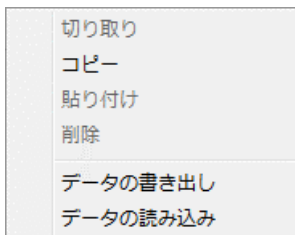


図 3.29 カレンダーのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.27 カレンダーのエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
(営業日カレンダー選択)	データの書き出し	選択されている営業日カレンダーを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。

カレンダーに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

3.3.11. フィルタ

- 概要

フィルタのエンティティには、“メッセージフィルタ”、“ログフィルタ”、“JSONログフィルタ”、“イベントログフィルタ”が含まれています。メッセージフィルタは、メッセージアクションの全般設定で使用します。

メッセージフィルタは、イベントにて使用するフィルタです。ログフィルタ・JSONログフィルタ・イベントログフィルタは、モニタリングにて使用するフィルタです。

フィルタのエンティティとその説明を下記に示します。

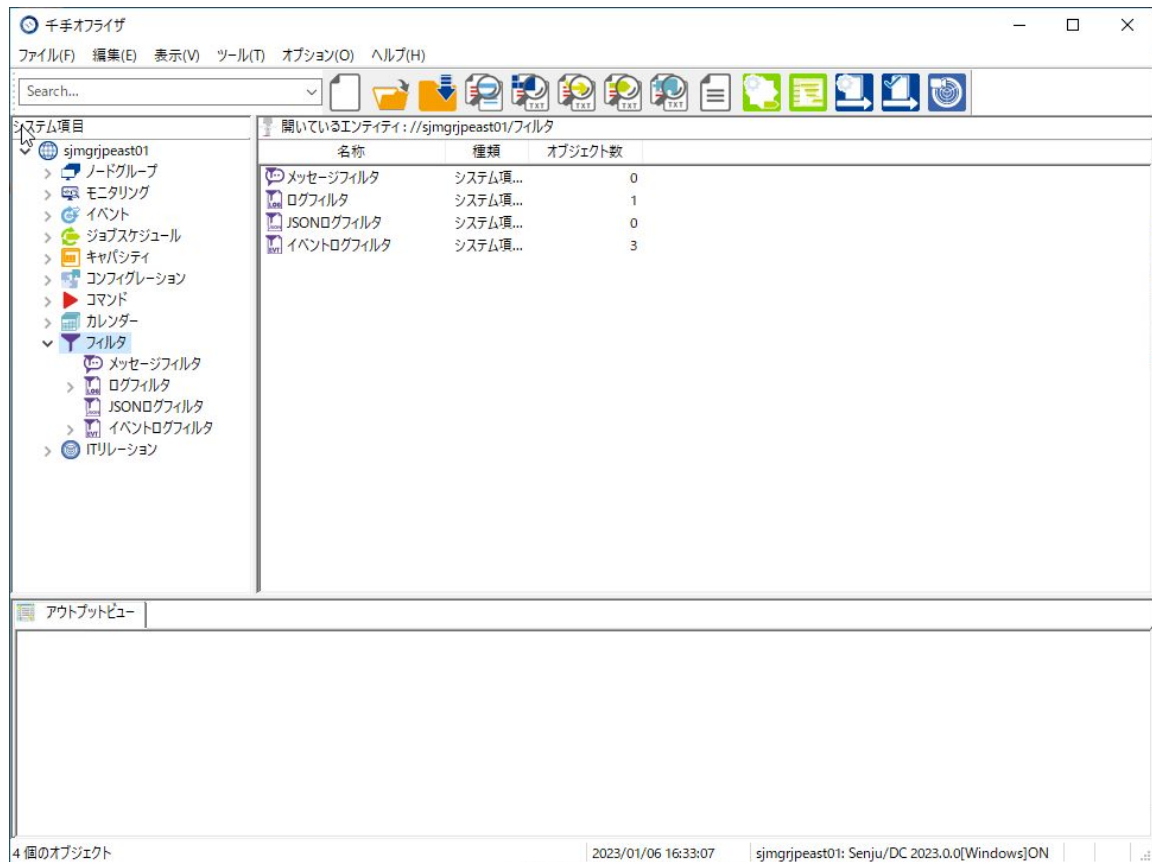


図 3.30 フィルタのエンティティ

表 3.28 フィルタのエンティティ

エンティティ	説明
メッセージフィルタ	メッセージアクションの全般設定で使用します。
ログフィルタ	ログ監視を行う際に使用します。
JSONログフィルタ	JSON形式のログの監視を行う際に使用します。
イベントログフィルタ	イベントログ監視を行う際に使用します。

- コンテキストメニュー

メッセージフィルタを選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューとその内容を下記に示します。



図 3.31 フィルタのエンティティのコンテキストメニュー

表 3.29 フィルタのエンティティのコンテキストメニュー

表示元	項目	内容
(メッセージフィルタ選択)	データの書き出し	選択されているメッセージフィルタを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
(ログフィルタ選択)	データの書き出し	選択されているログフィルタを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
(JSONログフィルタ選択)	データの書き出し	選択されているJSONログフィルタを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。
(イベントログフィルタ選択)	データの書き出し	選択されているイベントログフィルタを書き出します。
	データの読み込み	データを読み込むためのデータの読み込みダイアログを表示します。

フィルタに含まれる各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

4. 千手オフライザの使い方

4.1. データの作成

4.1.1. 各エンティティのデータ作成

4.1.1.1. モニタリングのデータ作成について

Senju DevOperation Conductorのモニタリングは、ネットワーク上に分散する複数のサーバーの稼働状態、およびサーバー上で稼働するアプリケーション群を、1台の運用管理サーバーから監視・制御するためのサブシステムです。

下記のモニタリングの流れにおいて、千手オフライザでは運用計画・準備段階におけるモニタリングの各構成要素（監視項目、監視タスク、計算式、ログフィルタ、JSONログフィルタ、イベントログフィルタ、週間スケジュール、タスクスケジュール、営業日カレンダーなど）のデータ作成を行うことができます。

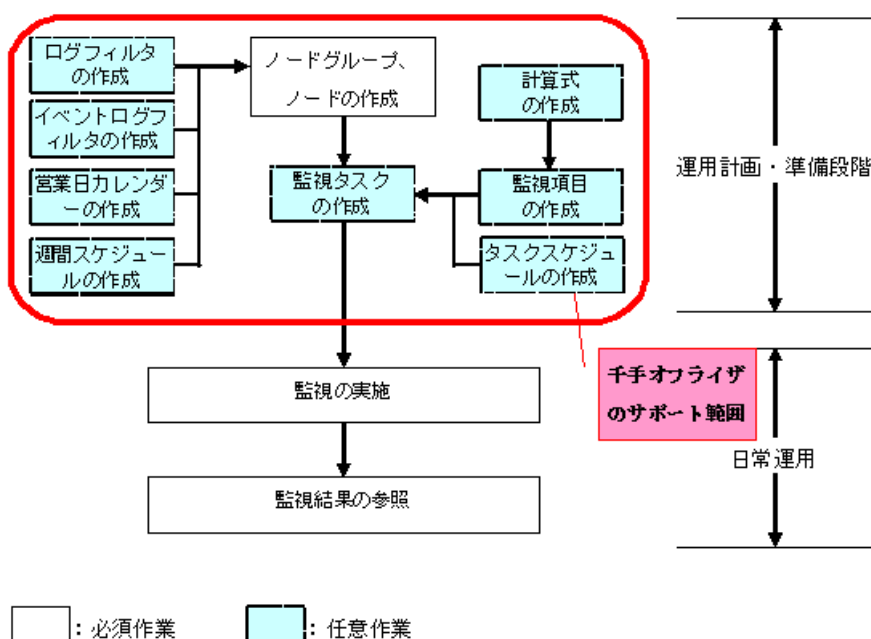


図 4.1 モニタリングの流れ

4.1.1.2. イベントのデータ作成について

Senju DevOperation Conductorのイベントは、千手システム内で発行されたメッセージを収集し、業務システムの運用・監視情報を運用管理サーバー側で一元管理するためのサブシステムです。

予め条件とするメッセージとそのメッセージに対するアクションを設定しておき、条件に該当するメッセージが出力された場合に、自動的に設定されたアクションを実行することが可能です。

また、複雑な手順を予め登録しておくことにより、その手順を自動実行させることができます。

下記のイベントの流れにおいて、千手オフライザでは運用計画・準備段階におけるイベントの各構成要素（メッセージ、営業日カレンダー、メールテンプレート、メール連絡先、連絡先グループ、メッセージアクション、セクションテンプレート、ブック、メッセージフィルタなど）のデータ作成を行うことができます。

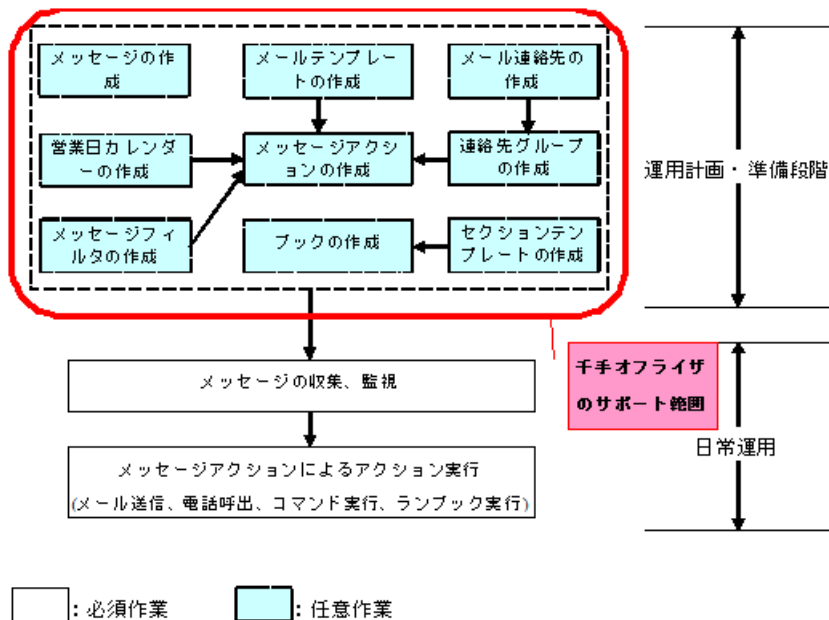


図 4.2 イベントの流れ

4.1.1.3. ジョブスケジュールのデータ作成について

Senju DevOperation Conductorのジョブスケジュールは、業務システムで運用するジョブ/ネットを千手マネージャで一元管理し、実行を制御するサブシステムです。

下記のジョブスケジュールの流れにおいて、千手オフライザでは運用計画・準備段階におけるジョブスケジュールの各構成要素（動作環境、カレンダー、トリガ、ジョブ、ネット、システムなど）のデータ作成を行うことができます。

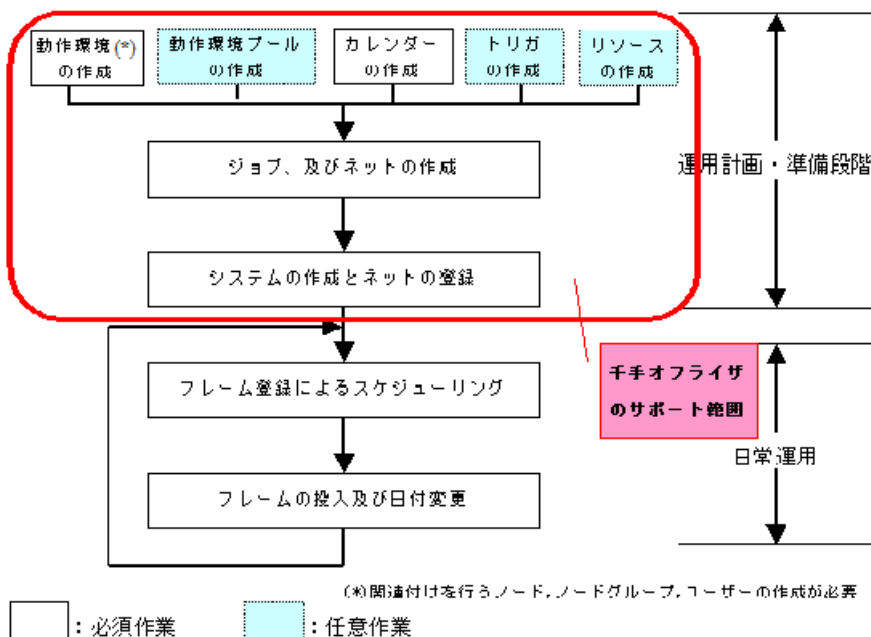


図 4.3 ジョブスケジュールの流れ

4.1.1.4. キャパシティのデータ作成について

Senju DevOperation Conductorのキャパシティは、イベントサブシステム、モニタリングサブシステム、ジョブスケジュールサブシステムから取得したメッセージ情報、各サーバー、ネットワークの利用状況や負荷状況などの稼働状況を履歴データとして蓄積し、グラフ表示します。

下記のキャパシティの流れにおいて、千手オフライザでは運用計画・準備段階におけるキャパシティの各構成要素（メッセージ密度、メッセージ分布、モニタリング、ジョブレポート、ジョブ遅延分析など）のデータ作成を行うことができます。

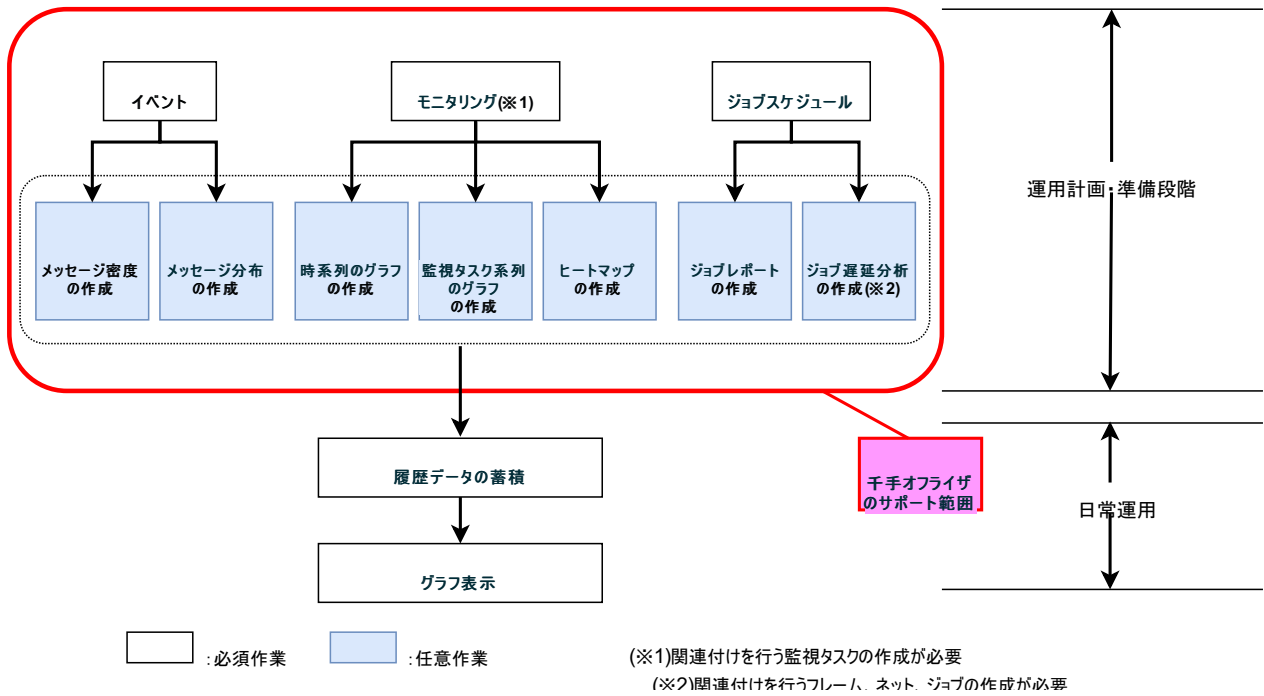


図 4.4 キャパシティの流れ

4.1.1.5. コンフィグレーションのデータ作成について

Senju DevOperation Conductorのコンフィグレーションは、管理対象機器(サーバー・ネットワーク機器)の構成情報・設定情報・ログ、または任意のコマンドの実行結果等を構成管理項目として定義し、これらの情報を収集・蓄積するためのサブシステムです。

下記のコンフィグレーションの流れにおいて、千手オプティマイザでは運用計画・準備段階におけるコンフィグレーションの各構成要素(構成管理ノード、接続設定、構成管理項目、実行ユニットなど)のデータ作成を行うことができます。

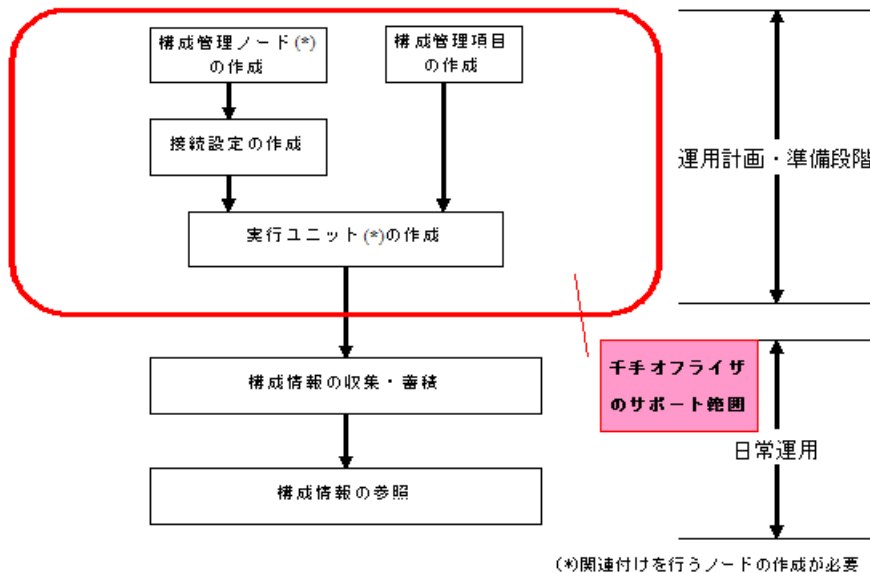


図 4.5 コンフィグレーションの流れ

4.1.1.6. ITリレーションのデータ作成について

Senju DevOperation ConductorのITリレーションは、システムを構成するIT機器やサービスを定義し、これらシステムを構成するアイテムの関係性を設定することで、システム全体の構成情報を一元的に管理することを可能とします。

下記のITリレーションの流れにおいて、千手オプティマイザでは運用計画・準備段階におけるITリレーションの各構成要素(アイテムグループ、アイテム、リレーション)のデータ作成を行うことができます。

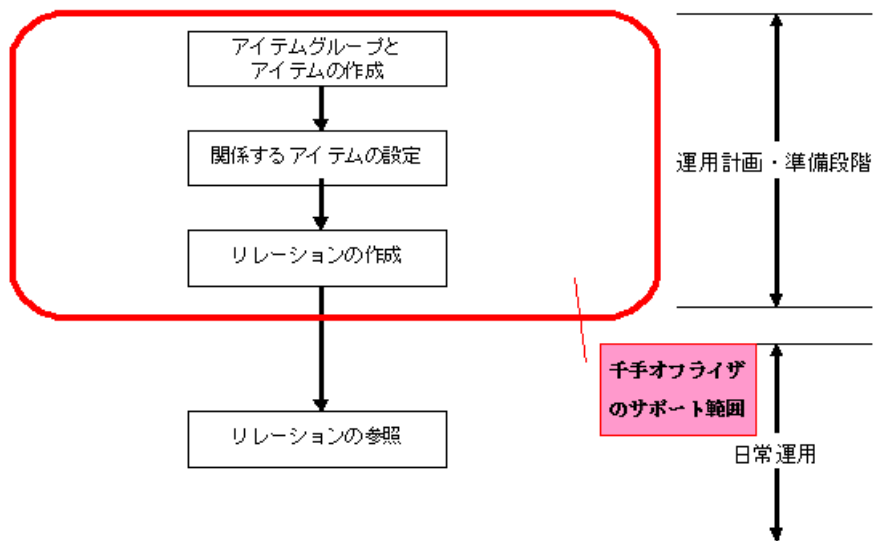


図 4.6 ITリレーションの流れ

4.1.2. 千手オフライザの起動・新規作成

千手オフライザの起動は、Windowsのスタートメニューから、[プログラム]→[Senju Family]→[Senju Offliser]→[千手オフライザ]を選択することにより行います。

千手オフライザを起動すると、千手オフライザ起動画面が表示されます。

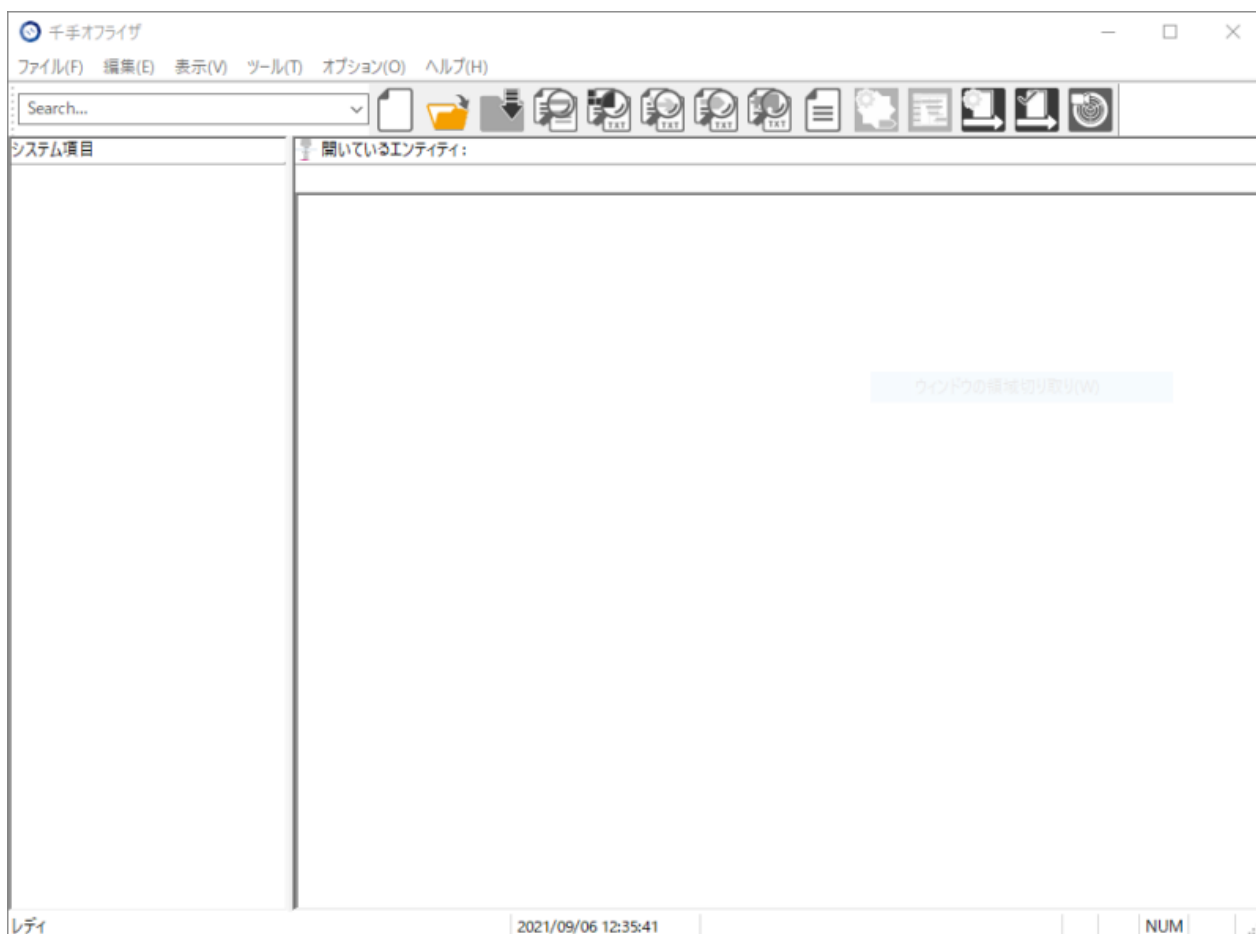


図 4.7 千手オフライザ起動画面

千手オフライザ起動画面で、[ファイル]→[新規作成]メニューを選択すると、千手オフライザ新規作成ダイアログが出現します。



図 4.8 千手オフライザ新規作成ダイアログ

データを作成する、千手のドメイン名(運用管理サーバー名)と、そのドメインのバージョンとOSを指定し、[OK]ボタンを押下します。

警告

- ここで指定するバージョン、OSは、データを作成する千手のドメイン名(運用管理サーバー名)のバージョンとOSです。

千手オフライザウィンドウに、千手オフライザ新規作成ダイアログで指定した千手ドメイン(千手マネージャ)の情報が反映され、ツリービューには「ノードグループ」「モニタリング」「イベント」「ジョブスケジュール」「コンフィグレーション」「コマンド」「カレンダー」「フィルタ」「リレーション」の各エンティティが階層表示され、リストビューにはツリービューで選択されている対象の情報や下位層のエンティティが一覧表示されます。この画面から、千手ブラウザと同様の操作で、各データの作成や変更を行うことができます。

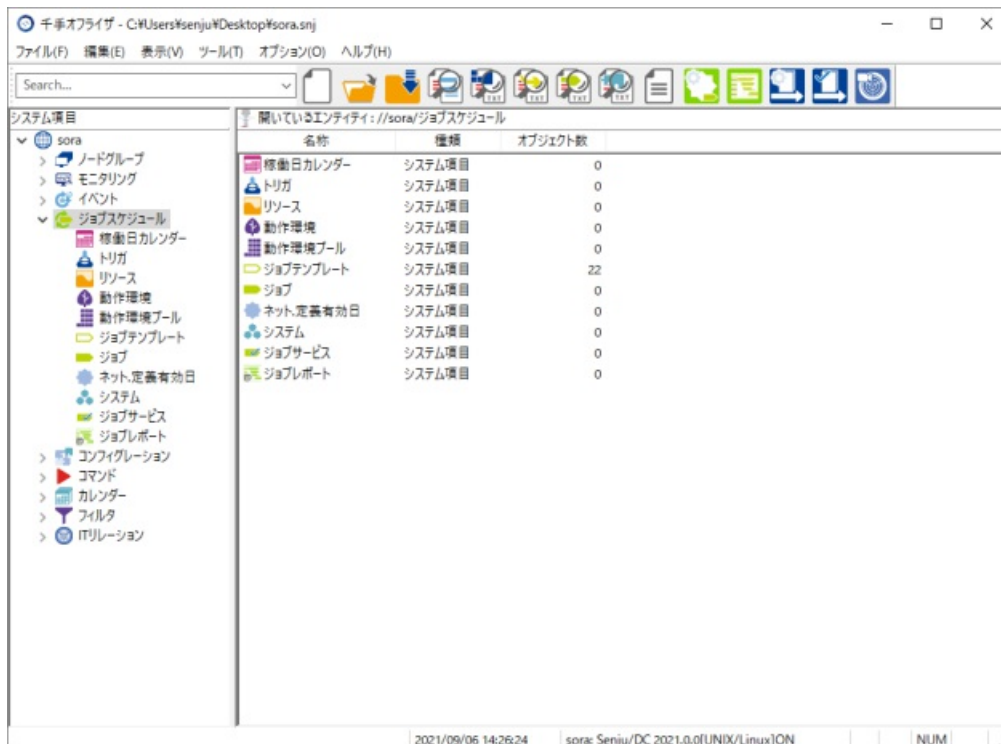


図 4.9 千手オフライザウィンドウ(1)

4.1.2.1. 千手オフライザウィンドウからのデータの作成

各構成要素のデータの作成は、千手オフライザウィンドウから、千手ブラウザと同様のGUI操作性で行うことができます。

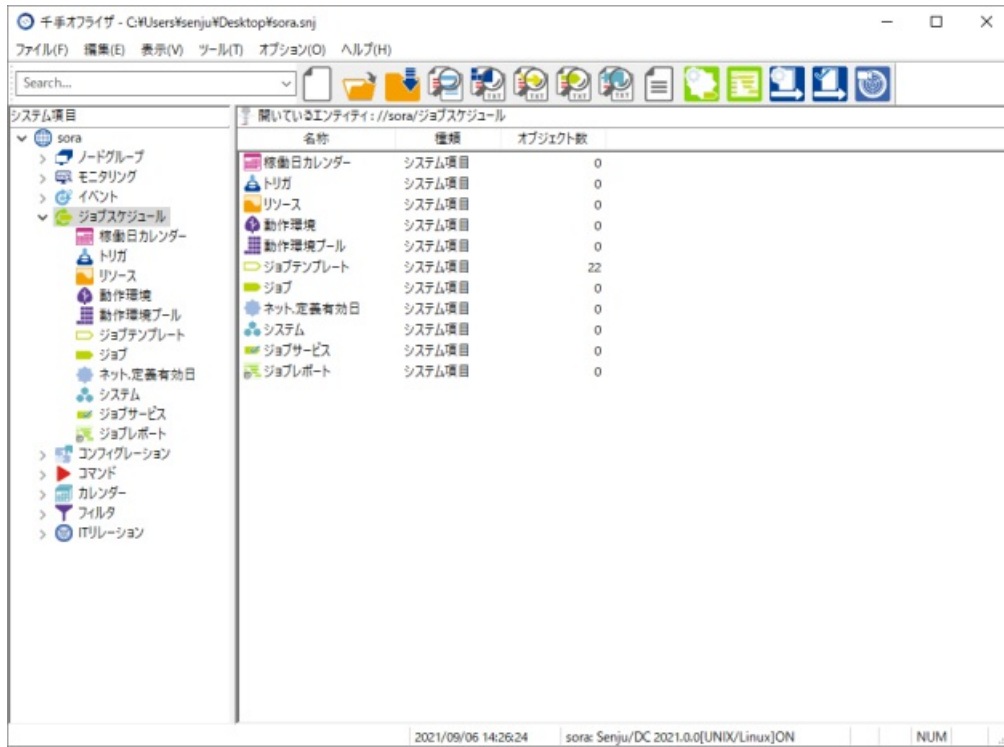


図 4.10 千手オライザウィンドウ

千手ブラウザを用いたデータ作成と比較した場合、千手オライザのデータ作成時にはTABLE 4.1のデータ作成に差異があります。

構成要素	千手オフライザでの作成方法
ノード	ノードの作成は、千手オフライザの「ノードグループ」→「全体」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さい。(ノードグループ
ノードグループ	ノードグループの作成は、千手オフライザの「ノードグループ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さい。(ノード
監視項目	監視項目の作成は、千手オフライザの「モニタリング」→「カスタムカテゴリ」→「監視項目」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニュー
監視タスク	監視タスクの作成は、千手オフライザの「ノードグループ」→「全体」のリストビューから、ノードのプロパティを開いて行って下さい。
計算式	計算式の作成は、千手オフライザの「モニタリング」→「カスタムカテゴリ」→「計算式」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニュー
ログフィルタ	ログフィルタの作成は、千手オフライザの「フィルタ」→「ログフィルタ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さい。
JSONログフィルタ	JSONログフィルタの作成は、千手オフライザの「フィルタ」→「JSONログフィルタ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行
イベントログフィルタ	イベントログフィルタの作成は、千手オフライザの「フィルタ」→「イベントログフィルタ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニュー
週間スケジュール	週間スケジュールの作成は、千手オフライザの「カレンダー」→「週間スケジュール」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで
タスクスケジュール	タスクスケジュールの作成は、千手オフライザの「カレンダー」→「タスクスケジュール」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニュー
対応種別	対応種別の作成は、千手オフライザの「コマンド」→「パラメータ」→「対応種別」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行
メッセージアクション	メッセージアクションの作成は、千手オフライザの「イベント」→「メッセージアクション」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニュー
メールテンプレート	メールテンプレートの作成は、千手オフライザの「イベント」→「メールテンプレート」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで
メール連絡先	メール連絡先の作成は、千手オフライザの「イベント」→「メール連絡先」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下
連絡先グループ	連絡先グループの作成は、千手オフライザの「イベント」→「連絡先グループ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行っ
セクションテンプレート	セクションテンプレートの作成は、千手オフライザの「イベント」→「セクションテンプレート」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニ
ブックグループ	ブックグループの作成は、千手オフライザの「イベント」→「ブックグループ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下
メッセージフィルタ	メッセージフィルタの作成は、千手オフライザの「フィルタ」→「メッセージフィルタ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行
ユーザー名	ユーザーの作成は、千手オフライザの「コマンド」→「パラメータ」→「ユーザー名」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行っ
営業日カレンダー	営業日カレンダーの作成は、千手オフライザの「カレンダー」→「営業日カレンダー」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで
稼働日カレンダー	稼働日カレンダーの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「稼働日カレンダー」のリストビューから[新規作成]コンテキストメ
動作環境	動作環境の作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「動作環境」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って
動作環境プール	動作環境プールの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「動作環境プール」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニ
トリガ	トリガの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「トリガ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さい。
リソース	リソースの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「リソース」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さ
ジョブ	ジョブの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「ジョブ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さい。
ネット	ネットの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「ネット」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さい。
システム	システムの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「システム」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行って下さ
ジョブサービス	ジョブサービスの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「ジョブサービス」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで
ジョブレポート	ジョブレポートの作成は、千手オフライザの「ジョブスケジュール」→「ジョブレポート」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで
パラメータ	パラメータの作成は、千手オフライザの「コマンド」→「パラメータ」→「パラメータグループ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニ
構成管理ノード	構成管理ノードの作成は、千手オフライザの「コンフィグレーション」→「構成管理ノード」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニ
接続設定	接続設定の作成は、千手オフライザの「コンフィグレーション」→「接続設定」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行っ
構成管理項目	構成管理項目の作成は、千手オフライザの「コンフィグレーション」→「構成管理項目」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニ
実行ユニット	実行ユニットの作成は、千手オフライザの「コンフィグレーション」→「実行ユニット」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで
履歴表示設定	履歴表示設定の作成は、千手オフライザの「コンフィグレーション」→「履歴表示設定」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニ
アイテムグループ	アイテムグループの作成は、千手オフライザの「ITリレーション」→「アイテムグループ」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニュー
アイテムサブカテゴリ	アイテムサブカテゴリの作成は、千手オフライザの「ITリレーション」→「アイテム」→「カスタム定義」のリストビューから[新規作成]コンテキ
アイテム	アイテムの作成は、千手オフライザの「ITリレーション」→「アイテム」→「カテゴリ名」→「アイテムサブカテゴリ名」のリストビューから[新規作
リレーション	アイテムグループの作成は、千手オフライザの「ITリレーション」→「リレーション」のリストビューから[新規作成]コンテキストメニューで行

4.1.3. ランブックエディタからのデータの作成

ランブックエディタとは、ブックのセクション、チャプター及び分岐の構成を視覚的に確認、作成できる機能です。複雑なブックでもビジュアル画面により、容易に編集していくことができます。ランブックエディタでは、定義の参照及び編集をブック単位で行います。

千手オフライザの[ツール]→[ランブックエディタ]メニューを選択して下さい。ランブックエディタが起動します。

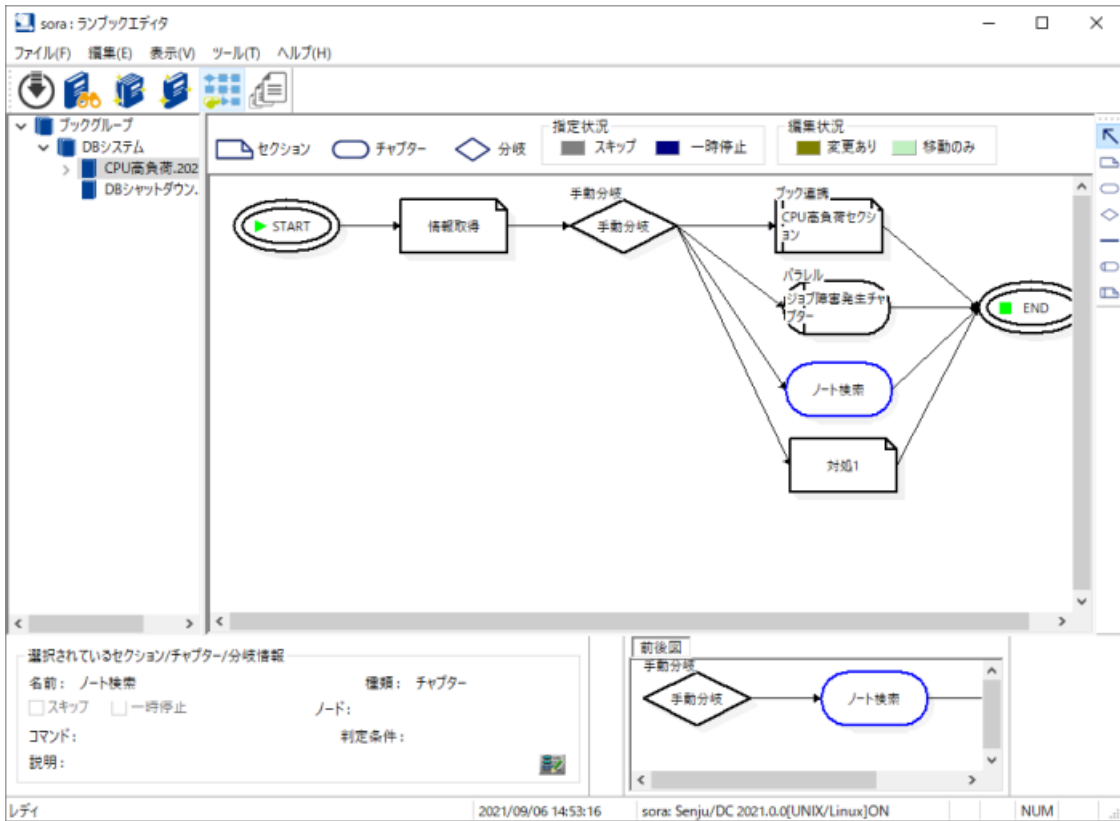


図 4.11 ランブックエディタ

ランブックエディタの使用法については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

4.1.4. ジョブエディタからのデータの作成

ジョブエディタとは、ネットのジョブ、ネット及びトリガの構成を視覚的に確認、作成できる機能です。複雑なネットでもビジュアル画面により、容易に編集していくことができます。

ジョブエディタでは、定義の参照及び編集をネット単位で行います。

手前オフライザの[ツール]→[ジョブエディタ]メニューを選択して下さい。ジョブエディタが起動します。

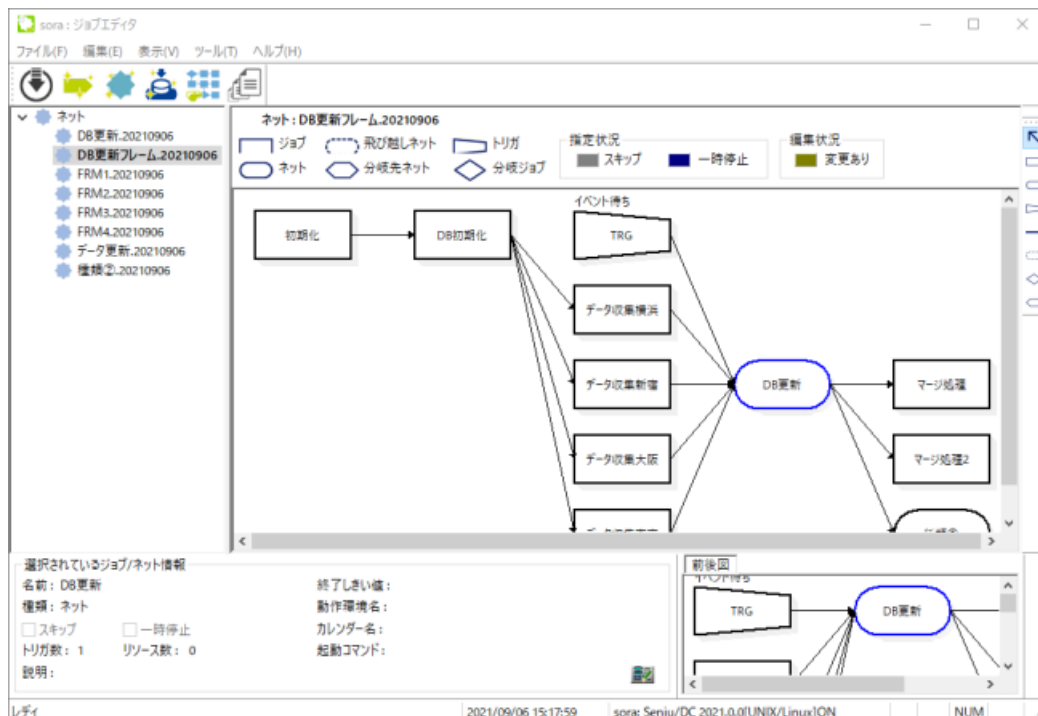


図 4.12 ジョブエディタ

千手オフラインでも定義の参照及び編集を行うことができますが、ジョブエディタでは、ジョブ、ネット及びトリガを図で表示することにより、視覚的に定義の参照及び編集を行うことができます。ジョブ、ネット、トリガの先行関係も図で表示されるため、ネット内のジョブ、ネット及びトリガの先行関係の参照及び編集しやすくなっています。

ジョブエディタの使用方法については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

4.1.5. データの読み込み

千手オフラインでは、千手ブラウザ同様に作成した定義データをMicrosoft Excelなどの表計算ソフトが取り扱えるデータ形式[テキスト(タブ区切り)(*.txt)]に書き出す機能、および、読み込む機能があります。

これにより、本番環境に登録されているジョブデータを千手ブラウザのデータの書き出し機能によって書き出したファイルを受け取り、自席PC上の千手オフラインを用いてファイル読み込みを実施することができ、本番環境のジョブデータの取り込みを容易に行うことができます。

千手オフラインの読み込み機能では、以下の定義データの読み込みを行うことができます。

- ノードグループ
- ノード情報
- 監視項目
- 監視タスク
- 計算式
- ログフィルタ
- JSONログフィルタ
- イベントログフィルタ
- 週間スケジュール
- タスクスケジュール
- メッセージ
- メッセージアクション(全般設定)
- メッセージアクション
- メールテンプレート
- メール連絡先
- 連絡先グループ
- セクションテンプレート
- ブック
- メッセージフィルタ
- 営業日カレンダー
- 稼働日カレンダー
- トリガ
- リソース
- 動作環境
- 動作環境プール
- ジョブ
- ネット.定義有効日
- システム
- ジョブサービス
- ジョブレポート
- パラメータ
- 構成管理ノード
- 接続設定
- 構成管理項目
- 実行ユニット
- 履歴表示設定
- アイテムグループ
- アイテム
- リレーション

[データの読み込み]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オフラインで“ノードグループ”エンティティ、“ノードグループ”エンティティ直下の“ノードグループ”、または“モニタリング”→“カスタムカテゴリ”エンティティ直下の“監視項目”、“計算式”、“カレンダー”エンティティ直下の“週間スケジュール”、“タスクスケジュール”、“営業日カレンダー”、“フィル

タ”エンティティ直下の“ログフィルタ”、“JSONログフィルタ”、“イベントログフィルタ”、“イベント”エンティティ直下の“メッセージ”、“イベント”→“オートメーション”直下の“メッセージアクション”、“メールテンプレート”、“メール連絡先”、“連絡先グループ”、“イベント”→“オートメーション”→“ランブックオートメーション”直下の“セクションテンプレート”、“ブックグループ”エンティティ、“フィルタ”エンティティ直下の“メッセージフィルタ”、“ジョブスケジューラ”エンティティ直下の“稼働日カレンダー”、“トリガ”、“リソース”、“動作環境”、“動作環境プール”、“ジョブ”、“ネット.定義有効日”、“システム”、“ジョブサービス”、“ジョブレポート”、“コンフィグレーション”エンティティ直下の“構成管理ノード”、“接続設定”、“構成管理項目”、“実行ユニット”、“履歴表示設定”エンティティ、“ITリレーション”エンティティ直下の“アイテムグループ”、“アイテム”、“リレーション”エンティティ(以下システム項目エンティティと呼ぶ)を選択した状態。

2. ツリービューでシステム項目エンティティを選択し、リストビューで1つも選択しない状態。

なお、システム項目エンティティを複数選択したコンテキストメニューで[データの読み込み]を選択した場合でも、データの読み込みダイアログは1つしか表示されません。

データの読み込み機能の詳細については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

4.1.6. データの読み込み(差分のみ)

千手オフライザでは、ノードグループの定義データの読み込みを行うことにより、差分があるエンティティのデータのみを読み込むことができます。

データの読み込み(差分のみ)コンテキストメニューは、以下の3つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オフライザで“ノードグループ”エンティティ、“ノードグループ”エンティティ直下の“ノードグループ”を選択した状態。
2. ツリービューで“ノードグループ”エンティティを選択し、リストビューで1つも選択しない状態。
3. ツリービューで“ノードグループ”エンティティ直下の“ノードグループ”を選択し、リストビューで1つも選択しない状態。

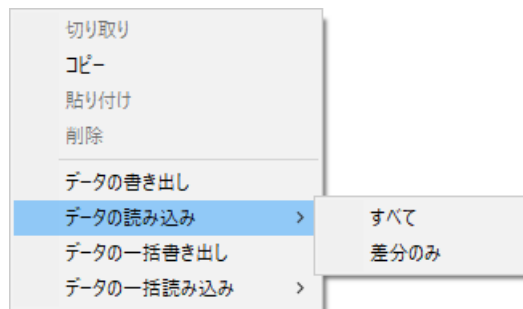


図 4.13 データの読み込み(差分のみ)

表示されたコンテキストメニューで[データの読み込み]→[差分のみ]を選択します。表示されるデータの読み込み[差分のみ]ダイアログを下記に示します。

注釈

コンテキストメニューで[データの読み込み]→[すべて]を選択した場合は、差分の無いデータも含めた全てのデータの読み込みを行います。



図 4.14 データの読み込み[差分のみ]ダイアログ

データの読み込み機能の詳細については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

4.1.7. データの一括読み込み

ジョブスケジュールの定義データの読み込み機能には、定義データ毎にファイル名を指定する方法以外に、入力フォルダ、または千手オプライザファイルを指定して定義データを一括で読み込みを行う機能があります。

定義データの一括読み込み機能で読み込みを行うことができる定義データは以下の定義データです。

- 監視項目
- 監視タスク
- 計算式
- ログフィルタ
- JSONログフィルタ
- イベントログフィルタ
- 週間スケジュール
- タスクスケジュール
- メッセージ
- メッセージアクション(全般設定)
- メッセージアクション
- メールテンプレート

- メール連絡先
- 連絡先グループ
- セクションテンプレート
- ブック
- メッセージフィルタ
- 営業日カレンダー
- 稼働日カレンダー
- トリガ
- リソース
- 動作環境
- 動作環境プール
- ジョブ
- ネット.定義有効日
- システム
- ジョブサービス
- ジョブレポート
- 構成管理ノード
- 接続設定
- 構成管理項目
- 実行ユニット
- 履歴表示設定
- アイテムグループ
- アイテム
- リレーション

警告

ノードグループ、ノード情報、パラメータの定義データは、定義データの一括読み込み機能では読み込むことはできません。個別読み込み機能を用いて下さい。

[データの一括読み込み]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オフライザで"ノードグループ"エンティティ、または、"イベント"エンティティ、"ジョブスケジュール"エンティティ、"コンフィグレーション"エンティティ、"ITリレーション"エンティティを選択した状態。
2. ツリービューで"ノードグループ"エンティティ、または、"イベント"エンティティ、"ジョブスケジュール"エンティティ、"コンフィグレーション"エンティティ、"ITリレーション"エンティティを選択し、リストビューで1つも選択しない状態。

コンテキストメニューで[データの一括読み込み]を選択したときに表示される画面を下記に示します。



図 4.15 データの一括読み込みダイアログ(入力フォルダ名指定)

テキストを読み込む場合には、「テキスト(タブ区切り)を読み込む」を選択し、入力フォルダを指定します。

千手オフライザファイルを読み込む場合には、「千手オフライザファイルを読み込む」を選択し、入力ファイルを指定します。

[次へ]ボタンを押すと、各エンティティのデータファイル名が自動的に埋め込まれたダイアログが表示されます。

「テキスト(タブ区切り)を読み込む」を選択した場合の画面と、「千手オフライザファイルを読み込む」を選択した場合の画面を下記に示します。

警告

「テキスト(タブ区切り)を読み込む」を選択した際、読み込み可能な定義ファイルの文字コードはSJISのみです。



図 4.16 データの一括読み込みダイアログ(テキスト読み込み)



図 4.17 データの一括読み込みダイアログ(千手オフライザファイル読み込み)

”千手オフライザファイルを読み込む”を選択した場合には、ここで個別にファイルを指定することはできません。

以降は、[データの読み込み](#)と同様の手順でジョブスケジュールの定義データの読み込みを行うことができます。

4.1.8. データの一括読み込み(差分のみ)

千手オフライザでは、ノードグループの定義データの一括読み込みを行うことにより、差分があるエンティティのデータのみを一括読み込むことができます。

データの一括読み込み(差分のみ)コンテキストメニューは、以下の状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

- 千手オフライザで”ノードグループ”エンティティを選択した状態。

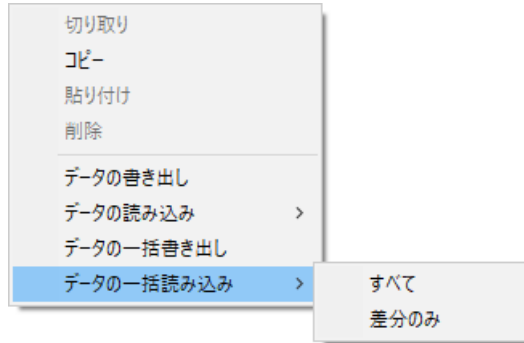


図 4.18 データの一括読み込み(差分のみ)

表示されたコンテキストメニューで[データの一括読み込み]→[差分のみ]を選択します。表示されるデータの一括読み込み[差分のみ]ダイアログを下記に示します。

注釈

- コンテキストメニューで[データの一括読み込み]→[すべて]を選択した場合は、差分の無いデータも含めた全てのデータの一括読み込みを行います。
- ”千手オフライザファイルを読み込む”は利用できません。



図 4.19 データの一括読み込み[差分のみ]ダイアログ

”テキスト(タブ区切り)を読み込む”を選択し、入力フォルダを指定します。

[次へ]ボタンを押すと、各エンティティのデータファイル名が自動的に埋め込まれたダイアログが表示されます。

データの一括読み込み(ノードグループ[差分のみ])

追加/変更
 追加のみ 追加および変更

ノードグループ: C:\\$SENJU_DATA\\$ノードグループ.txt

監視レシポ: C:\\$SENJU_DATA\\$監視レシポ.txt

監視項目: C:\\$SENJU_DATA\\$カスタム監視項目.txt

監視タスク: C:\\$SENJU_DATA\\$監視タスク.txt

計算式: C:\\$SENJU_DATA\\$計算式.txt

ログフィルタ: C:\\$SENJU_DATA\\$ログフィルタ.txt

JSONログフィルタ: C:\\$SENJU_DATA\\$JSONログフィルタ.txt

イベントログフィルタ: C:\\$SENJU_DATA\\$イベントログフィルタ.txt

週間スケジュール: C:\\$SENJU_DATA\\$週間スケジュール.txt

タスクスケジュール: C:\\$SENJU_DATA\\$タスクスケジュール.txt

営業日カレンダー: C:\\$SENJU_DATA\\$営業日カレンダー.txt

ノード内監視タスク_差分用: C:\\$SENJU_DATA\\$ノード内監視タスク_差分用.txt

ログ監視: C:\\$SENJU_DATA\\$ログ監視.txt

ノード_差分用: C:\\$SENJU_DATA\\$ノード_差分用.txt

この操作を元に戻すことはできないため、事前に書き出しを行なってから読み込むことをお勧めします。
 [次へ]ボタンを押すと、指定したファイルの内容を確認できます。

< 戻る(B) 次へ(N) > キャンセル

図 4.20 データの一括読み込み(ノードグループ[差分のみ])(テキスト読み込み)

以降は、[データの読み込み](#)と同様の手順でノードグループの定義データの読み込みを行うことができます。

4.1.9. デプロイテンプレートの読み込み

Senju DevOperation Conductorでは、負荷などに応じて業務サーバーが自動的に増減する環境(例えばAmazon Web Services環境)において、自動的に業務サーバーの変化に追従して適切に業務サーバーを管理対象とする機能があります。ここでは、管理対象の変化対応の一環として業務サーバーを管理対象とするためのデプロイテンプレートの作成、外部デプロイテンプレートの取込について説明します。

[デプロイテンプレートの読み込み]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できません。

1. 千手オフライザのツリービューでデプロイノードグループを選択した状態。
2. 千手オフライザのリストビューでデプロイノードグループを選択した状態。

コンテキストメニューで[デプロイテンプレートの読み込み]を選択したときに表示される画面を下記に示します。

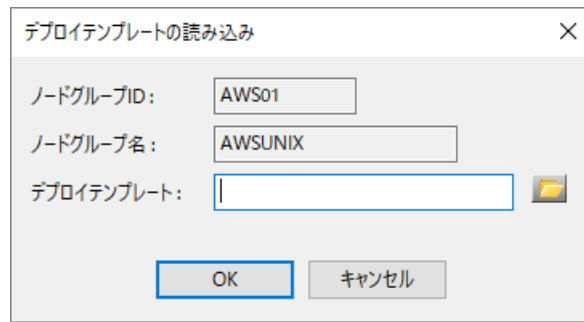


図 4.21 デプロイテンプレートの読み込みダイアログ

対象デプロイテンプレートを指定し、[OK]ボタンを押下すると、対象デプロイテンプレートに定義されているノード情報、ノードの監視タスク情報が選択されているデプロイノードグループに登録されます。

デプロイテンプレートの読み込み時に表示される画面を下記に示します。

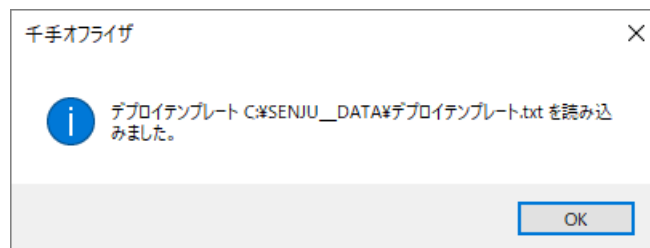


図 4.22 デプロイテンプレートの読み込み結果ダイアログ

4.1.10. 千手オフライザデータファイルの保存・開く

各データを作成した結果を、千手オフライザファイル(*.snj)やJSONファイル(*.json)としてそのまま保存することができます。保存した千手オフライザデータファイルを再度開くことにより、作成したデータの参照・編集作業の継続を行うことができます。また、千手ブラウザ、千手オフライザ共に、データの一括読み込みで千手オフライザファイル(*.snj)を使用することができます。

警告

データの一括読み込みにはJSONファイル(*.json)は使用できません。

編集中のデータを保存する場合は、千手オフライザの[ファイル]→[名前を付けて保存]メニューを選択して下さい。表示されるファイル保存ダイアログでファイルの種類と保存先ファイル名を指定し、[保存]ボタンを押すと、千手オフライザデータファイルとして保存されます。

なお、千手オフライザデータを保存すると、保存ファイル名とファイルのハッシュ値が記載されたmd5ファイル(*.md5)も同時に保存されます。

以下はデータを千手オフライザファイル(*.snj)として保存する場合の例です。JSONファイルとして保存する場合は、ファイルの種類としてJSONファイル(*.json)を指定して下さい。

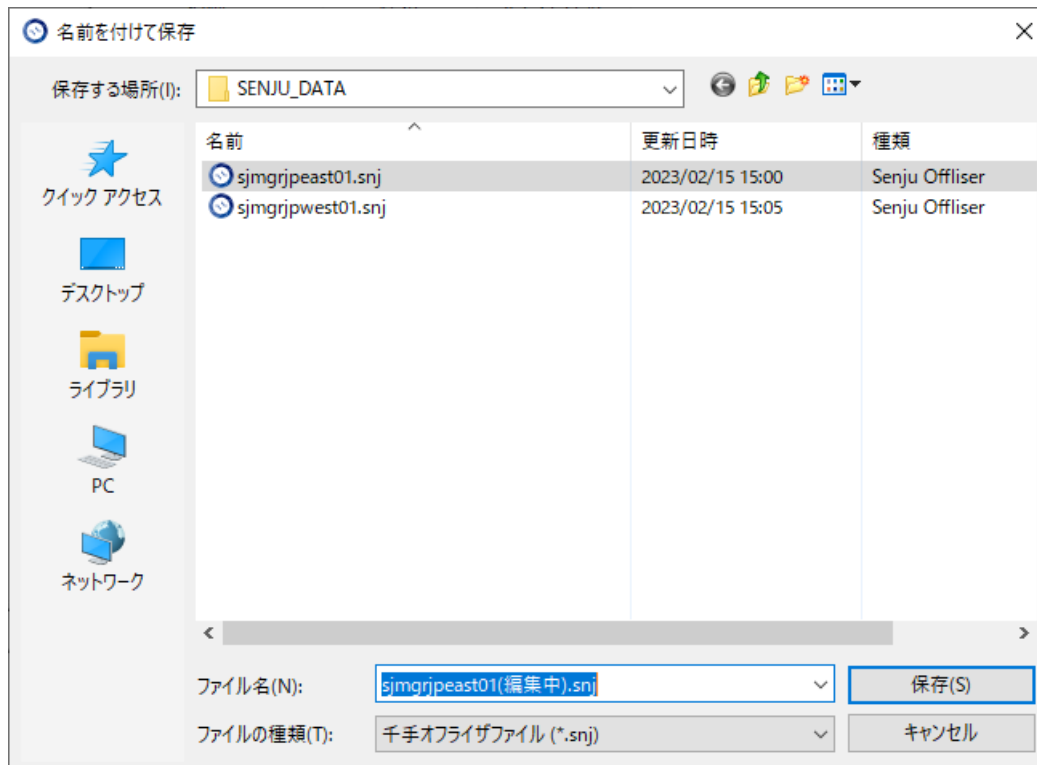


図 4.23 ファイル保存ダイアログ(1)

保存した千手オフライザデータファイルを再度開く場合は、千手オフライザの[ファイル]→[開く]メニューを選択して下さい。表示されるファイル選択ダイアログで千手オフライザデータファイルのファイル形式とファイル名を指定し、[開く]ボタンを押すと、保存したファイルを開くことができます。

千手オフライザファイルの場合、直接ダブルクリックすることによっても、ファイルを開くことができます。

以下はメニューから千手オフライザファイル(*.snj)を開く場合の例です。JSONファイルを開く場合は、ファイルの種類としてJSONファイル(*.json)を指定して下さい。

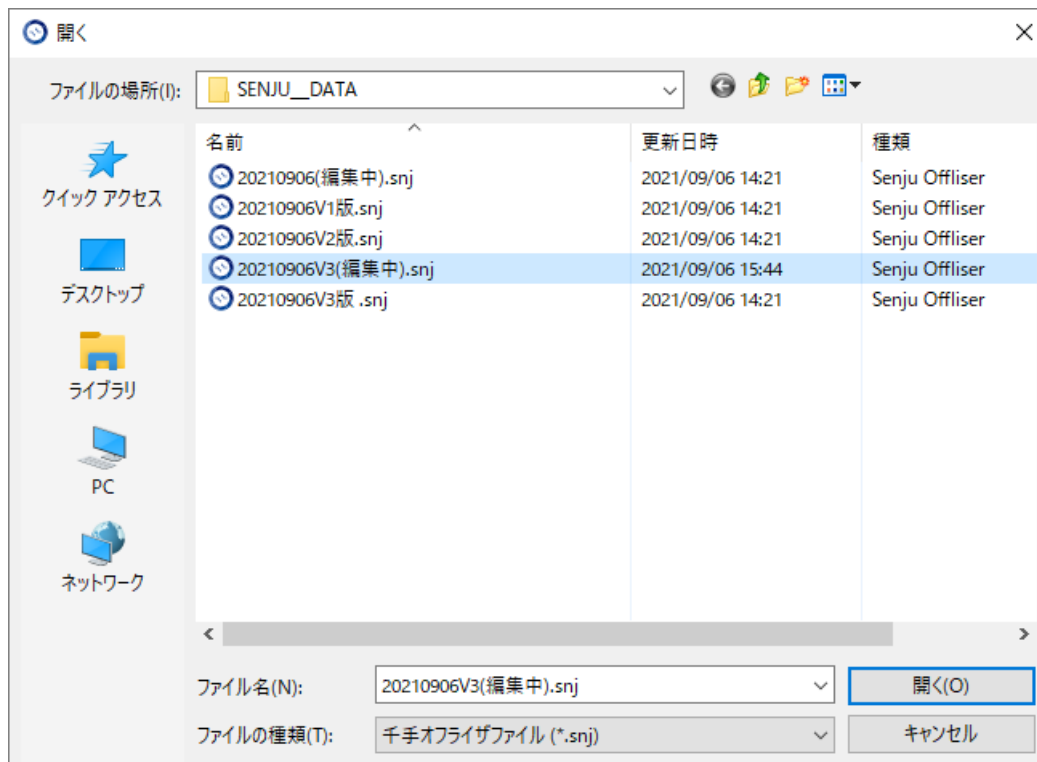


図 4.24 ファイル選択ダイアログ

編集中のデータを、再度同じ名前でも保存する場合は、千手オフライザの[ファイル]→[上書き保存]メニューを選択して下さい。開いている千手オフライザデータファイルに上書き保存されます。この時、md5ファイルも上書き更新されます。

- フィルタ管理ファイルは、以下のように自動的に出力される場合があるため、フィルタ設定の変更内容をフィルタ管理ファイルに反映したくない場合は、事前にマスターのファイルをコピーし、コピーしたファイルを読み込んで使用するようして下さい。
 - フィルタの設定を行っている場合は、千手オフライザファイルの書き出し([ファイル]→[上書き保存]、[ファイル]→[名前を付けて保存]メニュー選択時、またはオフライザを閉じた場合)時に、千手オフライザファイルと同一フォルダ上に、千手オフライザファイルと同名で拡張子が[snv]のフィルタ管理ファイル名を、自動的にフィルタ管理ファイルとして出力します。
- 千手オフライザファイルの読み込み ([ファイル]→[開く]、[ファイル]→[千手バージョンを指定して開く]メニュー選択時、または千手オフライザファイルをダブルクリックしてオフライザを起動した場合)時に、千手オフライザファイルと同一フォルダ上にある、千手オフライザファイルと同名で拡張子が[snv]のフィルタ管理ファイル名を、自動的にフィルタ管理ファイルとして読み込み、フィルタ設定します。フィルタ管理ファイルが存在しない場合は、フィルタは設定されません。

4.1.11. 千手マネージャの新バージョンのデータ変換

千手オフライザファイルを開く際に、千手のバージョンを指定することにより、古い千手バージョン用のオフライザファイルを、新しい千手バージョン用に変換して開くことができます。

千手オフライザの[ファイル]→[千手バージョンを指定して開く]メニューを選択して下さい。表示されるファイル選択ダイアログで千手オフライザファイル名とバージョンを指定し、[開く]ボタンを押すと、新しい千手バージョンで千手オフライザファイルを開くことができます。JSONファイルも千手オフライザファイルと同様に新しい千手バージョンで開くことができます。

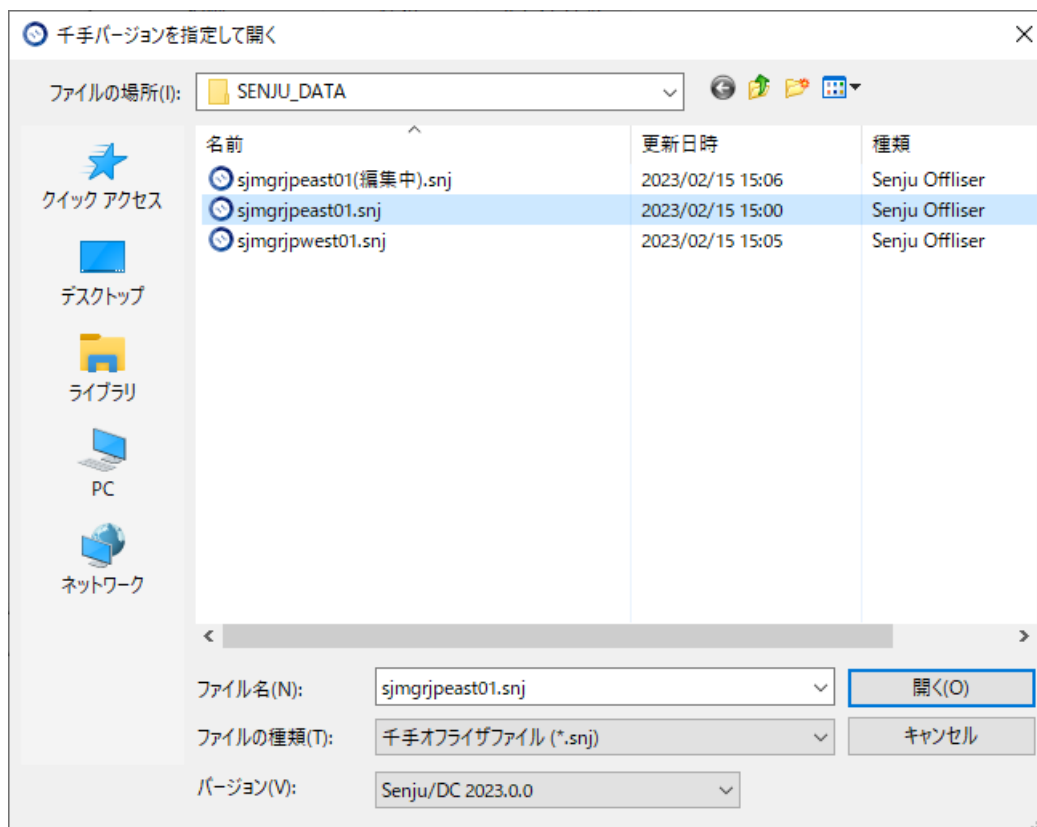


図 4.25 ファイル保存ダイアログ(2)

注釈

eXsenju V2.0.0未満のオフライザファイルをeXsenju V2.0.0以上のバージョンで読み込んだ場合、ジョブ/ネットの開始時刻指定が設定されている場合、ジョブ/ネットの遅延監視の開始時刻に、ジョブ/ネット自体の開始時刻指定の値が自動で設定されます。

4.1.12. ドメイン名の変更

千手オフライザでは、千手ドメイン(マネージャ)の名称を変更することが可能です。

ツリービューで<ドメイン>を選択して、右クリックして表示されるコンテキストメニューより[プロパティ]を選択すると表示される画面と内容を下記に示します。

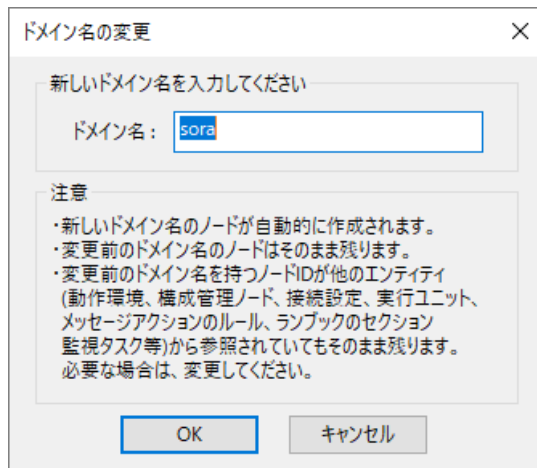


図 4.26 ドメイン名の変更ダイアログ

表 4.2 ドメイン名の変更ダイアログ

項目	内容
「ドメイン名」フィールド	ドメインの名称です。

表 4.3 ドメイン名の変更ダイアログの入力フィールド

項目	使用可能な文字	文字数	省略
「ドメイン名」フィールド	半角英数字 [Windows] 半角英小文字を使用する事はできません。	15文字まで	不可

注釈

- ドメイン名の変更を行うと、変更したドメイン名のノードがエージェントとして自動的に作成されます。変更前のドメイン名のエージェントはそのまま残ります。
- 動作環境で変更前のドメイン名を持つノードIDを使用していた場合、ドメイン名の変更を行っても、動作環境の参照するノードIDの変更は行いません。必要に応じて動作環境定義の変更を行って下さい。

4.1.13. フィルタ設定

フィルタ設定を行うことで、ユーザーが担当する部分のみに公開する範囲を絞ることが可能です。
 千手オプティマイザの[ファイル]→[フィルタ設定] メニューを選べると表示される画面とその内容を下記に示します。

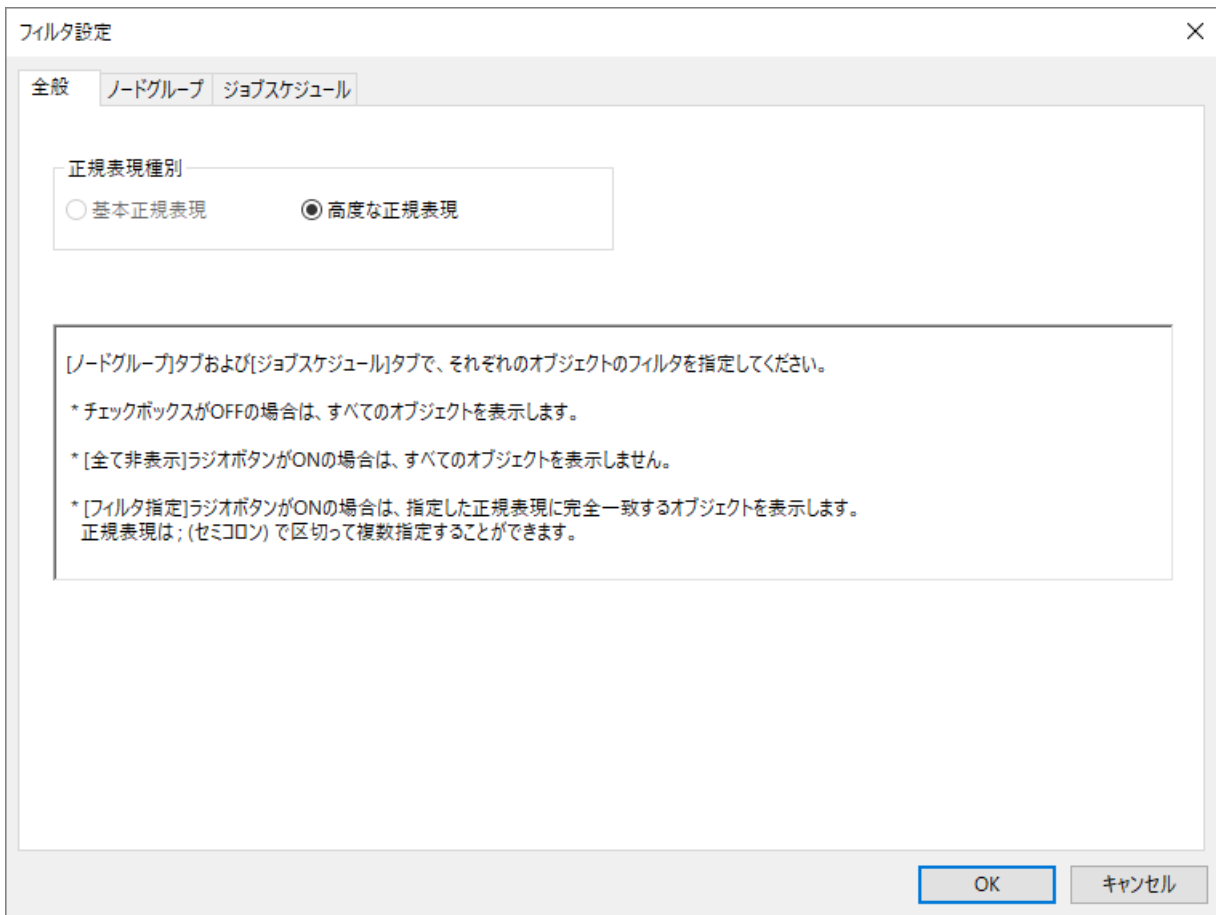


図 4.27 フィルタ設定のダイアログ([全般]タブ)

表 4.4 フィルタの設定のダイアログ([全般]タブ)

項目	内容
「基本正規表現」/「高度な正規表現」選択ラジオボタン	フィルタリングに使用する正規表現種別を選択します。 高度な正規表現のみ選択可能です。

図 4.28 フィルタ設定のダイアログ([ノードグループ]タブ)

表 4.5 フィルタ設定のダイアログ([ノードグループ]タブ)

項目	内容
「ノード」チェックボックス	フィルタ条件に適合するノードの情報のみ表示させたい場合にチェックします。
「カスタム監視項目カテゴリ」チェックボックス	フィルタ条件に適合するカスタム監視項目カテゴリの情報のみ表示させたい場合にチェックします。
「ログフィルタ」チェックボックス	フィルタ条件に適合するログフィルタの情報のみ表示させたい場合にチェックします
「JSONログフィルタ」チェックボックス	フィルタ条件に適合するJSONログフィルタの情報のみ表示させたい場合にチェックします
「イベントログフィルタ」チェックボックス	フィルタ条件に適合するイベントログフィルタの情報のみ表示させたい場合にチェックします。
「週間スケジュール」チェックボックス	フィルタ条件に適合する週間スケジュールの情報のみ表示させたい場合にチェックします
「タスクスケジュール」チェックボックス	フィルタ条件に適合するタスクスケジュールの情報のみ表示させたい場合にチェックします。
「営業日カレンダー」チェックボックス	フィルタ条件に適合する営業日カレンダーの情報のみ表示させたい場合にチェックします。
「全て非表示」/「フィルタ指定」選択ラジオボタン	各チェックボックスをチェックした場合に活性になります。 -全て非表示
	チェックした項目のオブジェクトを全て非表示にする場合にチェックします。 -フィルタ指定
「フィルタ指定」フィールド	チェックした項目のオブジェクトに対してフィルタ条件を指定する場合にチェックします。
	フィルタ指定をチェックした場合に活性になります。 フィルタ条件を入力します。ここに入力した正規表現に完全一致するオブジェクトのみ表示されます。 ';'を区切り文字として、複数のフィルタ条件を同時に指定することができます。

表 4.6 フィルタ設定のダイアログ([ノードグループ]タブ)の入力フィールド

フィールド	使用可能な文字	文字数	省略
フィルタ指定	全ての文字 [全般]タブで選択された正規表現種別にしたがって、正規表現文字のチェックを行います。	1024バイトまで	活性の場合は不可

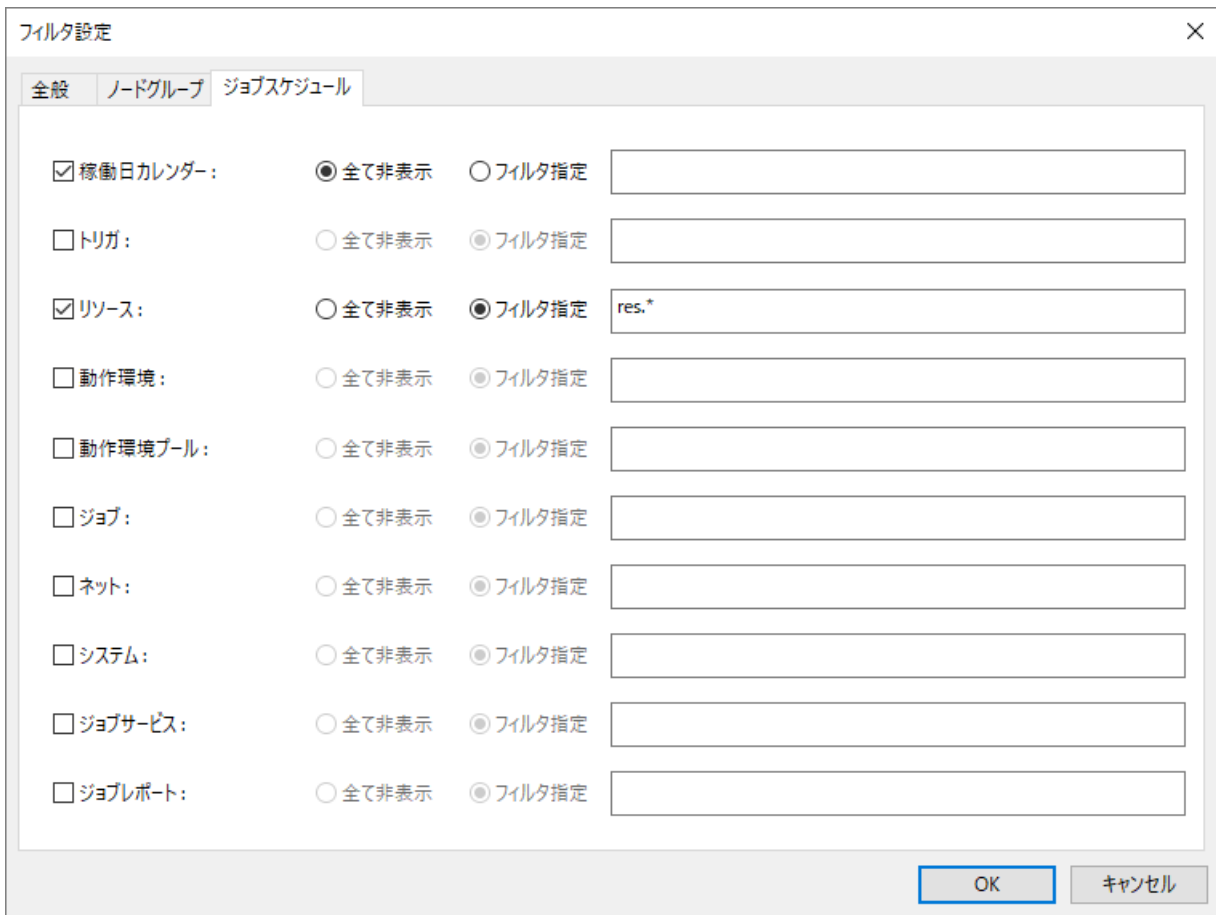


図 4.29 フィルタ設定のダイアログ ([ジョブスケジュール]タブ)

表 4.7 フィルタ設定のダイアログ ([ジョブスケジュール]タブ)

項目	内容
「稼働日カレンダー」チェックボックス	フィルタ条件に適合する稼働日カレンダーの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「トリガ」チェックボックス	フィルタ条件に適合するトリガの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「リソース」チェックボックス	フィルタ条件に適合するリソースの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「動作環境」チェックボックス	フィルタ条件に適合する動作環境の情報のみ表示させる場合にチェックします。
「動作環境プール」チェックボックス	フィルタ条件に適合する動作環境プールの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「ジョブ」チェックボックス	フィルタ条件に適合するジョブの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「ネット」チェックボックス	フィルタ条件に適合するネットの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「システム」チェックボックス	フィルタ条件に適合するシステムの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「ジョブサービス」チェックボックス	フィルタ条件に適合するジョブサービスの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「ジョブレポート」チェックボックス	フィルタ条件に適合するジョブレポートの情報のみ表示させる場合にチェックします。
「全て非表示」/「フィルタ指定」選択ラジオボタン	各チェックボックスをチェックした場合に活性になります。 -全て非表示 チェックした項目のオブジェクトを全て非表示にする場合にチェックします。
	-フィルタ指定 チェックした項目のオブジェクトに対してフィルタ条件を指定する場合にチェックします。
「フィルタ指定」フィールド	フィルタ指定をチェックした場合に活性になります。 フィルタ条件を入力します。ここに入力した正規表現に完全一致するオブジェクトのみ表示されます。 ';'を区切り文字として、複数のフィルタ条件を同時に指定することができます。

表 4.8 フィルタ設定のダイアログ ([ジョブスケジュール]タブ)の入力フィールド

フィールド	使用可能な文字	文字数	省略
フィルタ指定	全ての文字 [全般]タブで選択された正規表現種別にしたがって、正規表現文字のチェックを行います。	1024バイトまで	不可

フィルタ設定の内容をデータに反映する場合は、千手オフライザの[ファイル]→[フィルタを使用する]メニューを選択して下さい。
フィルタ設定の内容が反映されている場合、千手オフライザウィンドウの左上にあるアイコンがピンク色に点灯します。

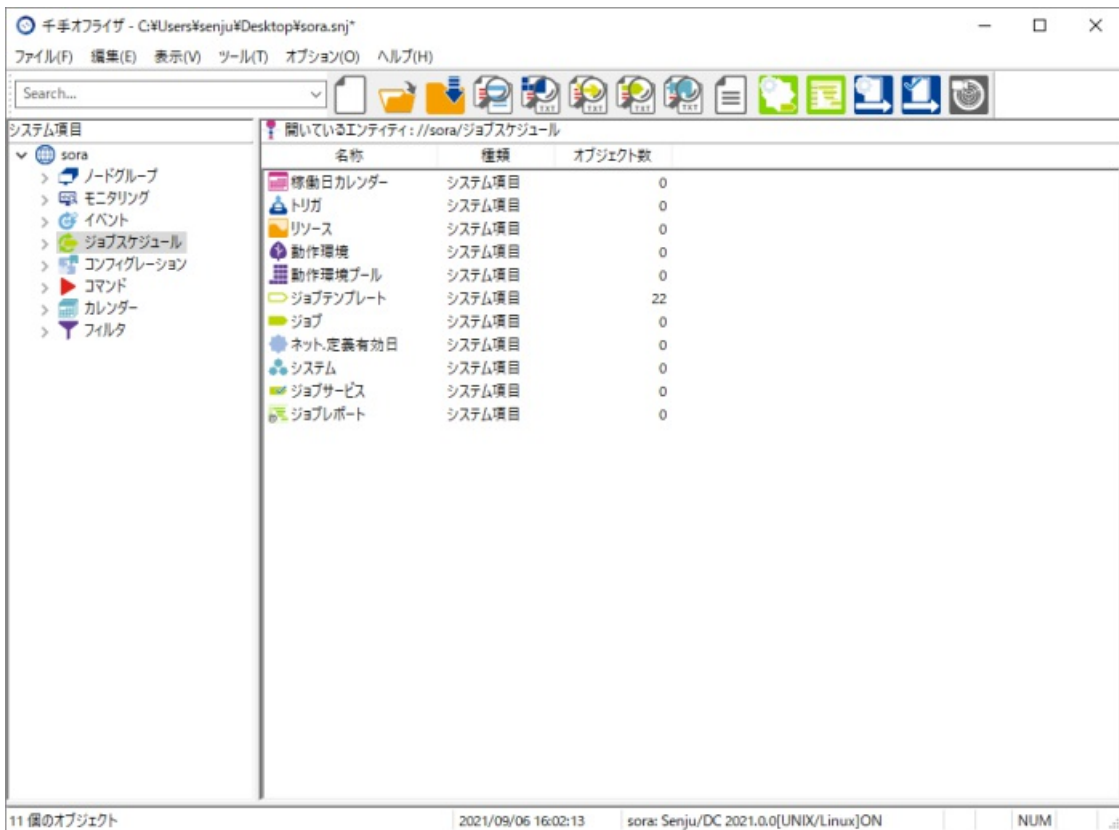


図 4.30 「フィルタを使用する」選択時の千手オフライザウィンドウ

フィルタ設定の内容をデータに反映を解除する場合は、千手オフライザの[ファイル]→[フィルタを使用しない]メニューを選択して下さい。
 フィルタ設定の内容が反映されていない場合、千手オフライザウィンドウの左上にあるアイコンが消灯します。

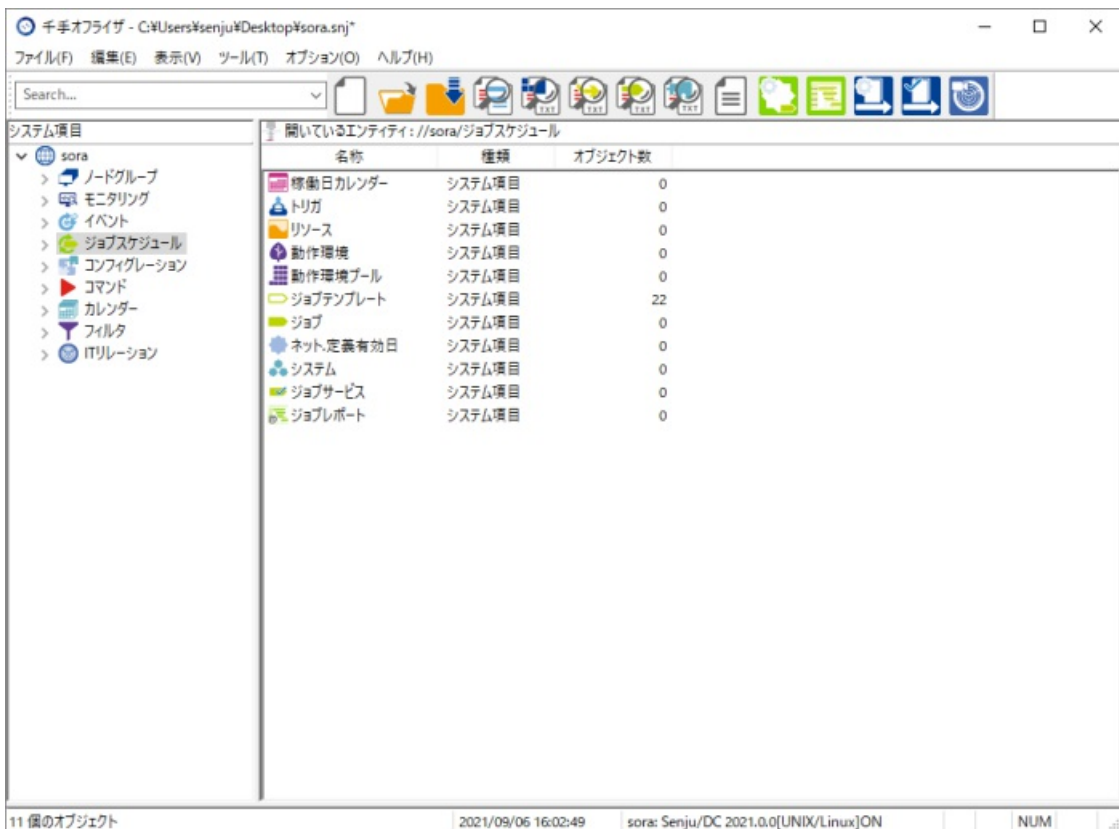


図 4.31 「フィルタを使用する」選択時の千手オフライザウィンドウ

警告

- フィルタ管理ファイルは、以下のように自動的に出力される場合があるため、フィルタ設定の変更内容をフィルタ管理ファイル

に反映したくない場合は、事前にマスターのファイルをコピーし、コピーしたファイルを読み込んで使用するようして下さい。

- フィルタの設定を行っている場合は、千手オフライザファイルの書き出し([ファイル]→[上書き保存]、[ファイル]→[名前を付けて保存]メニュー選択時、またはオフライザを閉じた場合)時に、千手オフライザファイルと同一フォルダ上に、千手オフライザファイルと同名で拡張子が[snv]のフィルタ管理ファイル名を、自動的にフィルタ管理ファイルとして出力します。
- 千手オフライザファイルの読み込み([ファイル]→[開く]、[ファイル]→[千手バージョンを指定して開く]メニュー選択時、または千手オフライザファイルをダブルクリックしてオフライザを起動した場合)時に、千手オフライザファイルと同一フォルダ上にある、千手オフライザファイルと同名で拡張子が[snv]のフィルタ管理ファイル名を、自動的にフィルタ管理ファイルとして読み込み、フィルタ設定します。フィルタ管理ファイルが存在しない場合は、フィルタは設定されません。

4.1.14. フィルタ管理ファイルの保存・読み込み

フィルタ設定の内容を、フィルタ管理ファイル(拡張子.snv)としてそのまま保存することができます。保存したフィルタ管理ファイルを読み込むことにより、保存したフィルタ設定の内容を千手オフライザに反映することができます。

フィルタ設定を保存する場合は、千手オフライザの[ファイル]→[フィルタ管理ファイルの名前を付けて保存]メニューを選択して下さい。表示されるファイル保存ダイアログで保存先ファイル名を指定し、[保存]ボタンを押すと、フィルタ管理ファイルとして保存されます。

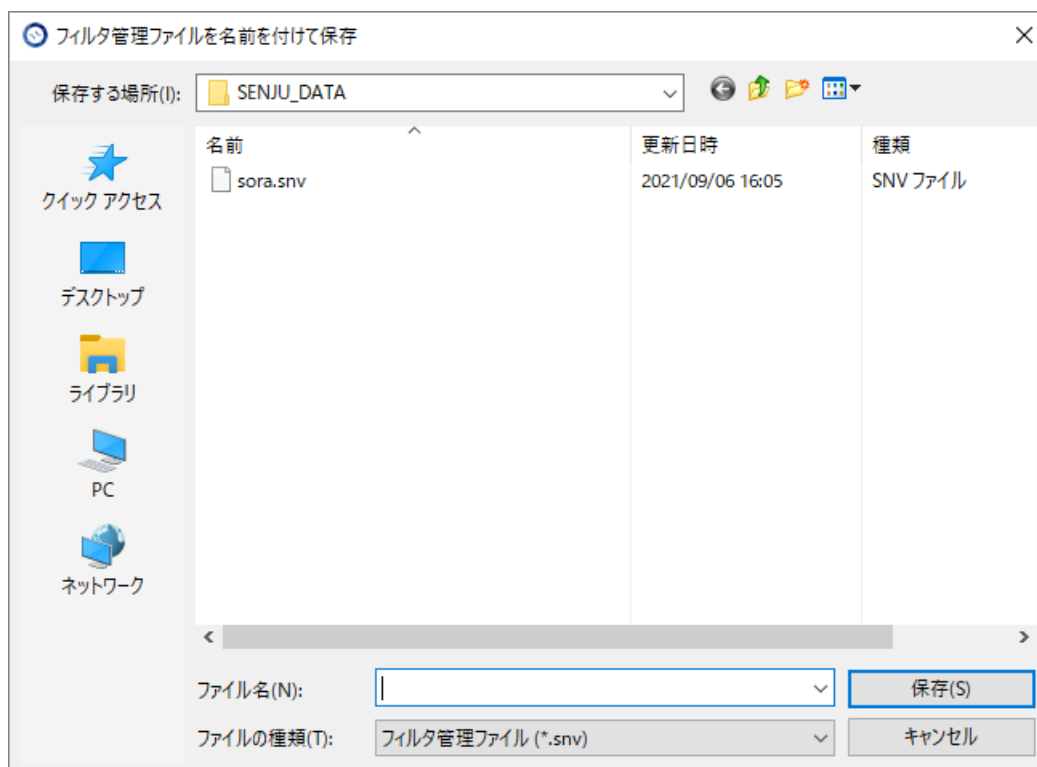


図 4.32 ファイル保存ダイアログ(フィルタ管理ファイル)

保存したフィルタ管理ファイルを読み込む場合は、千手オフライザの[ファイル]→[フィルタ管理ファイルの読み込み]メニューを選択して下さい。表示されるファイル選択ダイアログで千手オフライザファイル名を指定し、[開く]ボタンを押すと、保存したフィルタ管理ファイルを読み込むことができます。

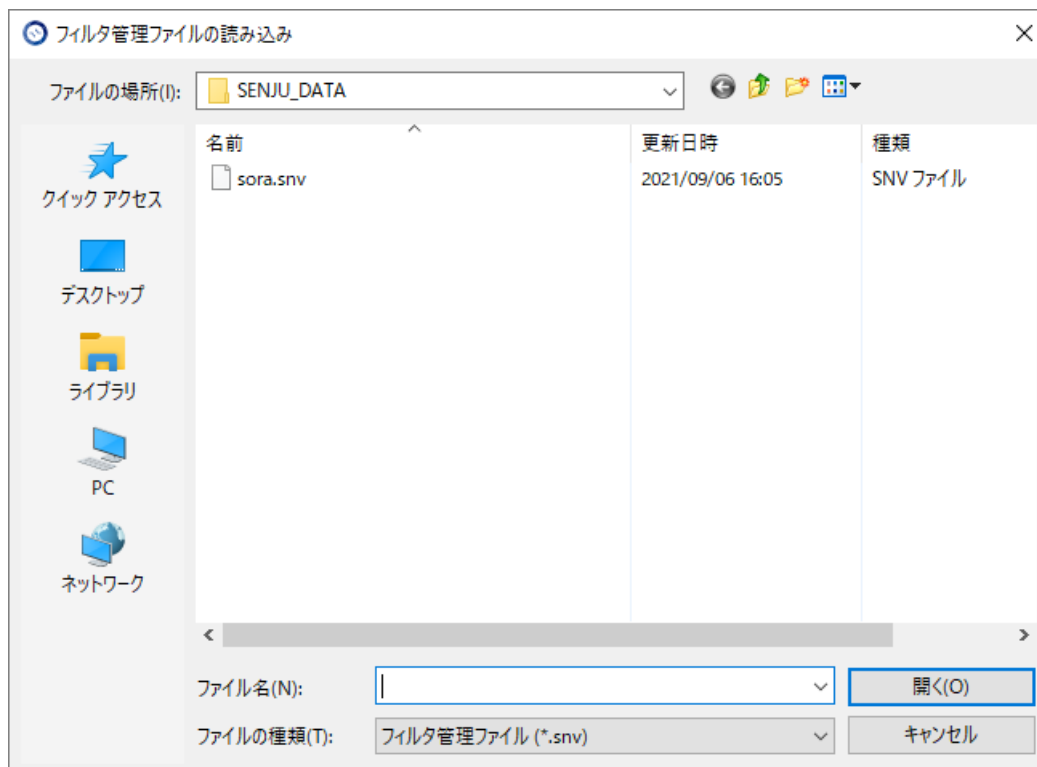


図 4.33 ファイル選択ダイアログ(フィルタ管理ファイル)

4.2. データのチェック

4.2.1. データのチェックについて

作成したデータに誤りがないかをチェックするために、千手オフライザでは下記のようなチェック機能をサポートしています。

- 千手オフライザデータファイル間の差分表示
- 千手書き出しテキストファイルとの差分表示
- ランプックチェッカを使用したブックの分岐チェック
- ルールのシミュレーション
- リレーションのシミュレーション
- ネットの差分出力
- 稼働日一覧作成／ジョブ差分一覧／トリガの参照先チェック
- 実行システム作成チェック
- 関係する項目一覧作成

4.2.2. 千手オフライザデータファイル間の差分表示

千手オフライザでは、千手オフライザ上に表示している定義情報と、指定された別の千手オフライザデータファイルの情報を比較し、差分情報を表示する機能があります。

差分表示を行うことができるのは、以下の定義情報です。

- ノードグループ
- ノード情報
- 監視タスク
- ログフィルタ
- JSONログフィルタ
- イベントログフィルタ
- 週間スケジュール
- タスクスケジュール
- カスタム監視項目

- 計算式
- モニタリング
- メッセージ
- メッセージアクション
- メールテンプレート
- メール連絡先
- 連絡先グループ
- セクションテンプレート
- ブック
- メッセージフィルタ
- メッセージ密度
- メッセージ分布
- 営業日カレンダー
- 稼働日カレンダー
- トリガ
- リソース
- 動作環境
- 動作環境プール
- ジョブ
- ネット.定義有効日
- システム
- ジョブサービス
- ジョブレポート
- ジョブ遅延分析
- 構成管理ノード
- 接続設定
- 構成管理項目
- 実行ユニット
- 履歴表示設定

千手オフライザの[ファイル]→[差分の表示]メニューを選択して下さい。表示される差分対象ファイル選択ダイアログにて、比較したい千手オフライザデータファイルの種類(*.snj または *.json)とファイル名を指定し、[開く]ボタンを押します。

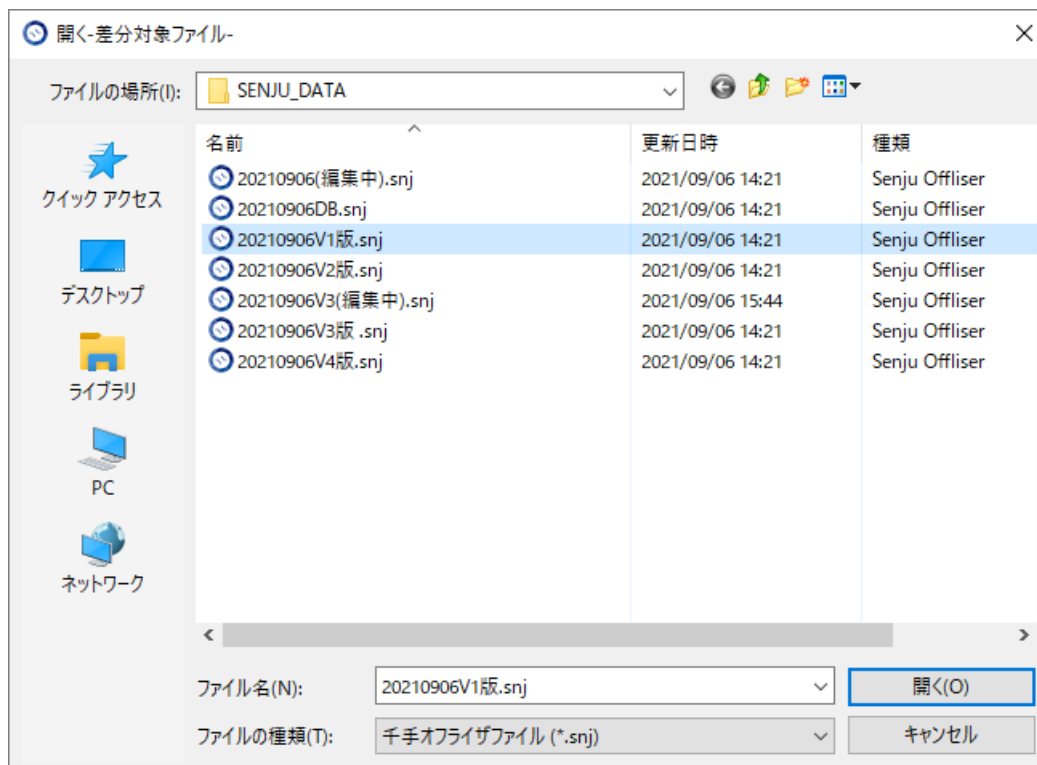


図 4.34 差分対象ファイル選択ダイアログ

千手オフライザ画面が **差分表示モード** に切り替わります。

差分表示モードでは、リストビューの背景の色が変わり、リストビューにツリービューで選択したエンティティの差分情報が表示されます。また、リストビューの上部には、選択されているエンティティの差分のサマリ情報(追加数、変更数、削除数)が表示されます。差分表示モードの画面と、リストビューに表示される項目と内容を下記に示します。

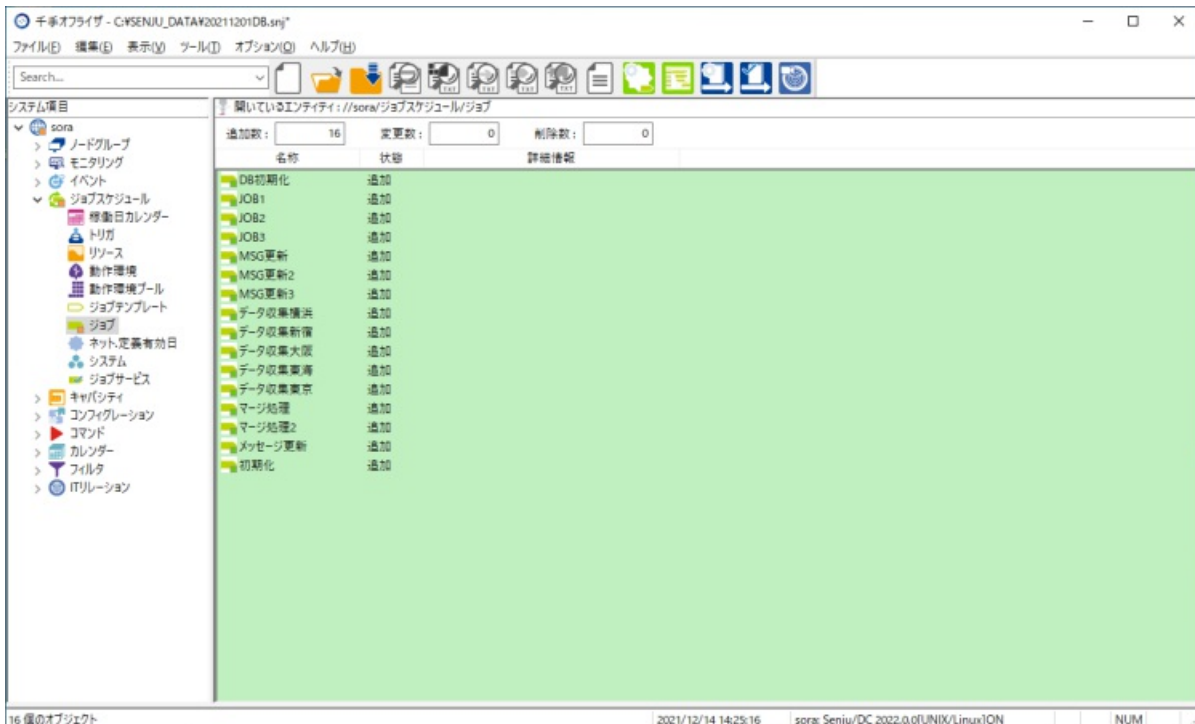


図 4.35 差分表示モード

表 4.9 差分

項目	内容
名称	各エンティティの定義の名称です。
状態	差分の状態です。以下の3つの状態があります。状態が追加、削除、変更の場合、エンティティの状態を示すマークが付きます。エンティティの追加: 比較先に存在しておらず、比較元に存在しているもの。該当するエンティティに緑色のマークが付きます。 削除: 比較先に存在しており、比較元に存在していないもの。該当するエンティティに赤色のマークが付きます。 変更: 比較先、比較元共に定義が存在しているが、定義の内容が異なるもの。該当するエンティティに橙色のマークが付きます。
詳細情報	差分の詳細の内容です。 状態が“変更”の定義のみ表示されます。 差分表示モードの状態、新規作成を行ったエンティティは“(差分表示後追加)”と表示されます。 差分表示モードの状態、変更を行ったエンティティは“(差分表示後編集)”と表示されます。

注釈
<ul style="list-style-type: none"> 差分情報が多い場合は、「詳細情報」項目に表示される文字列が途中で切れる場合があります。その場合は、そのレコードを選択し[編集]→[コピー]を行い、TXTファイルなどに貼り付けを行って参照して下さい。 エンティティの状態を示すマークが上位のエンティティに伝播する場合、追加、削除、変更いずれの場合でも橙色のマークが伝播されます。

差分表示モードの画面から通常モードに戻すには、千手オフライザの[ファイル]→[全体の表示]メニューを選択して下さい。

4.2.3. 千手書き出しテキストファイルとの差分表示

千手オフライザでは、千手オフライザ上に表示している定義情報と、指定された千手書き出し定義データのテキストファイルの情報を比較し、差分情報を表示する機能があります。

差分表示を行うことができるのは、以下の定義情報です。

- ノードグループ
- ノード情報
- 監視タスク
- ログフィルタ
- JSONログフィルタ

- イベントログフィルタ
- 週間スケジュール
- タスクスケジュール
- カスタム監視項目
- 計算式
- メッセージ
- メッセージアクション(全般設定)
- メッセージアクション
- メールテンプレート
- メール連絡先
- 連絡先グループ
- セクションテンプレート
- ブック
- メッセージフィルタ
- メッセージ密度
- メッセージ分布
- 営業日カレンダー
- 稼働日カレンダー
- トリガ
- リソース
- 動作環境
- 動作環境ルール
- ジョブ
- ネット.定義有効日
- システム
- ジョブサービス
- ジョブレポート
- ジョブ遅延分析
- 構成管理ノード
- 接続設定
- 構成管理項目
- 実行ユニット
- 履歴表示設定

千手オフィザの[ファイル]→[書き出しファイルとの差分の表示]→[ノード/イベント/ジョブスケジュール/コンフィグレーション]メニューを選択して下さい。表示される書き出しファイルとの差分ダイアログを下記に示します。



図 4.36 差分対象フォルダ選択ダイアログ

差分情報を表示する定義データを格納しているフォルダを指定し、[次へ]ボタンを押します。各エンティティのデータファイル名が自動的に埋め込まれたダイアログが表示されます。表示される[データの読み込み]ページを下記に示します。



図 4.37 [データの読み込み]ページ

各エンティティのデータファイル名を確認し、[次へ]ボタンを押します。指定されたファイルの内容を解析し、解析結果を表示します。表示される[データの読み込み内容]ページ([全般]タブ)を下記に示します。



図 4.38 [データの読み込み内容]ページ([全般]タブ)

[次へ]ボタンを押すと、読み込んだ内容をオフラインに反映し差分表示を行うかどうかの[確認]ページを表示します。表示される[確認]ページを下記に示します。

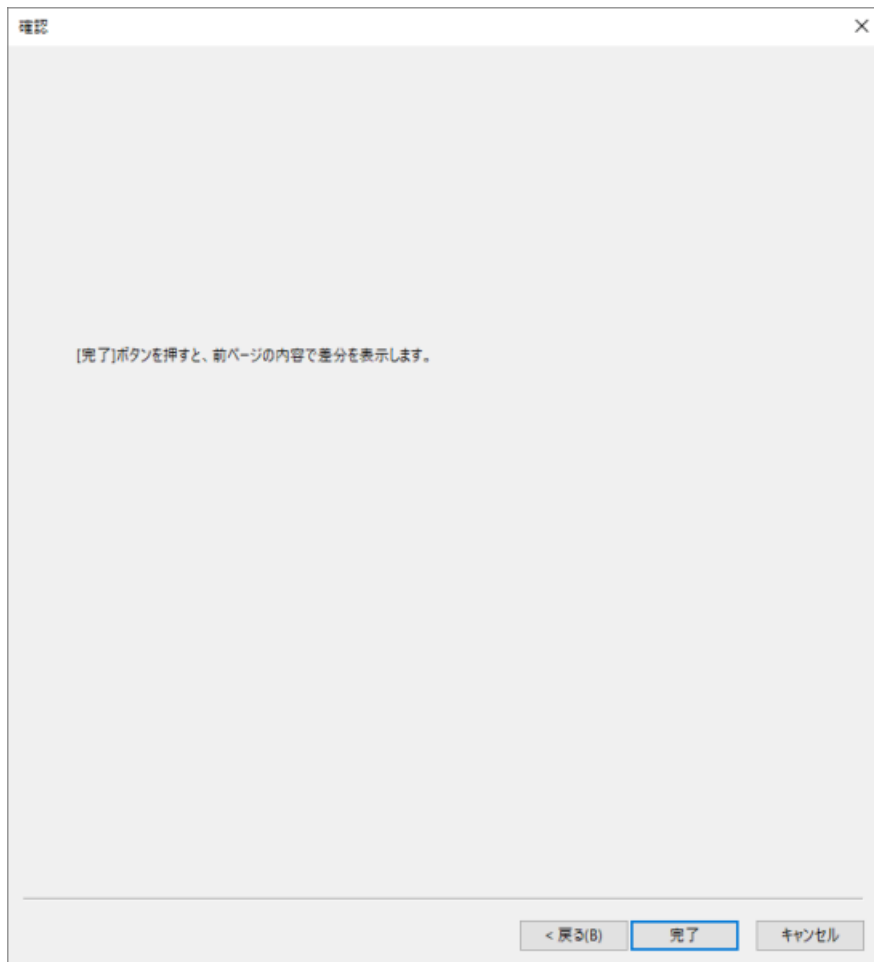


図 4.39 [確認]ページ

[確認]ページで [完了]ボタンを押すと、読み込んだ内容をオフライザに反映し、千手オフライザ画面が差分表示モードに切り替わります。差分表示モードでは、リストビューの背景の色が変わり、リストビューにツリービューで選択したエンティティの差分情報が表示されます。また、リストビューの上部には、選択されているエンティティの差分のサマリ情報(追加数、変更数、削除数)が表示されます。差分表示モードの画面と、差分表示モードのリストビューに表示される項目と内容を下記に示します。

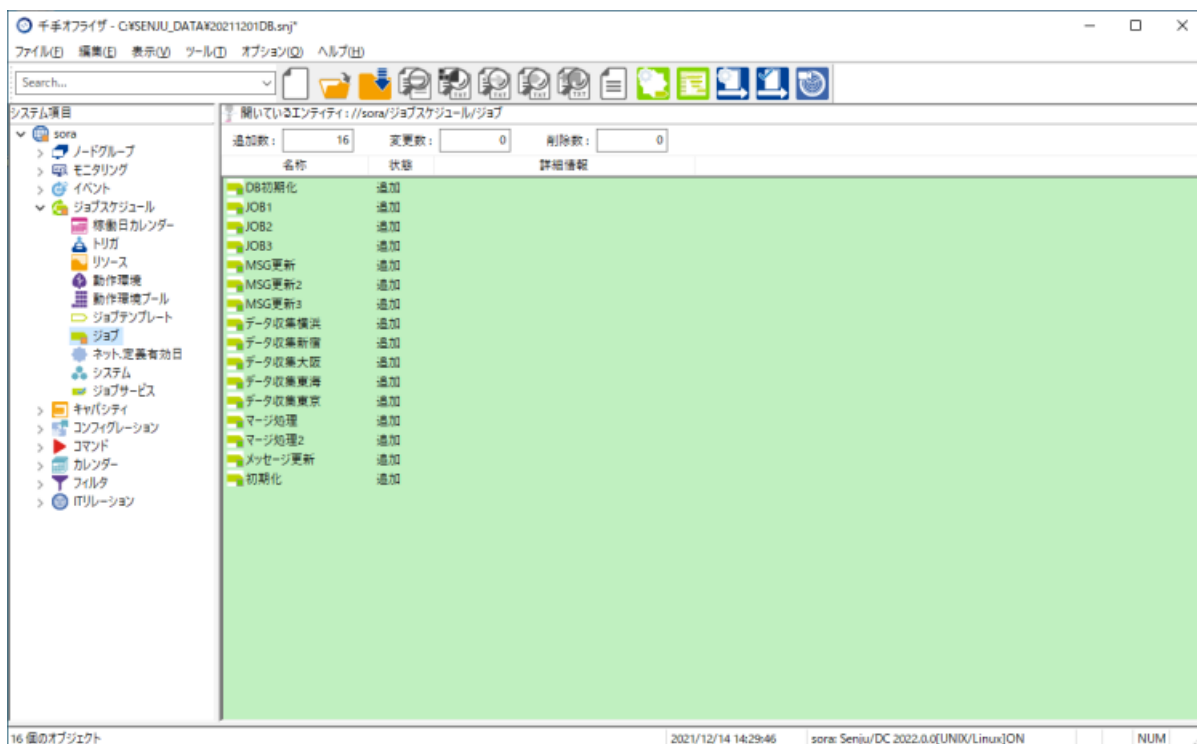


図 4.40 差分表示モード

項目	内容
名称	各エンティティの定義の名称です。
状態	差分の状態です。以下の3つの状態があります。状態が追加、削除、変更の場合、エンティティの状態を示すマークが付きます。エンティティの追加:比較先に存在しておらず、比較元に存在しているもの。該当するエンティティに緑色のマークが付きます。 削除:比較先に存在しており、比較元に存在していないもの。該当するエンティティに赤色のマークが付きます。 変更:比較先、比較元共に定義が存在しているが、定義の内容が異なるもの。該当するエンティティに橙色のマークが付きます。
詳細情報	差分の詳細の内容です。 状態が“変更”の定義のみ表示されます。 差分表示モードの状態、新規作成を行ったエンティティは“(差分表示後追加)”と表示されます。 差分表示モードの状態、変更を行ったエンティティは“(差分表示後編集)”と表示されます。

注釈

- 差分情報が多い場合は、「詳細情報」項目に表示される文字列が途中で切れる場合があります。その場合は、そのレコードを選択し[編集]→[コピー]を行い、TXTファイルなどに貼り付けを行って参照して下さい。
- エンティティの状態を示すマークが上位のエンティティに伝播する場合、追加、削除、変更いずれの場合でも橙色のマークが伝播されます。

差分表示モードの画面から通常モードに戻すには、千手オフライザの[ファイル]→[全体の表示]メニューを選択して下さい。

4.2.4. ランブックチェッカを使用したブックの分岐チェック

ランブックチェッカでは、現在登録されているブックの分岐の動作チェックを行うことができます。分岐の動作チェックを行うことにより、分岐条件によって後続のどのセクションが実行されるのかを確認することができ、定義ミスなどによって実際の運用でエラーが起こるのを未然に防ぐことができます。また、セクション、チャプター及び分岐を図で表示することにより、視覚的に定義の参照を行うことができます。セクション、チャプター、分岐の先行関係も図で表示されるため、ブック/チャプター内のセクション、チャプター及び分岐の先行関係を参照しやすくなっています。

千手オフライザの[ツール]→[ランブックチェッカ]メニューを選択して下さい。表示されたランブックチェッカにて、チェック対象のブックを選択するため、ランブックチェッカの[ファイル]→[チェック対象選択]メニューを選択して下さい。表示されたランブックチェッカを [差分対象フォルダ選択ダイアログ](#) に示します。

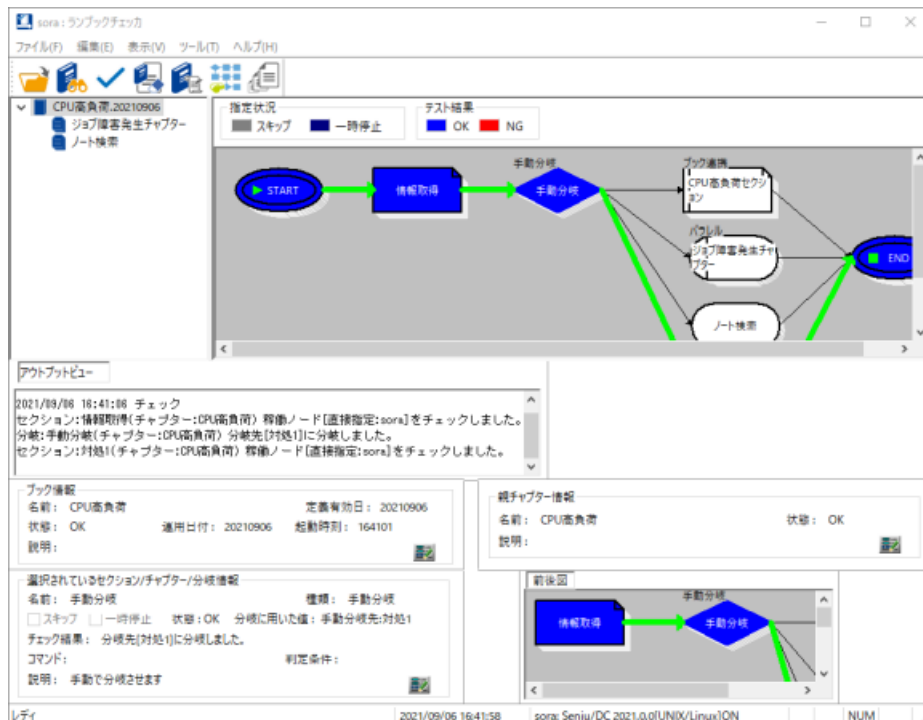


図 4.41 ランブックチェッカ

ランブックチェッカの使用法については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

4.2.5. ルールのシミュレーション

ルールのシミュレーション機能では、メッセージアクションの全般設定、ルールグループ、ルールに対してメッセージログを使用してシミュレーションを行いま

す。この機能を使用することで、メッセージが来た際にどのようにメッセージアクションが動作するかを事前に確認することができます。

ルールのシミュレーションは千手ブラウザもしくは千手オフライザで実施します。

注釈

千手ブラウザによるルールのシミュレーションについては、「Senju DevOperation Conductor」ユーザースガイドを参照して下さい。

千手オフライザのツリービューで、<ドメイン>→“イベント”→“オートメーション”→“メッセージアクション”を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューで[ルールのシミュレーション]を選択して下さい。ルールのシミュレーションダイアログ画面が表示されます。

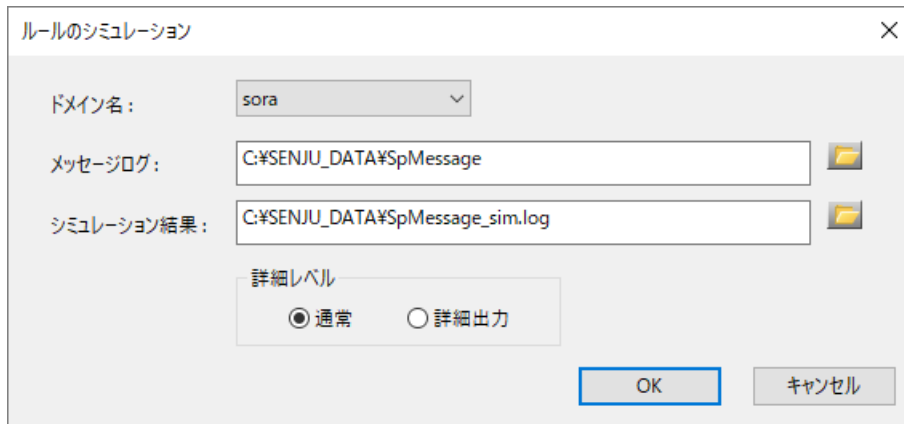


図 4.42 ルールのシミュレーションダイアログ

メッセージログフォームにシミュレーションに使用するメッセージログのパスを入力し、出力ファイルの詳細レベルを選択してOKボタンを押すとシミュレーション結果フォームのファイルパスにシミュレーションの結果が出力されます。

注釈

- メッセージログ、またはシミュレーション結果については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザースガイドを参照して下さい。
- シミュレーション結果のファイルに出力される際に、センサーのノードIDは8バイト目までしか表示されません。
- シミュレーション機能では、条件に本文が指定されているルールの場合、予約メッセージで「付加メッセージ」(メッセージ内容の後ろに括弧付きで付加されるメッセージ)が出力されていない場合でも、メッセージ内容が検索対象となります。

4.2.6. リレーションのシミュレーション

リレーションのシミュレーション機能では、異常とするアイテムや監視タスクなどの条件を指定して状態伝搬のシミュレーションを行います。この機能を使用することで、警告／異常が発生した際にどのように状態が伝搬するかを事前に確認することができます。

リレーションのシミュレーションは千手ブラウザもしくは千手オフライザで実施します。

注釈

千手ブラウザによるリレーションのシミュレーションについては、「Senju DevOperation Conductor」ユーザースガイドを参照して下さい。

千手オフライザのツリービューで、<ドメイン>→“ITリレーション”→“リレーション”を選択します。リストの中から、シミュレーションを実施する定義を選択し、右ボタンをクリックします。コンテキストメニューからツール(リレーションモニタ)を選択するとリレーションモニタが起動します。千手オフライザでは常にリレーションモードで表示されます。

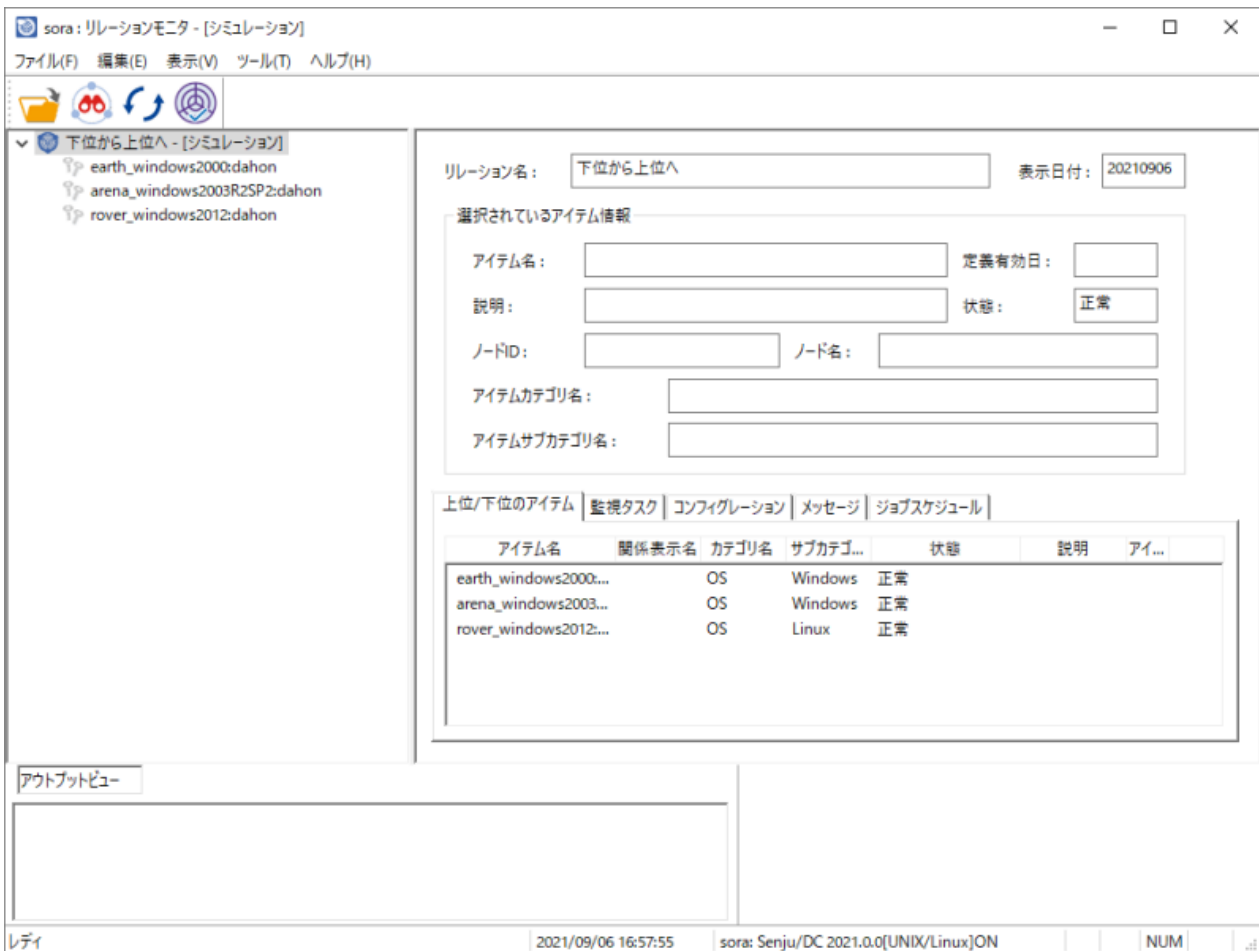


図 4.43 リレーシヨンモニタ (シミュレーションモード)

シミュレーションを行うために、異常とする条件を設定します。[ツール]メニューの[シミュレーション]を選択するか、ツールバーから[シミュレーション]を実行すると出力される画面を下記に示します。



図 4.44 シミュレーションの条件設定ダイアログ(1)

「条件」フレームの[追加]ボタンを押して下さい。条件設定ダイアログが表示されます。

条件設定

直接指定したアイテムを異常とする

アイテム名:

アイテムカテゴリ名:

アイテムサブカテゴリ名:

説明:

指定ノードを異常とする

ノードID:

異常原因

指定ノードの監視タスクを異常とする

指定ノードのコンフィグレーションを異常とする

指定ノードで障害メッセージを発生させる

指定監視タスクを異常とする

監視タスクID:

指定ジョブスケジュールを異常とする

種類

ジョブサービス 実行システム ネット

フレーム ジョブ

ジョブサービスグループ名:

実行システム名:

フレーム名:

ネット名:

ジョブ名:

OK キャンセル

図 4.45 条件設定ダイアログ

条件設定ダイアログでは、異常とする項目(アイテム/ノード/監視タスク/ジョブスケジュール)を選択します。

異常とする条件の登録は、リレーションモニタの[上位/下位のアイテム]タブ、[監視タスク]タブ、[コンフィグレーション]タブ、[メッセージ]タブ、[ジョブスケジュール]タブにおいて、右クリックすることにより開かれるコンテキストメニューで[シミュレーション条件設定]を選択することでも登録することができます。各項目の入力ができたら[OK]ボタンを押します。これで条件の登録が完了しました。異常とする条件は必要に応じて複数登録することができます。

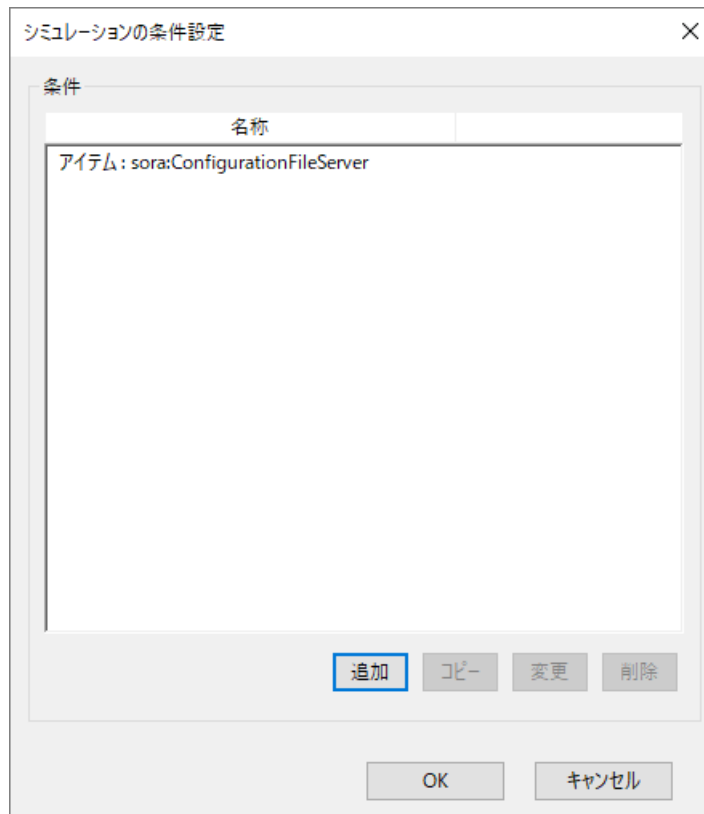


図 4.46 シミュレーションの条件設定ダイアログ(2)

シミュレーションに使用する条件の登録を行いOKボタンを押すとリレーシオンモニタにシミュレーションの結果が出力されます。

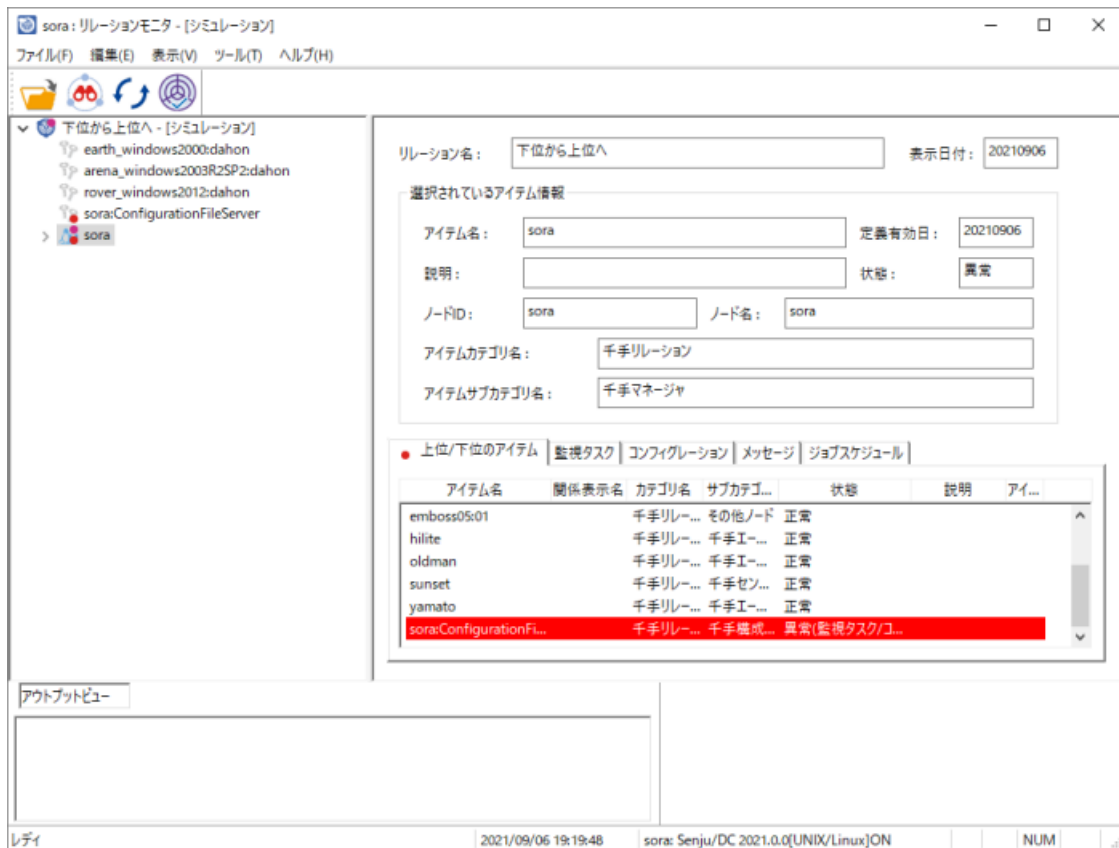


図 4.47 リレーシオンモニタ

注釈

各エンティティの概要や属性(プロパティ)の説明については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

千手オフライザでは、千手ブラウザと同様に2つのネットの定義データを比較して、ネットの差分表を作成する機能があります。

“ジョブスケジュール”直下の“ネット”定義有効日”直下の“ネット”エンティティを選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューで[ネットの差分出力]を選ぶと出る画面を下記に示します。

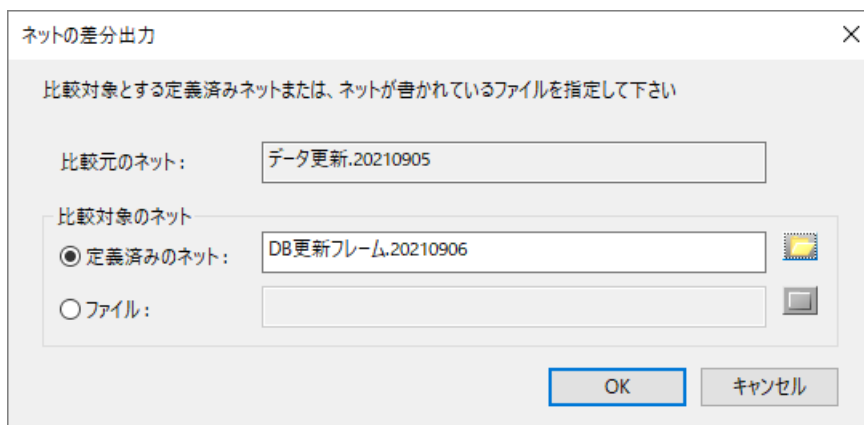


図 4.48 ネットの差分出力ダイアログ

ネットの差分出力ダイアログで、定義済みのネットまたはネットが書かれているファイルを指定し[OK]ボタンを押下すると、指定された2つのネットの定義データを比較して、差分の表を作成し、クリップボードにコピーします。

- 「比較元のネット」フィールド: 比較元のネット名称です。
- 「定義済みのネット」フィールド: 比較するネット名称です。
- 「ネット」選択リストボタン: 比較する定義済みのネットを選択するための、ネット選択ダイアログを表示します。
- 「ファイル」フィールド: 比較するネットが書かれているファイル名です。
- 「ファイル」選択リストボタン: 比較するネットが書かれているファイルを選択するための、ファイル選択ダイアログを表示します。

警告

- ネットが書かれているファイルにフォーマットエラーなどがある場合は、比較することができません。
- ネットが書かれているファイルには、複数のネットが書かれているものは指定できません。
ファイルには1つのネットのみ書かれている状態にして下さい。

クリップボードへのコピーの終了時に表示されるネットの差分出力実行結果ダイアログを下記に示します。

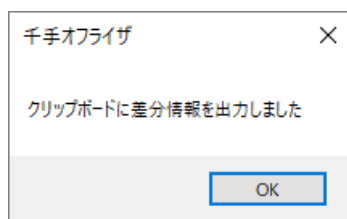


図 4.49 ネットの差分出力実行結果ダイアログ

クリップボードにコピーされたネットの差分データを表計算ソフト等に取り込むことによって、ネットの差分表が作成されます。Microsoft Excel にネットの差分データを貼り付けた場合、下記のように表示されます。

ジョブ/ネット名	種類	カレンダー名	スキップ	一時停止	動作環境名	開始予定時刻	所要時間	正常時コマンド	異常時コマンド	トリガ	前ジョブ/ネット	リソース	遅延時間
13	初期化を追加												
14	DB初期化を追加												
15	データ収集横浜を追加												
16	データ収集新宿を追加												
17	データ収集大阪を追加												
18	データ収集東京を追加												
19	DB更新を追加												
20	マージ処理を追加												
21	マージ処理2を追加												
22	種類を追加												

図 4.50 ネットの差分表

ネットの差分出力機能の詳細については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

4.2.8. 稼働日一覧作成／ジョブ差分一覧／トリガの参照先チェック

千手オフライザでは、千手ブラウザと同様にフレーム作成前の定義データを用いて、指定日にジョブが稼働するかどうか、2つの指定日間の差分、および、トリガの参照先(イベント送信元／ファイル作成元／フレーム連携元)が存在するかどうかの表を作成する機能があります。

注釈

千手オフライザのオプション設定機能を用いて、クリップボードへのコピーと同時にファイル出力を行うことが可能です。ファイル出力オプションを設定した場合、ファイル出力ダイアログが表示され、出力するファイル名を指定して保存します。詳細は「千手オフライザオプション」を参照して下さい。

“ジョブスケジュール”直下の“システム”エンティティを選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューで[稼働日一覧作成]を選ぶと出る画面を下記に示します。

稼働日一覧作成/トリガの参照先チェック ×

作成内容

稼働日一覧 ジョブスケジュールの定義データから稼働日一覧を作成し、クリップボードにコピーします。

差分一覧 ジョブスケジュールの定義データから指定された2つの日付での差分一覧を作成し、クリップボードにコピーします。

トリガの参照先チェック トリガの参照先が存在しているかチェックして結果一覧を作成し、クリップボードにコピーします。

開始日: (YYYYMMDD)

終了日: (YYYYMMDD)

システム名:

フレーム名:

図 4.51 稼働日一覧作成/トリガの参照先チェックダイアログ

「システム」エンティティ直下の「ネット」エンティティを選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューで「稼働日一覧作成/トリガの参照先チェック」を選択した場合、選択したネットに対し稼働日一覧作成/トリガの参照先チェックダイアログが表示されます。複数のシステム及び、複数のネットを選択して実行することも可能です。

稼働日一覧作成/トリガの参照先チェックダイアログで「稼働日一覧」のラジオボタンを選択し、開始日及び、終了日を指定し[OK]ボタンを押下すると、指定された期間の運用日付にジョブが稼働するかどうかのデータを作成し、クリップボードにコピーします。

- 「開始日」選択リストボタン: ジョブ稼働日一覧の、開始日を選択するための、日付入力ダイアログを表示します。
- 「終了日」選択リストボタン: ジョブ稼働日一覧の、終了日を選択するための、日付入力ダイアログを表示します。
- 「システム名」フィールド: 選択されたシステム名称です。
- 「フレーム名」フィールド: 選択されたネットに対応するフレーム名称です。

警告

ジョブ稼働日一覧の開始日と終了日の期間の上限は31日間です。

クリップボードへのコピーの終了時に表示されるジョブ稼働日一覧作成実行結果ダイアログを下記に示します。表示内容は、千手オフライザのオプションの稼働日一覧/トリガの参照先チェックの結果出力制御オプションの値によって変わります。

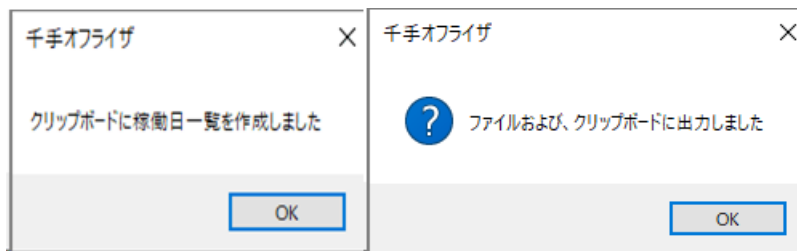


図 4.52 ジョブ稼働日一覧作成実行結果ダイアログ

クリップボードにコピーされたジョブ稼働日一覧のデータを表計算ソフト等に取り込むことによって、ジョブ稼働日一覧表が作成されます。Microsoft Excel にジョブ稼働日一覧のデータを貼り付けた場合、下記のように表示されます。

ネット定義有効日	ジョブ名	DB更新フレーム	説明
20210906	初期化	DB更新フレーム 20210906	× EC
	DB初期化	DB更新フレーム 20210906	× EC
	データ収集横浜	DB更新フレーム 20210906	× EC
	データ収集新宿	DB更新フレーム 20210906	× EC

図 4.53 ジョブ稼働日一覧表

稼働日一覧作成／ジョブ差分一覧／トリガの参照先チェック機能の詳細については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

4.2.9. 実行システム作成チェック

千手オフライザでは、千手ブラウザと同様に登録されているシステムから実行システムが作成できるかのチェックを行い結果を表示する機能があります。定義したシステムが実行システム作成時に正常に運用されるのかチェックを定期的に行うことで、事前に問題のあるフレームを把握することができます。

その際に表示される実行結果ダイアログを下記に示します。

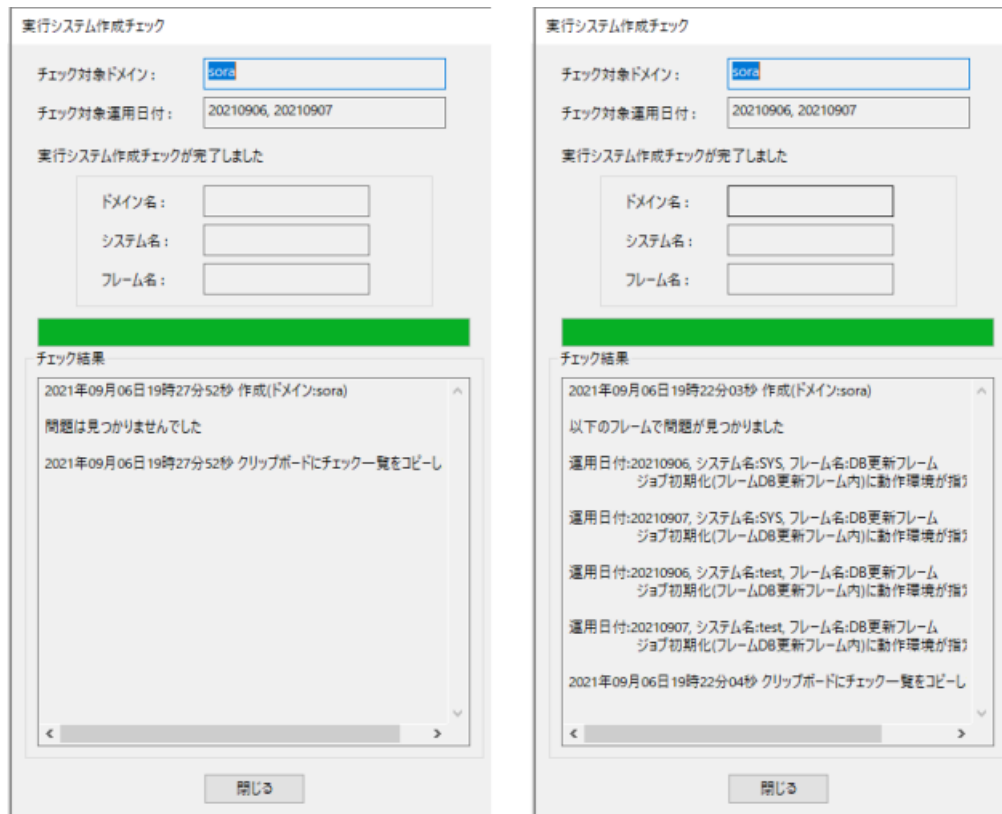


図 4.54 実行結果ダイアログ

この機能は、千手オフライザで「ジョブスケジュール」エンティティを選択し、コンテキストメニューから[実行システム作成チェック]を実行することで利用可能です。

クリップボードにコピーされた実行システム作成チェックデータを表計算ソフト等に取り込むことによって、実行システム作成チェック一覧が作成されます。Microsoft Excel に実行システム作成チェックデータを貼り付けた場合、下記のように表示されます。

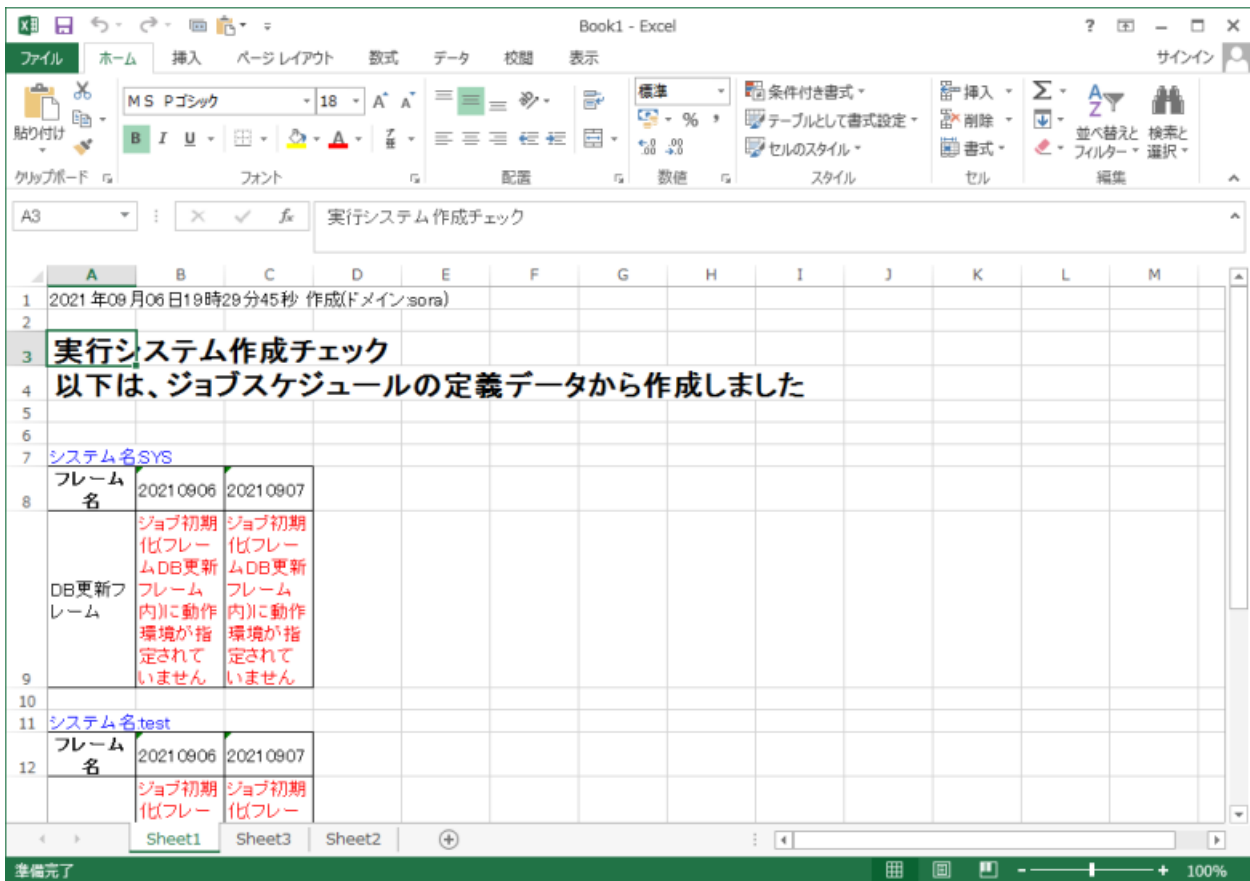


図 4.55 実行システム作成チェック一覧

実行システム作成チェック機能の詳細については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

4.2.10. 関係する項目一覧作成

千手オフラインでは、千手ブラウザと同様にジョブスケジュールの指定したエンティティ(稼働日カレンダー、トリガ、リソース、動作環境、ジョブ、ネット)を利用している関係するエンティティを、一括でクリップボードにコピーし、一覧表を作成することができます。

千手オフラインで“ジョブスケジュール”直下のエンティティ(稼働日カレンダー、トリガ、リソース、動作環境、ジョブ、ネット)を選択し、右ボタンをクリックして出るコンテキストメニューで[関係する項目一覧作成]を選びます。

クリップボードへのコピー処理中に表示されるダイアログを下記に示します。

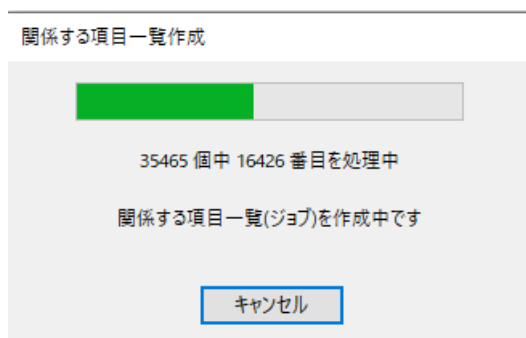


図 4.56 関係する項目一覧処理中ダイアログ

クリップボードへのコピーの終了時に表示されるダイアログを下記に示します。

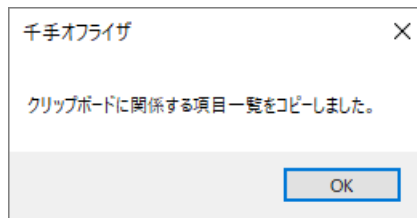


図 4.57 関係する項目一覧作成結果ダイアログ

クリップボードにコピーされた関係する項目一覧のデータを表計算ソフト等に取り込むことによって、関係する項目一覧表が作成されます。Microsoft Excel に関係する項目一覧のデータを貼り付けた場合、下記のように表示されます。

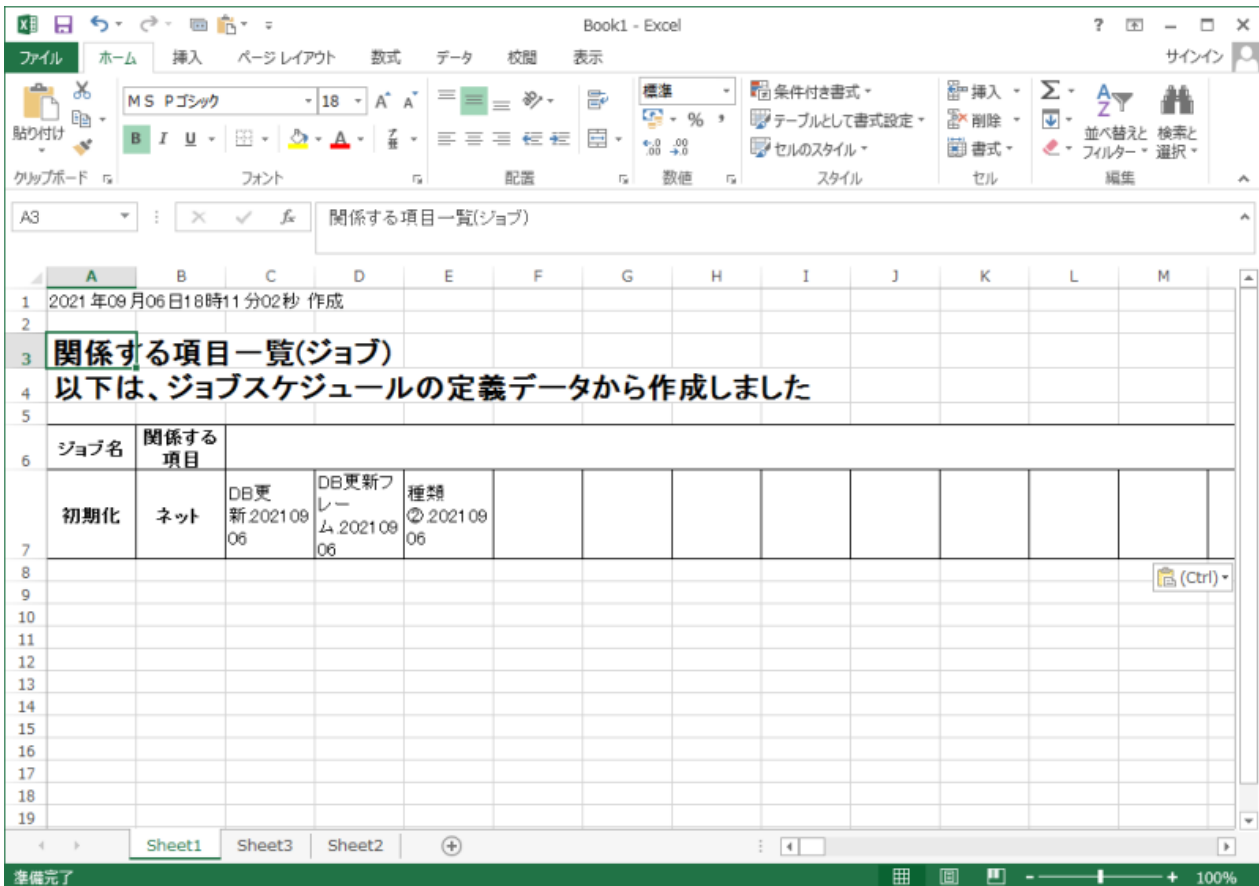


図 4.58 関係する項目一覧表

関係する項目一覧作成機能の詳細については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

4.3. データのリリース

4.3.1. データのリリースについて

千手オフライザでデータの作成・チェックが完了後、本番環境にリリースしたいジョブスケジュールデータの書き出しを行います。千手オフライザでは、差分があるジョブスケジュールデータのみを書き出す機能もサポートしています。

- データの書き出し
- データの書き出し(差分のみ)
- データの一括書き出し
- データの一括書き出し(差分のみ)

4.3.2. データの書き出し

千手オフライザでは、千手ブラウザ同様に作成した定義データをMicrosoft Excelなどの表計算ソフトが取り扱えるデータ形式に書き出す機能があります。

千手オフライザの書き出し機能では、以下の定義データの書き出しを行うことができます。

- ノードグループ
- ノード情報
- 監視項目
- 監視タスク
- 計算式
- ログフィルタ
- JSONログフィルタ
- イベントログフィルタ
- 週間スケジュール
- タスクスケジュール
- メッセージ
- 営業日カレンダー
- メッセージアクション(全般設定)
- メッセージアクション
- メールテンプレート
- メール連絡先
- 連絡先グループ
- セクションテンプレート
- ブック
- メッセージフィルタ
- 営業日カレンダー
- 稼働日カレンダー
- トリガ
- リソース
- 動作環境
- 動作環境プール
- ジョブ
- ネット.定義有効日
- システム
- ジョブサービス
- ジョブレポート
- 構成管理ノード
- 接続設定
- 構成管理項目
- 実行ユニット
- 履歴表示設定
- アイテムグループ
- アイテム
- リレーション

[データの書き出し]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オフライザで「ノードグループ」エンティティ、「ノードグループ」エンティティ直下のノードグループ、「モニタリング」→「カスタムカテゴリ」エンティティ直下の「監視項目」、「計算式」、「カレンダー」エンティティ直下の「週間スケジュール」、「タスクスケジュール」、「フィルタ」エンティティ直下の「ログフィルタ」、「JSONログフィルタ」、「イベントログフィルタ」、または「イベント」エンティティ直下の「メッセージ」、「イベント」→「オートメーション」直下の「メッセージアクション」、「メッセージテンプレート」、「メール連絡先」、「連絡先グループ」、「イベント」→「オートメーション」→「ランブックオートメーション」直下の「セクションテンプレート」、「ブックグループ」エンティティ、「フィルタ」エンティティ直下の「メッセージフィルタ」、または「カレンダー」エンティティ直下の「営業日カレンダー」エンティティ、「ジョブスケジュール」エンティティ直下の「稼働日カレンダー」、「トリガ」、「リソース」、「動作環境」、「動作環境プール」、「ジョブ」、「ネット.定義有効日」、「システム」、「ジョブサービス」、「ジョブレポート」エンティティ、または「コンフィグレーション」エンティティ直下の「構成管理ノード」、「接続設定」、「構成管理項目」、「実行ユニット」、「履歴表示設定」、または「ITリレーション」エンティティ直下の「アイテムグループ」、「アイテム」、「リレーション」(以下システム項目エンティティと呼ぶ)を選択した状態。
2. ツリービューでシステム項目エンティティを選択し、リストビューで1つも選択しない状態。

データの書き出し機能の詳細については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

4.3.3. データの書き出し(差分のみ)

千手オフライザでは、差分表示モードの状態でのデータの書き出しを行うことにより、差分があるエンティティのデータのみを書き出すことができます。

警告

- 書き出される差分データは、差分表示モードでの“状態”が、“変更”、“追加”のステータスのデータです。“削除”のステータスのデータは反映されません。
- 監視タスクのデータ書き出し時に書き出される差分データは、ノード単位でのデータになります。差分表示モードでの“状態”が、“変更”、“追加”のステータスのノードに設定されている全ての監視タスクが書き出されるので注意して下さい。

以下の手順により、データの書き出しを行うことにより、差分があるエンティティのデータのみを書き出すことができます。

1. 千手オフライザを差分表示モードにします。

差分表示モードについては、「[千手オフライザデータファイル間の差分表示](#)」、「[千手書き出しテキストファイルとの差分表示](#)」を参照して下さい。

2. データの書き出しを行うエンティティを選択し、右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示します。[データの書き出し]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オフライザで “ノードグループ”エンティティ、“カレンダー”エンティティ直下の“週間スケジュール”、“タスクスケジュール”、“フィルタ”エンティティ直下の“ログフィルタ”、“JSONログフィルタ”、“イベントログフィルタ”、または“イベント”エンティティ直下の“メッセージ”、“イベント”→“オートメーション”直下の“メッセージアクション”、“メッセージテンプレート”、“メール連絡先”、“連絡先グループ”、“イベント”→“オートメーション”→“ランブックオートメーション”直下の“セクションテンプレート”、“ブックグループ”エンティティ、“フィルタ”エンティティ直下の“メッセージフィルタ”、または“カレンダー”エンティティ直下の“営業日カレンダー”エンティティ、“ジョブスケジュール”エンティティ直下の“稼働日カレンダー”、“トリガ”、“リソース”、“動作環境”、“動作環境プール”、“ジョブ”、“ネット.定義有効日”、“システム”、“ジョブサービス”、“ジョブレポート”エンティティ、または“コンフィグレーション”エンティティ直下の“構成管理ノード”、“接続設定”、“構成管理項目”、“実行ユニット”、“履歴表示設定”(以下システム項目エンティティと呼ぶ)を選択した状態。
2. ツリービューでシステム項目エンティティを選択し、リストビューで1つも選択しない状態。

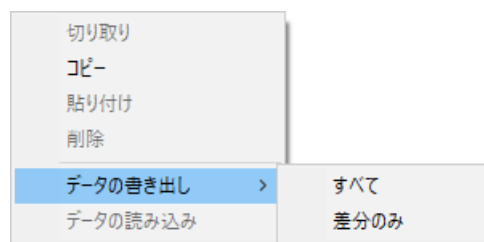


図 4.59 [データの書き出し]コンテキストメニュー

3. 表示されたコンテキストメニューで[データの書き出し]→[差分のみ]を選択します。表示されるデータの書き出しダイアログを 下記に示します。

注釈

コンテキストメニューで[[データの書き出し]→[すべて]を選択した場合は、差分の無いデータも含めた全てのデータの書き出しを行います。

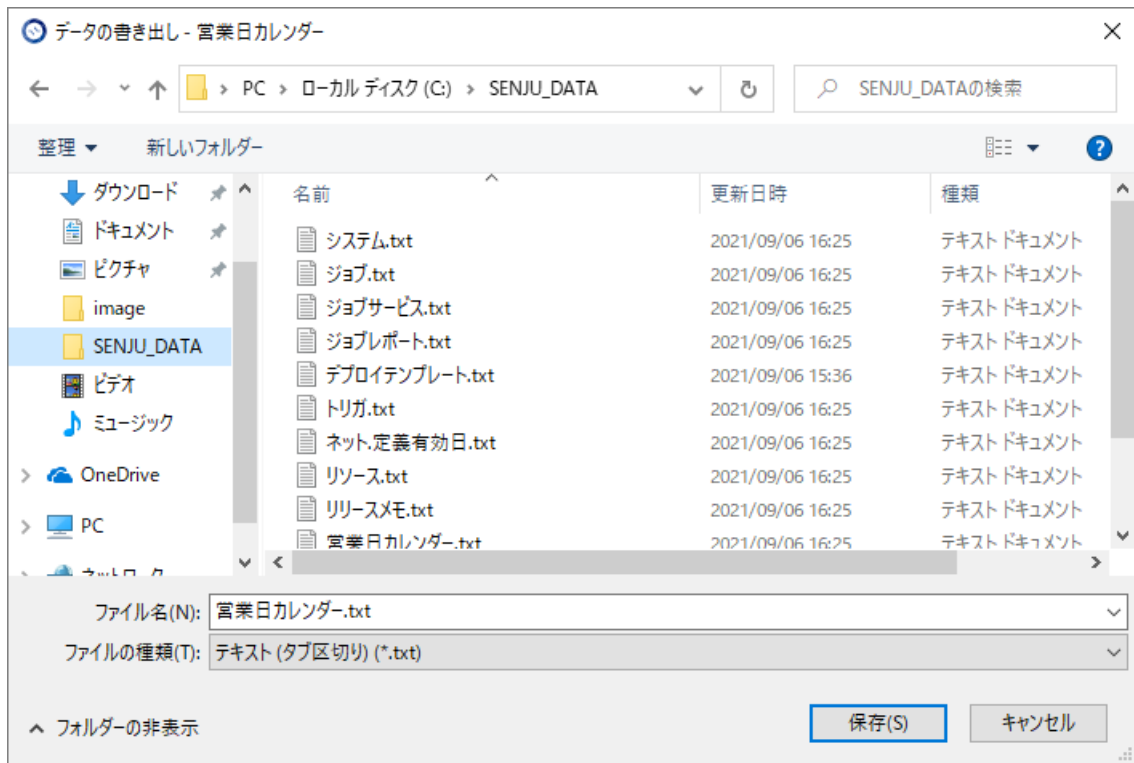


図 4.60 データの書き出しダイアログ

- データの書き出しダイアログでファイルを指定し[保存]ボタンを押すと、指定されたファイルに千手オフライザで選択されたものを書き出します。ファイルへの保存の終了時に表示されるデータの書き出し実行結果ダイアログを下記に示します。

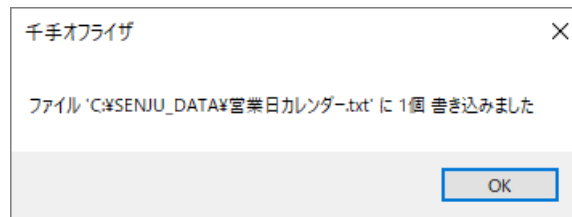


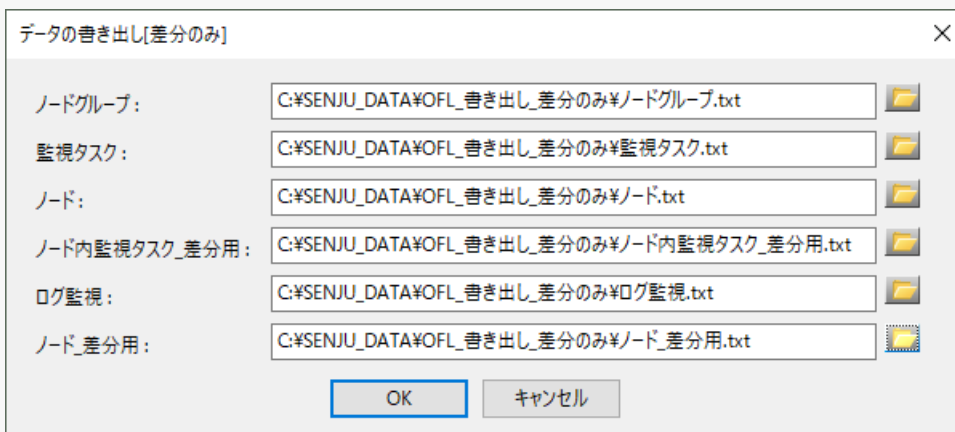
図 4.61 データの書き出し実行結果ダイアログ

注釈

監視項目のデータ書き出し時には、監視項目のデータは書き出されますが、監視項目のカテゴリのデータは書き出されません。そのため、千手ブラウザや千手オフライザに監視項目のデータを読み込む際には、読み込む監視項目が所属するカテゴリがすべて存在するように、存在しないカテゴリは事前に作成しておく必要があります。

注釈

- ノード情報を書き出す場合、下記図のように、システム監視情報は「ノード内監視タスク_差分用.txt」に出力され、ログ監視情報は「ログ情報.txt」に出力されます。
- 「ノード.txt」は下位バージョンの読み込みで利用するため、生成されたものです。



4.3.4. データの一括書き出し

エンティティの定義データの書き出し機能には、定義データの各エンティティ毎にファイル名を指定する方法以外に、出力フォルダを指定しての定義データを一括で書き出す機能があります。

定義データの一括書き出し機能で書き出しを行うことができる定義データは以下の定義データです。

- ノードグループ
- ノード情報
- 監視項目
- 監視タスク
- 計算式
- ログフィルタ
- JSONログフィルタ
- イベントログフィルタ
- 週間スケジュール
- タスクスケジュール
- メッセージ
- メッセージアクション(全般設定)
- メッセージアクション
- メールテンプレート
- メール連絡先
- 連絡先グループ
- セクションテンプレート
- ブック
- メッセージフィルタ
- 営業日カレンダー
- 稼働日カレンダー
- トリガ
- リソース
- 動作環境
- 動作環境プール
- ジョブ
- ネット.定義有効日
- システム
- ジョブサービス
- ジョブレポート
- 構成管理ノード
- 接続設定
- 構成管理項目
- 実行ユニット
- 履歴表示設定
- アイテムグループ
- アイテム
- リレーション

[データの一括書き出し]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オフライザで“ノードグループ”エンティティ、“イベント”エンティティ、“ジョブスケジュール”エンティティ、“コンフィグレーション”エンティティ、“ITリレーション”エンティティを選択した状態。
2. ツリービューで“ノードグループ”エンティティ、“イベント”エンティティ、“ジョブスケジュール”エンティティ、“コンフィグレーション”エンティティ、“ITリレーション”エンティティを選択し、リストビューで1つも選択しない状態。

コンテキストメニューで[データの書き出し]を選ぶと出る画面を下記に示します。

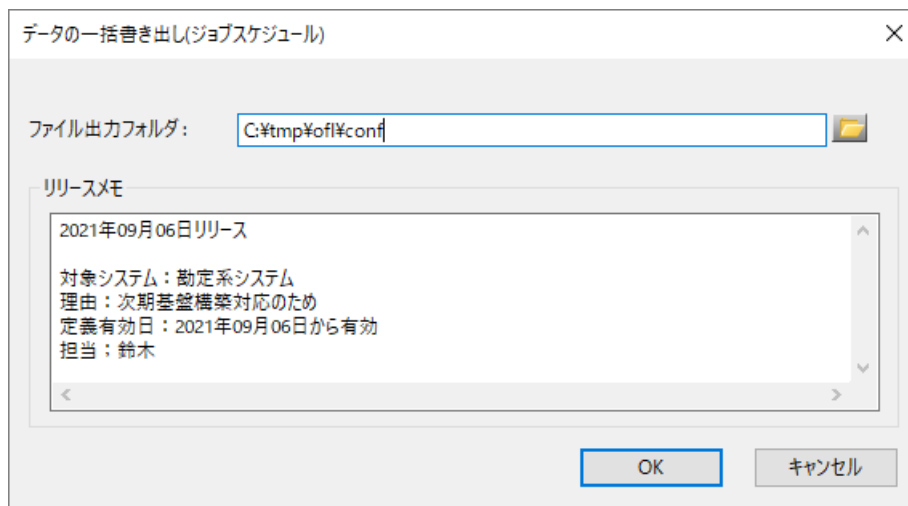


図 4.63 データの一括書き出しダイアログ(1)

データの一括書き出しダイアログでファイル出力フォルダを指定し[OK]ボタンを押すと、指定されたフォルダに各エンティティの定義データを以下のファイル名で書き出します。

- ノードグループ.txt
- ノード.txt
- カスタム監視項目.txt
- 監視タスク.txt
- 計算式.txt
- ログフィルタ.txt
- JSONログフィルタ.txt
- イベントログフィルタ.txt
- 週間スケジュール.txt
- タスクスケジュール.txt
- メッセージ.txt
- メッセージアクション(全般設定).txt
- メッセージアクション.txt
- メールテンプレート.txt
- メール連絡先.txt
- 連絡先グループ.txt
- セクションテンプレート.txt
- ブック.txt
- メッセージフィルタ.txt
- 営業日カレンダー.txt
- 稼働日カレンダー.txt
- トリガ.txt
- リソース.txt
- 動作環境.txt
- 動作環境プール.txt
- ジョブ.txt
- ネット.定義有効日.txt
- システム.txt
- ジョブサービス.txt
- ジョブレポート.txt
- 構成管理ノード.txt
- 接続設定.txt
- 構成管理項目.txt
- 実行ユニット.txt
- 履歴表示設定.txt
- アイテムグループ.txt
- アイテム.txt

- リレーション.txt

書き出されるデータファイルのフォーマットは、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

注釈

監視項目のデータ書き出し時には、監視項目のデータは書き出されますが、監視項目のカテゴリのデータは書き出されません。そのため、千手ブラウザや千手オフライザに監視項目のデータを読み込む際には、読み込む監視項目が所属するカテゴリがすべて存在するように、存在しないカテゴリは事前に作成しておく必要があります。

また、データの一括書き出しダイアログでリリースメモに入力した文字列は、ファイル出力フォルダに以下の名称のファイルとして保存されます。

- リリースメモ.txt

データの一括書き出しでリリースメモ.txtに出力されるフォーマットを説明します。

(リリースメモ)

(ファイル出力フォルダ)

```
項目名<\t>定義数<\t>ファイルサイズ<\t>ファイル作成日時<\t>ファイル名
ノードグループ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ノードグループ.txt
ノード<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ノード.txt
カスタム監視項目<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>カスタム監視項目.txt
監視タスク<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>監視タスク.txt
計算式<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>計算式.txt
ログフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ログフィルタ.txt
JSONログフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>JSONログフィルタ.txt
イベントログフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>イベントログフィルタ.txt
週間スケジュール<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>週間スケジュール.txt
タスクスケジュール<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>タスクスケジュール.txt
メッセージ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージ.txt
メッセージアクション(全般設定)<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージアクション(全般設定).txt
メッセージアクション<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージアクション.txt
メールテンプレート<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メールテンプレート.txt
メール連絡先<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メール連絡先.txt
連絡先グループ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>連絡先グループ.txt
セクションテンプレート<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>セクションテンプレート.txt
ブック<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ブック.txt
メッセージフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージフィルタ.txt
営業日カレンダー<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>営業日カレンダー.txt
稼働日カレンダー<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>稼働日カレンダー.txt
トリガ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>トリガ.txt
リソース<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>リソース.txt
動作環境<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>動作環境.txt
動作環境プール<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>動作環境プール.txt
ジョブ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ジョブ.txt
ネット.定義有効日<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ネット.定義有効日.txt
システム<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>システム.txt
ジョブサービス<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ジョブサービス.txt
ジョブレポート<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ジョブレポート.txt
構成管理ノード<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>構成管理ノード.txt
接続設定<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>接続設定.txt
構成管理項目<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>構成管理項目.txt
実行ユニット<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>実行ユニット.txt
履歴表示設定<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>履歴表示設定.txt
アイテムグループ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>アイテムグループ.txt
アイテム<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>アイテム.txt
リレーション<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>リレーション.txt
```

4.3.5. データの一括書き出し(差分のみ)

差分表示モードの状態ではデータの一括書き出しを行うことにより、差分があるエンティティのデータの一括書き出しを行うことができます。

注釈

- 書き出される差分データは、差分表示モードでの“状態”が、“変更”、“追加”のステータスのデータです。“削除”のステータスのデータは反映されません。
- 監視タスクのデータ書き出し時に書き出される差分データは、ノード単位でのデータになります。差分表示モードでの“状態”が、“変更”、“追加”のステータスのノードに設定されている全ての監視タスクが書き出されるので注意して下さい。

以下の手順により、データの一括書き出しを行うことにより、差分があるエンティティのデータのみを一括書き出しすることができます。

1. 千手オフライザを差分表示モードにします。

差分表示モードについては、「千手オフライザデータファイル間の差分表示」、「千手書き出しテキストファイルとの差分表示」を参照して下さい。

2. 千手オフライザで"ジョブスケジュール"エンティティを選択し、右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示します。[データの一括書き出し]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オフライザでノードグループ"エンティティ"、"イベント"エンティティ、"ジョブスケジュール"エンティティ、"コンフィグレーション"エンティティを選択した状態。
2. ツリービューで"ノードグループ"エンティティ、"イベント"エンティティ、"ジョブスケジュール"エンティティ、"コンフィグレーション"エンティティを選択し、リストビューで1つも選択しない状態。

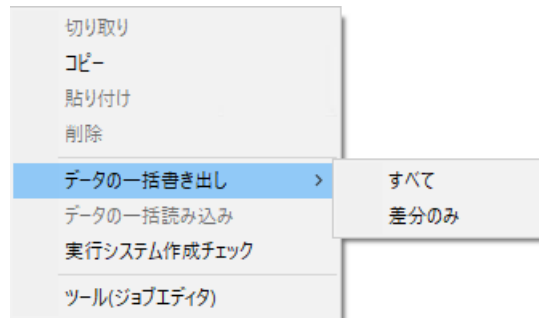


図 4.64 [データの一括書き出し]コンテキストメニュー

3. 表示されたコンテキストメニューで[データの一括書き出し]→[差分のみ]を選択します。表示されるデータの書き出しダイアログを下記に示します。

注釈
コンテキストメニューで[データの一括書き出し]→[すべて]を選択した場合は、差分の無いデータも含めた全てのデータの書き出しを行います。

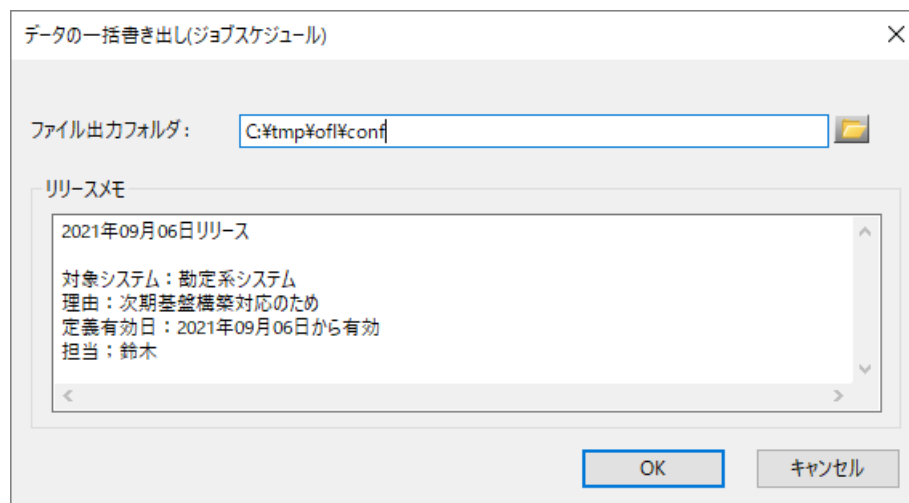


図 4.65 データの一括書き出しダイアログ(2)

4. データの一括書き出しダイアログでファイル出力フォルダを指定し[OK]ボタンを押すと、指定されたフォルダに各エンティティの定義データを以下のファイル名で書き出します。

- ノードグループ.txt
- ノード.txt
- ノード_差分用.txt
- ノード内監視タスク_差分用.txt
- カスタム監視項目.txt
- ログ情報.txt
- 監視タスク.txt
- 計算式.txt
- ログフィルタ.txt
- JSONログフィルタ.txt
- イベントログフィルタ.txt
- 週間スケジュール.txt
- タスクスケジュール.txt
- メッセージ.txt

- メッセージアクション(全般設定).txt
- メッセージアクション.txt
- メールテンプレート.txt
- メール連絡先.txt
- 連絡先グループ.txt
- セクションテンプレート.txt
- ブック.txt
- メッセージフィルタ.txt
- 営業日カレンダー.txt
- 稼働日カレンダー.txt
- トリガ.txt
- リソース.txt
- 動作環境.txt
- 動作環境プール.txt
- ジョブ.txt
- ネット.定義有効日.txt
- システム.txt
- ジョブサービス.txt
- ジョブレポート.txt
- 構成管理ノード.txt
- 接続設定.txt
- 構成管理項目.txt
- 実行ユニット.txt
- 履歴表示設定.txt

書き出されるデータファイルのフォーマットは、「Senju DevOperation Conductor」ユーザーズガイドを参照して下さい。

注釈

監視項目のデータ書き出し時には、監視項目のデータは書き出されますが、監視項目のカテゴリのデータは書き出されません。そのため、千手ブラウザや千手オフライザに監視項目のデータを読み込む際には、読み込む監視項目が所属するカテゴリがすべて存在するように、存在しないカテゴリは事前に作成しておく必要があります。

また、データの一括書き出しダイアログでリリースメモに入力した文字列は、ファイル出力フォルダに以下の名称のファイルとして保存されません。

リリースメモ.txt

データの一括書き出し(差分のみ)でリリースメモ.txtに出力されるフォーマットを説明します。

```

(リリースメモ)

(千手オプライザファイル情報)

(差分対象ファイル情報)

(ファイル出力フォルダ)

項目名<\t>定義数<\t>ファイルサイズ<\t>ファイル作成日時<\t>ファイル名
ノードグループ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ノードグループ.txt
ノード<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ノード.txt
ノード_差分用<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ノード_差分用.txt
ノード内監視タスク_差分用<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ノード内監視タスク_差分用.txt
ログ情報<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ログ情報.txt
カスタム監視項目<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>カスタム監視項目.txt
監視タスク<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>監視タスク.txt
計算式<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>計算式.txt
ログフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ログフィルタ.txt
JSONログフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>JSONログフィルタ.txt
イベントログフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>イベントログフィルタ.txt
週間スケジュール<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>週間スケジュール.txt
タスクスケジュール<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>タスクスケジュール.txt
メッセージ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージ.txt
メッセージアクション(全般設定)<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージアクション(全般設定).txt
メッセージアクション<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージアクション.txt
メールテンプレート<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メールテンプレート.txt
メール連絡先<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メール連絡先.txt
連絡先グループ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>連絡先グループ.txt
セクションテンプレート<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>セクションテンプレート.txt
ブック<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ブック.txt
メッセージフィルタ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>メッセージフィルタ.txt
営業日カレンダー<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>営業日カレンダー.txt
稼働日カレンダー<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>稼働日カレンダー.txt
トリガ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>トリガ.txt
リソース<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>リソース.txt
動作環境<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>動作環境.txt
動作環境プール<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>動作環境プール.txt
ジョブ<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ジョブ.txt
ネット.定義有効日<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ネット.定義有効日.txt
システム<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>システム.txt
ジョブサービス<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ジョブサービス.txt
ジョブレポート<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>ジョブレポート.txt
構成管理ノード<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>構成管理ノード.txt
接続設定<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>接続設定.txt
構成管理項目<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>構成管理項目.txt
実行ユニット<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>実行ユニット.txt
履歴表示設定<\t>(定義数) <\t>(ファイルサイズ) <\t>(ファイル作成日時) <\t>履歴表示設定.txt

```

4.3.6. デプロイテンプレートの書き出し

Senju DevOperation Conductorでは、負荷などに応じて業務サーバーが自動的に増減する環境（例えばAmazon Web Services環境）において、自動的に業務サーバーの変化に追従して適切に業務サーバーを管理対象とする機能があります。ここでは、管理対象の変化対応の一環として業務サーバーを管理対象とするためのデプロイテンプレートの作成、外部デプロイテンプレートの取込について説明します。

[デプロイテンプレートの書き出し]コンテキストメニューは、以下の2つの状態で右ボタンをクリックしてコンテキストメニューを表示させた場合に選択できます。

1. 千手オプライザのツリービューでデプロイノードグループを選択した状態。
2. 千手オプライザのリストビューでデプロイノードグループを選択した状態。

コンテキストメニューで[デプロイテンプレートの書き出し]を選択したときに表示される画面を下記に示します。

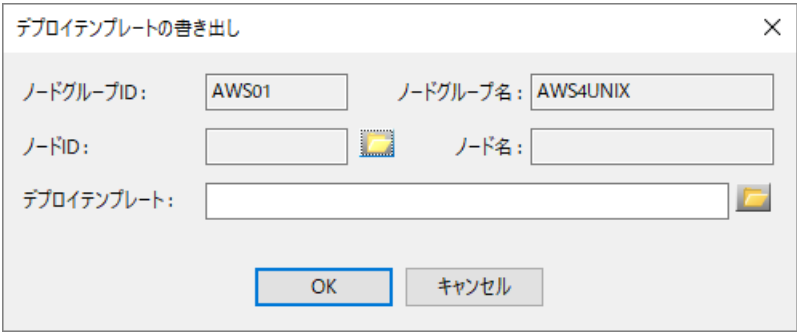


図 4.66 デプロイテンプレートの書き出しダイアログ

デプロイ対象ノード、出力デプロイテンプレートを指定し、[OK]ボタンを押下すると、デプロイノードグループID、デプロイノードグループ名、デプロイ対象ノード情報、デプロイ対象ノードの監視タスク情報をまとめて、指定したデプロイテンプレートが作成されます。デプロイテンプレートの出力時に表示される画面を下記に示します。

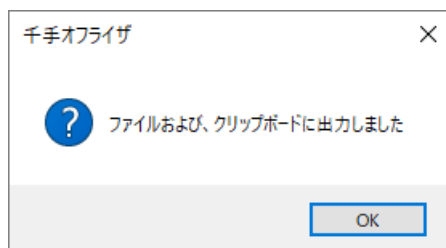


図 4.67 デプロイテンプレートの書き出し結果ダイアログ

4.4. 履歴データの比較

4.4.1. 4ジョブアクティビティからの履歴データの比較

ジョブアクティビティとは、ジョブ、ネット、フレームの稼働履歴を元にしたタイムラインを表示できる機能です。過去の稼働実績と現在の稼働状況を比較してジョブスケジュールの全体状況を確認する場合や、複数の運用日付による稼働状況の差異を分析したい場合に有効です。

ジョブアクティビティには以下の機能があります。

- ジョブ、ネット、フレームのタイムライン表示。
- 2つの運用日付を基準にしたジョブ、ネット、フレームの比較および開始遅延、終了遅延、ロングランの参照。
- ジョブ、ネット、フレームの状態および時間帯による絞り込み。

千手オフライザの[ツール]→[ジョブアクティビティ]メニューを選択して下さい。ジョブアクティビティの比較データ書き出しファイルを開くコモンダイアログが表示されます。

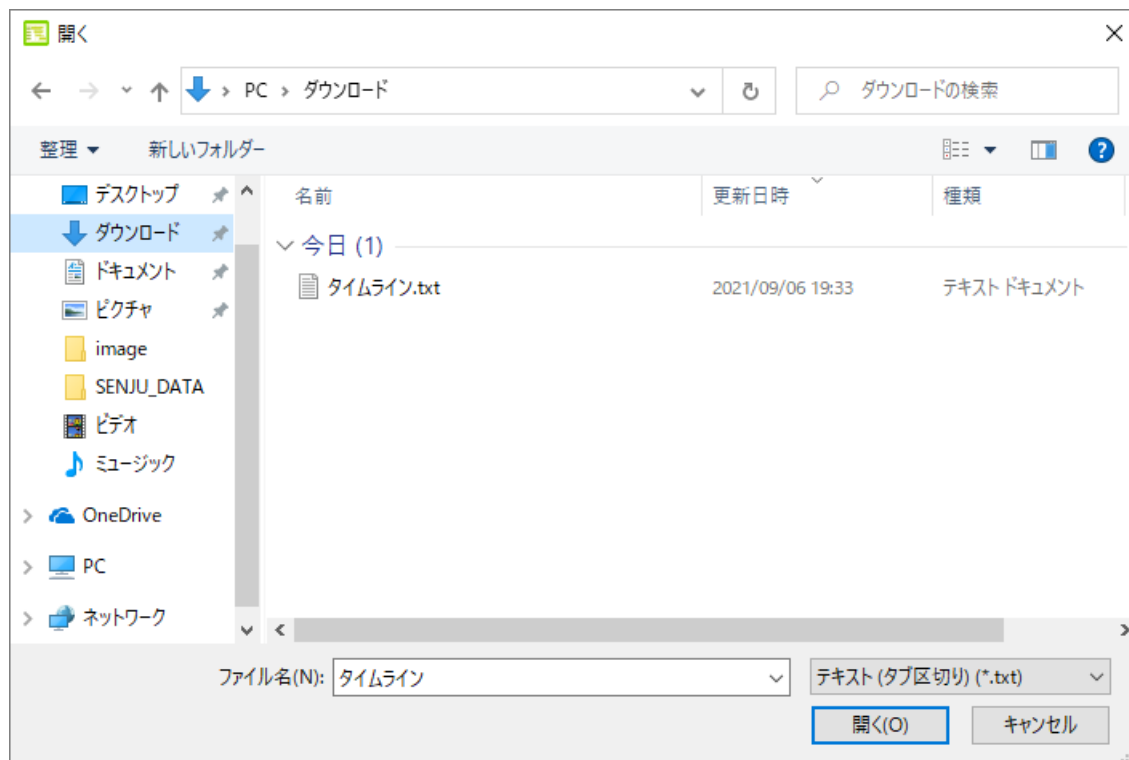


図 4.68 ジョブアクティビティ「開く」コモンダイアログ

ジョブアクティビティの比較データ書き出しファイルを指定して「開く」ボタンを押してください。ジョブアクティビティが起動します。

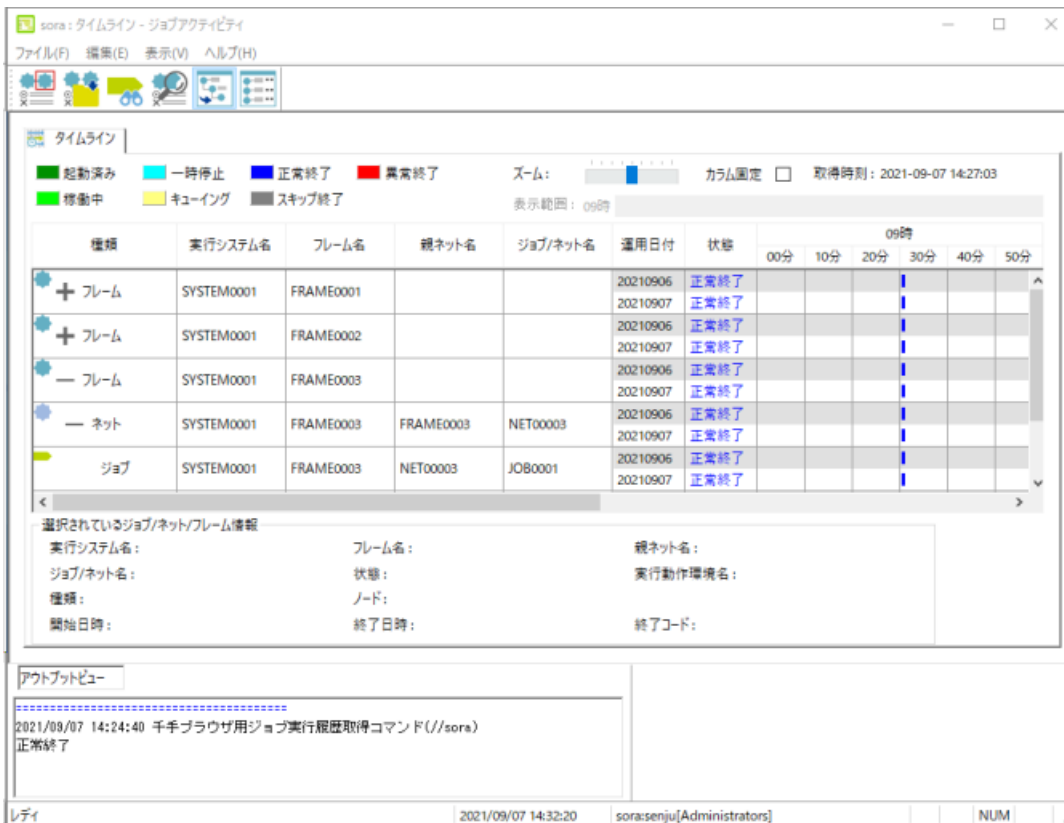


図 4.69 ジョブアクティビティ

ジョブアクティビティの使用方法については、「Senju DevOperation Conductor」ユーザズガイドを参照して下さい。

5. 付録

5.1. 千手オフライザオプション

千手オフライザオプション設定ダイアログから、有効なオプション及び値を設定することにより、千手オフライザのオプション機能の利用が可能になります。

本章では、千手オフライザオプションのオプション名、オプションの内容、オプションの値等について説明します。

注釈

- マスターオフライザオプション

インストールディレクトリ(例:C:\Program Files\Senju Offliser)\SoBin\BrowserOption.txt

千手オフライザを「管理者として実行」で起動した場合の設定ファイル(**BrowserOption.txt**)保存場所になります。このオフライザオプションは全ユーザー共通のものになります。管理者特権(管理者として実行)の時に更新されます。

- ユーザーオフライザオプション

%USERPROFILE%\APPDATA\Roaming\Senju Offliser\SoBin\BrowserOption.txt

千手オフライザを「管理者として実行」で起動しなかった場合の設定ファイル(**BrowserOption.txt**)保存場所になります。

- マスターオフライザオプションを利用する場合は、「管理者として実行」を指定して千手オフライザを起動して下さい。
- ユーザーオフライザオプションを利用する場合は、マスターオフライザオプションとユーザーオフライザオプションの設定値が有効になります。ユーザーオフライザオプションの設定値が優先されます。
- 設定を行ったユーザーと異なるユーザーで千手オフライザを起動した際には設定内容が有効になりません。そのため、どのユーザーでも設定を有効にするには、千手オフライザを「管理者として実行」を指定して起動して下さい。「管理者として実行」を指定して起動できない場合は、千手オフライザを起動するすべてのユーザーで同じ設定を行って下さい。
- 設定したオプションを有効にするには千手オフライザの再起動が必要です。
- 千手オフライザオプションは、設定を行った千手オフライザ機のみ有効です。

オプション名	内容
BrowserOptionEnable	オフライザオプション設定メニューの選択抑止オプション
CalendarWarningEnable	翌年の営業日カレンダー 警告オプション
CheckGenSimDays	実行システム作成チェック運用日付オプション
CheckGenSimTime	実行システム作成チェック時刻オプション
ErrDeflImportEnable	データインポート時の読み込み制御オプション
GnmOsRebootEnable	グローバルノードモニタからのマシン電源制御オプション
GnmSenjuStartStopEnable	グローバルノードモニタからの千手制御オプション
ITRelationForFilterEnable	ネーミングフィルタ適用時のITリレーションエンティティの表示およびリレーションモニタの起動抑止オプション
IncrementalQuickFilterEnable	クイックフィルタの逐次絞り込み機能
JobMonitorOperationEnable	Operators権限のユーザーでジョブモニタでのフレーム定義の編集許可オプション
JobNetFutureValidDateEnable	定義が有効なネットの存在有無チェックオプション
JobWorkDayTableCalendarCheckEnable	ジョブ稼働日一覧/ジョブ差分一覧/トリガの参照先チェックの稼働日カレンダーの指定チェックオプション

オプション名	内容
JobWorkDayTableJobEnvCheckEnable	ジョブ稼働日一覧/ジョブ差分一覧/トリガの参照先チェックの動作環境の指定チェックオプション
LimitsConnectServer	接続可能ドメイン数上限オプション
LimitsDefNameFilter	ネーミングフィルタのフィルタ条件数上限オプション
LimitsMessageLogSize	千手ブラウザメッセージログファイルサイズオプション
LimitsMonTaskInOneProbe	1プローブから監視できるタスク数拡張フラグ
LimitsNumOfJobNetInJobActivity	ジョブアクティビティの最大項目(ジョブ・分岐ジョブ・ネット・フレーム)数
LimitsPexDisplayListItems	ジョブ/ネット/トリガの一覧表示件数抑制オプション
LimitsSpecRBASchBookMon	詳細監視実行ブック数上限オプション
LimitsSpecRunchartFrame	詳細監視フレーム数上限オプション
MakeJobWorkDayTableDays	ジョブ稼働日一覧結果ファイル出力期間オプション
MakeJobWorkDayTableFolder	ジョブ稼働日一覧結果ファイル出力パスオプション
MakeJobWorkDayTableOutputFile	ジョブ稼働日一覧/ジョブ差分一覧/トリガの参照先チェックの結果出力制御オプション
MakeJobWorkDayTableOutputFrame	ジョブ稼働日一覧/ジョブ差分一覧/トリガの参照先チェックの出力フォーマット指定オプション
MakeJobWorkDayTableTime	ジョブ稼働日一覧結果ファイル出力時刻オプション
MessageLogEnable	千手ブラウザメッセージログ出力オプション
MessageMonitorDefaultRelationViewId	メッセージモニタからのデフォルトリレーション名
NetworkHealthCheckInterval	ネットワークヘルスチェックオプション
NumOfPastNodeMessageErr	ログイン時障害メッセージ取得オプション
NumOfPastNodeMessageInfo	ログイン時通常メッセージ取得オプション
NumOfPastNodeMessageReply	ログイン時応答メッセージ取得オプション
NumOfPastNodeMessageWarn	ログイン時警告メッセージ取得オプション
PexPauseSkipContinueEnable	連続スキップ/連続一時停止のメニュー表示オプション
PexRelatingDataExportMakeSubFolder	関係するデータの一括書き出しのフォルダ作成オプション
QuickFilterBgColor	クイックフィルタ有効時の背景色
RelatedToolOpenNodeMonitor	関連ツール選択時ノードモニタ起動オプション
RemoteUpdateEnable	リモートアップデート機能の有効無効オプション
ScheduledBatchExportTime	定時の一括書き出し時刻オプション
ScheduledBatchFileExportFolder	定時の一括書き出し(千手オフラインファイル)オプション
ScheduledBatchTextExportFolder	定時の一括書き出し(テキストファイル)オプション
ScheduledTimelineExportFolder	ジョブアクティビティ比較データの定時の書き出しフォルダオプション
ScheduledTimelineExportTime	ジョブアクティビティ比較データの定時の書き出し時刻オプション
SenjuMenuALIEnable	エイリアスエンティティの表示抑止オプション
SenjuMenuCCMEnable	コンフィグレーションエンティティの表示抑止オプション
SenjuMenuCOMEnable	コマンドエンティティの表示抑止オプション
SenjuMenuEVTEnable	イベントエンティティの表示抑止オプション
SenjuMenuFILEnable	フィルタエンティティの表示抑止オプション
SenjuMenuITREnable	ITリレーションエンティティの表示抑止オプション
SenjuMenuMONEnable	モニタリングエンティティの表示抑止オプション
SenjuMenuMONIcolListEnable	ログ監視エンティティの表示抑止オプション

オプション名	内容
TrialMonitoringLicenseEnable	エクステンションのトライアル利用オプション
TriggerRelatedCheckEnable	関係するトリガをチェックするオプション
VMMNodeMonitorForFilterEnable	ネーミングフィルタ適用時のバーチャルノードモニタの起動抑止オプション
VmmVmControlEnable	バーチャルノードモニタからの仮想マシン制御オプション
OffiserPexIdLimitCompatible	Senju Operation Conductor 2014以前の千手エージェント接続時のジョブスケジュール新機能制限フ
OffiserMsgActUseBasicReg	千手オフライザでのメッセージアクションのルールのシミュレーションで基本正規表現使用の有無フラグ
OffiserSpanYearEnable	オフライザでの年またぎ稼働日振替機能の有無フラグ
OffiserMsgActCondMsgIdUseRegEx	千手オフライザでのメッセージアクション条件のメッセージIDで正規表現使用の有無フラグ

警告

オプション名及びオプションの値は、すべて半角英数字で指定して下さい。

5.2. 制限・注意事項

- 千手オフライザでは、千手マネージャに設定されているライセンスによる、ジョブ定義数/ネット定義数/システム定義数の上限値チェックが行われません。ジョブ定義/ネット定義/システム定義は、以下の拡張ライセンスの最大値まで作成することができます。

内容	定義可能なジョブ数	定義可能なネット数	定義可能なシステム数
Senju Operation Conductor v12.0	100000	20000	200
Senju Operation Conductor 2013	100000	20000	200
Senju Operation Conductor 2014	100000	20000	200
Senju DevOperation Conductor 2016	100000	20000	200
Senju DevOperation Conductor 2018	100000	20000	200
Senju DevOperation Conductor 2020	200000	20000	200

- 千手オフライザの新規作成時に指定する千手のドメインのバージョンによっては使用できない機能や、各エンティティの定義可能文字や入力項目が異なる場合があります。これらの機能は、新規作成時に指定したバージョンの千手ブラウザ、千手マネージャで使用できない機能であったり、入力制限が異なるためです。使用可能な機能の詳細は、各バージョンのユーザーズガイドを参照して下さい。
- ITリレーションのエンティティに関しては、差分の表示機能は実装されていません。